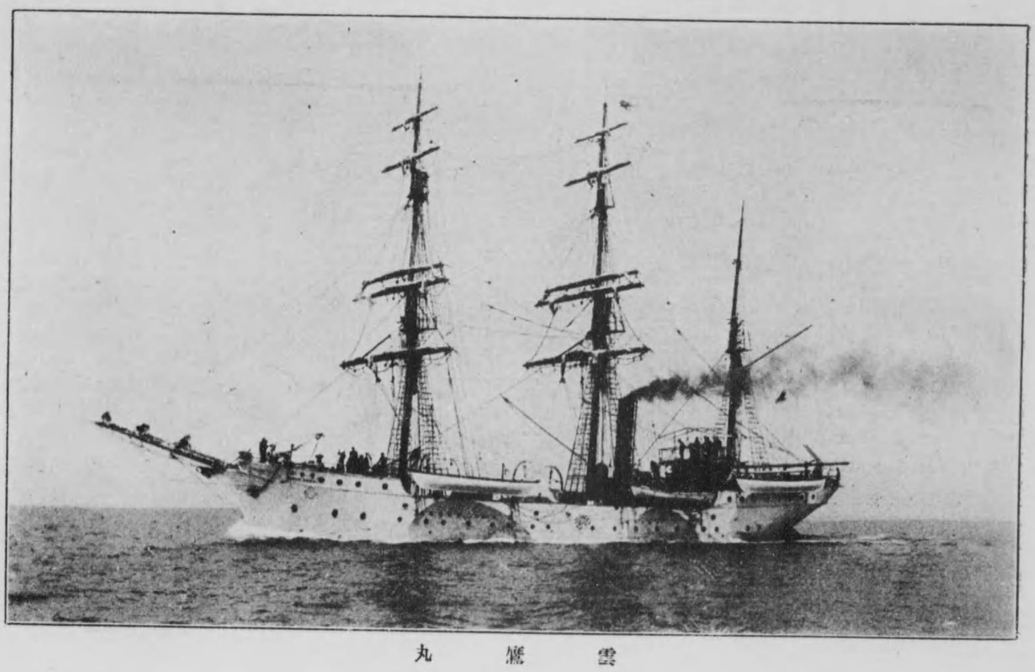
水産講習所一覽

自大正五年七月
至大正六年三月

始

水産講習所本館

296-3
大正 6.8.15 内交



雲　鷹　丸

目次

第一 沿革及組織

第一節 沿革概要……一

第二節 官制及事務規定……三

一 水産講習所官制……三

二 水産講習所處務規定……四

三 水産講習所處務細則……四

第一章 事務分掌……四

第二章 文書取扱……六

第三章 會計……六

第四章 雜則……六

第三節 職員……七

第二 傳習

第一節 規則及規定……一三

一 水産講習所傳習規則……一三

二 水産講習所傳習規定……一五

第一章 本科規定……一五

第二章 遠洋漁業科……二三

第三章 研究科……二四

第四章 別科……二四

書式……二五

實習規程……二七

實習船規程……二八

生徒心得……三〇

寄宿舍規程……三一

三 遠洋漁業練習生規程……三一

第二節 講習功程……三三

一 研究科……三三

二 遠洋漁業科……三三

三 本科……三三

四 別科……四〇

五 指導及講話……四〇

第三 調査及試驗……四〇

第一節 調査及試驗ニ關スル組織……四〇

一　水産講習所試驗規則……四〇
二　水産講習所種苗拂下規則……四二
第二節　各科事業ノ概要……四四
一　漁業基本調査部……四四
二　漁撈試驗部……四六
三　養殖試驗部……四九
四　製造試驗部……五二
五　化學試驗部……五五
六　漁船機械試驗部……五八
七　編纂部……六二
八　試驗鑑定及設計等ノ依頼……六二
九　地方出張……六三
第四　本所敷地建物及諸設備
第一節　廳舍……六四
第二節　諸設備……六四
一　船艇……六四
二　實習場、實驗場及試驗地……六五
三　實驗室其他ノ設備……六七
第五　圖書及標本
第一節　圖書及標本ニ關スル規定……六八
第二節　圖書及標本ノ現況……七〇
第六　在外研究生
第一　在外研究生規程……七〇
第二　戰時事變ノ際ニ於ケル文部省海外留學生等定員ニ關スル勅令……七一
第三　在外研究生……七二
第七　生徒
第一節　在學生徒
第一　生徒氏名……七三
第二　在學生徒府縣別……七七
第二節　卒業者……八〇
第一　卒業者氏名……八〇
第二　卒業者狀況……一一〇
附錄
一　職員移動……一一五
二　學友會……一一五
三　財團法人研究奬勵會……一一七
四　試驗報告及其他刊行物……一一九

水産講習所一覽

第一　沿革及組織

第一節　沿革概要

本所ハ明治三十年三月二十二日勅令第四十七號水産講習所官制ニ基ツキ創設セラレ專ラ水産ニ關スル傳習及試驗ヲ行フ

傳習事業ハ本所創立ノ際水産傳習所ノ生徒ヲ引繼ケリ始メ大日本水産會ハ水産教育ノ必要ニ鑑ミ水産傳習所ヲ起シ(明治二十二年)同二十六年農商務省ヨリ生徒養成ノ囑託ヲ受ケ修業年限ヲ三箇年ニ延長シ次テ文部省ヨリ水産科教員養成ヲ囑託セラレ教務ノ擴張ヲ行ヒシカ後本所ノ官設ト爲ルニ及ンテ遂ニ之ヲ閉所セリ本所設立當時講習科入學程度ハ尋常中學第三學年修業以上ト爲シ修業年限ヲ三箇年トシ其第三學年ニ於テ漁撈、製造、養殖ノ一科ヲ專攻セシムルノ制ヲ設ケタルモ三十三年講習科ヲ本科ト改稱スルニ及ヒ入學程度ヲ中學卒業以上ト爲シ漁撈、製造、養殖ノ三科中其一ヲ選ミテ入學セシムルコトト爲シ四十四年入學者資格ヲ中學卒業者、專門學校入學者檢定ニ合格シタル者及府縣立水産學校卒業者ニ限リ又水産家及水産學校卒業生ノ優先入學ヲ許シ可成實業者ヲ教養スルノ方針ヲ取レリ此他現業科ヲ設ケテ現業ヲ講習セシメ(明治三十年)又水産教員(三十五年)製鹽技術員(三十八年)特殊技術員(四十三年)ノ養成ヲ爲シ且本科卒業者ノ爲研究科ヲ設ケ、尙ホ本科漁撈科卒業者ノ爲メ三十三年ニ遠洋漁業科ヲ設置セ

リ、卒業者及現業科在學者ノ資格ニ關シテハ明治三十二年文部省ハ文官任用令第三條ニ依リ本所講習科ヲ官公立中學校ト同等以上ノ者ト認定シ明治四十年遞信省ハ本科漁撈科卒業者ニシテ三箇年以上船舶ニ乘組タル者ニ對シテハ該船舶ノ種類ニ依リ甲種二等運轉士ノ受驗資格ヲ有スルコト又現業科中遠洋漁業專修ヲ卒リタル者ニ對シテハ該船舶ノ種類ニ依リ一箇年ヲ短縮シテ丙種運轉士乙種運轉士又ハ乙種二等運轉士ノ受驗資格ヲ有スルコトヲ認定セリ、大正五年九月本所ノ規則及規程ヲ更訂シ從前ノ學期及學年ヲ變更シテ毎年四月ヲ以テ學年ノ始トナシ現業科ト稱シタルモノヲ別科ト改メ又從來ノ特殊技術員養成科ヲ廢シタリ

試驗事業ハ最初ハ傳習ノ傍一二製造ニ關スル試驗ヲ施行スルニ過キサリシモ明治三十七年試驗規程ノ制定ニ依リ水產生物、漁撈、養殖、化學、製造、漁船、機械ニ關スル事項ニ付調査及試驗研究ヲ爲スコトト爲リ且定員經費共ニ之ヲ增加シ進ンテ試驗鑑定ニ關スル當業者其他ノ依賴ニ應スルコトトシ爾來試驗事業ノ擴張ヲ圖リ大正三年三月處務細則ヲ改正スルニ方リ漁業基本調査部、漁撈試驗部、養殖試驗部、製造試驗部、化學試驗部、漁船機械試驗部ニ分チ又編纂部ヲ設ケ傳習調査及試驗ニ關スル報告其ノ他ノ編纂ヲ行フコトトシ尙農商務省令ヲ以テ試驗規則及種苗拂下規則ヲ發布スルニ至レリ

設備ニ就テハ鬚舍ハ明治三十年本所設立ノ當時ニ於テ舊水產傳習所ヨリ之ヲ引繼キテ充用シ三十三年ニ至リ地ヲ深川區越中島ニトシテ工ヲ起シ三十五年竣工セリ實習場、實驗場及試驗地ハ深川區冬木町養魚試驗池、神奈川縣小田原實習場、千葉縣舘山實習場及同灣內高島臨海實驗場等アリ又船舶ハ明治三十四年快鷹丸(百四十噸)ヲ新造シ同三十九年同船ノ朝鮮迎日灣ニ於テ遭難スルニ及ヒ四十一年雲鷹丸(四百四十八噸)ヲ新造シ又四十年隼丸(二十八噸)ヲ新造シテ生徒實習ニ供シタルカ漸次其ノ範圍ヲ擴張シテ漁場及海洋ノ調査研究竝ニ漁業試驗ニモ使用スルニ至レリ

所長ハ本所設立當時ハ官制ニ依リ水產局長之ニ任シ別ニ監事ヲ置キテ事務ヲ執ラシメ水產局長藤田四郎、葦原淸風、竹內正志、牧朴眞相踵テ所長タリ明治三十六年官制改正ニ伴ヒ監事ヲ廢シ專任所長ヲ置クコトトナリ前監事松原新之助所長ニ任シ四十四年一月松原新之助農商務技師ニ轉シ農商務技師下啓助之ニ代リ大正四年十二月所長下啓助農商務技師ニ轉シ水產局長松崎壽三所長心得ヲ命セラル大正六年二月三日松崎壽三本官ヲ免セラレ技師伊谷以知二郎之ニ代ル

第二節　官制及事務規程

一　水產講習所官制

明治三十年三月二十二日
勅令第四十七號

(沿革)　明治三一年一〇月勅令第二八九號、三三年三月同第七二號、三四年四月同第四二號、三六年一二月同第二三六號、四〇年四月同第一四七號、四一年一一月同第二八五號、四二年三月同第七七號、四三年三月同第八四號、同年九月同第三五一號、大正二年六月同第二〇四號改正

第一條　水產講習所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ水產ノ傳習及試驗ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　水產講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長	一人
技師專任	十人
教授專任	四人
技手專任	九人
助教專任	四人
書記專任	五人

第三條　所長ハ技師又ハ教授ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ受ケ所中全般ノ事務ヲ掌理

ス

第四條　（削除）

第五條　技師ハ上官ノ指揮ヲ受ケ所務ヲ分掌ス

第六條　教授ハ奏任トス上官ノ指揮ヲ承ケ教授ヲ掌ル

第七條　技手ハ上官ノ指揮ヲ受ケ所務ニ從事ス

第八條　助教ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ教授ノ職務ヲ助ク

第九條　書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第十條　（削除）

二　水産講習所處務規程

明治三十七年一月二十三日訓令第三號

（沿革）明治四一年一一月訓令第四〇號改正

第一條　水産講習所長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ主管事務ノ處理ニ付キ其責ニ任ス

第二條　水産講習所長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ之ヲ處理セシムルコトヲ得

第三條　水産講習所長ハ事務處理ノ爲メ經伺ノ上所中處務細則又ハ講習及試驗ニ關スル規程ヲ設クルコトヲ得

第四條　水産講習所長ハ講習生ノ募集人員ヲ定メ農商務大臣ノ承認ヲ請フヘシ

第五條　水産講習所長ハ講習及試驗ノ成績ヲ審査編纂シ毎年一回農商務大臣ニ報告スヘシ

但臨時必要ト認ムルモノハ其都度報告スヘシ

第六條　水産講習所長ハ卒業シタル生徒ニ交付スヘキ證書ニ署名スヘシ

第七條　水産講習所長ハ其ノ主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得

第八條　農商務大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スル事項ハ總テ水産局長ヲ經由スヘシ

三　水産講習所處務細則

大正三年三月二十五日

第一章　事務分掌

第一條　水産講習所ニ漁撈傳習部、製造傳習部、養殖傳習部、漁業基本調査部、漁撈試驗部、養殖試驗部、製造試驗部、化學試驗部、漁船機械試驗部、編纂部、教務課及庶務課ヲ置キ庶務課ニ文書、會計、圖書標本ノ三掛ヲ置ク

課ニ課長、部及掛ニ主任ヲ置ク

第二條　各傳習部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　水産講習所傳習規程及特種技術員養成規程ニ依リ其ノ部ニ屬スル傳習ニ關スル事務

二　其ノ部ニ屬スル備夫ノ監督ニ關スル事項

三　其ノ部ニ屬スル器具、機械ノ保存及整理ニ關スル事項

四　其ノ部ニ屬スル實習場及船艇ニ關スル事項

第三條　漁業基本調査部、各試驗部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　試驗規則、種苗拂下規則ニ依リ各其ノ部ニ屬スル調査試驗ニ關スル事項

二　其ノ部ニ屬スル備夫ノ監督ニ關スル事項

三　其ノ部ニ屬スル器具、機械ノ保存及整理ニ關スル事項

四　其ノ部ニ屬スル實驗場、試驗地及船艇ニ關スル事項

第四條　編纂部ニ於テハ傳習、調査及試驗ニ關スル報告其ノ他ノ編纂事務ヲ掌ル

第五條　教務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　生徒ノ募集及入退學ニ關スル事項

二　生徒ノ試驗及卒業ニ關スル事項

三　生徒ノ寄宿舍入退ニ關スル事項

四　生徒及寄宿舍ノ風紀、衛生其ノ他ノ取締ニ關スル事項

五　生徒ノ實習旅行ニ關スル事項

六　生徒ノ賞罰ニ關スル事項

七　生徒ノ願届ニ關スル事項

八　傳習科目及時間配當ニ關スル事項

九　講堂、教室、生徒控所及教具ノ整理、取締ニ關スル事項

十　參觀人ニ關スル事項

十一　教務ニ關スル照會往復

第六條　庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

文書掛

一　御眞影ニ關スル事項

二　所員ノ進退、身分、出張及巡回ニ關スル事項

三　所長ノ官印及所印ノ管守ニ關スル事項

四　公文書類ノ接受、發送、保存及編纂ニ關スル事項

五　儀式ニ關スル事項

六　他部課ノ主管ニ屬セサル事項

會計掛

一　經費及諸收入ノ豫算、決算並會計ニ關スル事項

二　官有財産及物品ニ關スル事項

三　營繕ニ關スル事項

四　守衛、給仕、小使等ノ傭雇、賞與、監督ニ關スル事項

五　宿直ニ關スル事項

六　所内取締ニ關スル事項

圖書標本掛

一　圖書標本ノ出納、整理及保存ニ關スル事項

二　圖書目錄ノ編纂ニ關スル事項

三　圖書標本委員會ニ關スル事項
四　藏書印ノ管守ニ關スル事項
五　圖書標本ノ寄贈ニ對シ謝狀發送ニ關スル事項
六　圖書標本室ノ取締ニ關スル事項
七　報告書類ノ交換及配布ニ關スル事項

第二章　文書取扱

第七條　庶務課ニ於テ接受シタル公文書類ハ文書掛ニ於テ之ヲ開封シ(親展文書ヲ除ク)接受ノ年月日及受付ノ番號ヲ附シ受付簿ニ記入シ所長ノ檢印ヲ受ケ主管ヲ區別シ各課長又ハ部主任ニ交付スヘシ

前項ニ依リ交付ヲ受ケタル書類ハ各主任ニ於テ其ノ處分意見ヲ附シ又ハ之ヲ成案ト爲シ庶務課長ヲ經テ所長ノ判決ヲ受ケ文書掛主任ニ交付スヘシ

第八條　接受シタル公文書ニ物品ノ添附セル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ帳簿ニ記入シ受領者ノ檢印ヲ受クヘシ

第九條　文書掛主任ニ於テ所長判決濟ノ成案ニシテ發送ヲ要スルモノヲ受ケタルトキハ淨書校合ヲ爲シ番號ヲ附シ帳簿ニ記入ノ上發送ノ手續ヲ爲スヘシ

發送ヲ終リ又ハ發送ヲ要セサル成案文書ハ保存ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條　所員名ヲ以テ發送スル文書ハ必ス封筒ニ官氏名ヲ記シ主任ノ檢印ヲ受クヘシ

電話ヲ以テ特ニ通話料ヲ要スル通信ヲ爲サントスル場合ニ於テハ所長ノ承認ヲ受クヘシ

第十一條　所員ノ進退及賞罰ニ關スル事項ハ之ヲ機密事務トシテ取扱フヘシ

第十二條　公文書ハ完結ノ都度左ノ類別ニ依リ之ヲ會計年度毎ニ編纂保存スヘシ

一　永久保存
諸達及調査報告書類等ニシテ例規徵證ニ供スヘキ主要文書

二　二十年保存
例規ニ依リ處分シタルモノ又ハ調査報告等ノ書類ニシテ重要ナル文書

三　十年保存
五年以上十年以內參照ノ必要アリト認ムル文書

四　五年保存
一年以上五年以內參照ノ必要アリト認ムル文書

五　一年保存
一時ノ措辦ニ係ル文書

第三章　會　計

第十三條　課、部又ハ掛ニ於テ物品ノ購入、修繕又ハ人夫ノ傭入ヲ要スルトキハ各取扱主任ニ於テ請求書ニ其ノ員數及必要ノ理由ヲ記シ當該課長又ハ各部主任ノ檢印ヲ受ケ庶務課會計掛ニ廻付スヘシ

第四章　雜　則

第十四條　重要ナル教務、試驗又ハ庶務ニ關シ必要アリト認ムルトキハ所長ハ教官、技術官、各課長、主任又ハ關係職員ノ會議ヲ開クコトアルヘシ

第十五條　所員ハ出勤時限迄ニ必ス出頭シ自ラ出勤簿ニ捺印スヘシ運參ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ屆出ツヘシ早退セントスルトキ亦同シ

第十六條　病氣其ノ他ノ事故ニ依リ出勤スルコト能ハサルトキハ速カニ屆出ツヘシ但シ病氣缺勤七日以上ニ及フトキハ療養期間ヲ記載シタル醫師ノ診斷書ヲ差出スヘシ

第十七條　看護歸省、墓參、轉地療養其ノ他私事ノ爲旅行セントスルトキハ其ノ期間及旅行先ヲ記載シタル願書ヲ差出シテ許可ヲ受クヘシ

轉地療養ノ爲ノ願書ニハ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第十八條　出張、巡回又ハ轉勤ノ命ヲ受クタル者ハ其ノ出發又ハ歸所ヲ所長ニ屆出ツヘシ

第十九條　忌服ヲ受クルモノハ其ノ事由及死亡者トノ親族關係ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

第二十條　父母ノ祭日ニ出勤セサル者ハ據メ其ノ旨ヲ屆ケ出ツヘシ

第三節　職　員

所長	伊谷以知二郎		
技師			
蕃殖保護論	漁業基本調査部主任	農商務技師	北原多作
製造論(食品)、水產通論		兼農商務技師	伊谷以知二郎
航海術、運用術	雲鷹丸船長		淺利孝爾
養殖論(鹹水養殖)、動物學(發生)	養殖試驗部員	理學士	妹尾秀實
漁撈論(漁具)、漁撈大意	漁撈試驗部主任		川合角也
漁撈傳習部主任			
生徒取締主任			

職員

漁撈論(漁法)　漁撈試驗部員
漁船論(西洋型)、製圖　漁船機械試驗部主任
漁撈論(漁法)　漁撈試驗部員
法　規

養殖論(淡水養殖、水質)　養殖試驗部員
養殖法實習
動物學、同實驗　養殖試驗部員
漁業基本調査部員
製造論(食品)　製造試驗部主任
(在外研究生)

教　授

植物學、同實驗　養殖試驗部主任
法　規

漁獲物處理法、製造論(貯藏)、機械學、製圖　漁船機械試驗部員
漁場論(測量術)、養殖論(土木)　養殖試驗部員

農商務技師　下田杢一
兼農商務技師兼特許局審査官工學士　春日信市
農商務技師　小瀨次郎
農商務技師　三善春雄
理學士　日暮忠
理學士　中澤毅一
兼農商務技師理學士　柳直勝
農學士　小野辰次郎
農學士　山川洵

兼農商務技師理學博士　岡村金太郎
兼農商務書記官文學士法學士　三井米松
兼農商務技師兼特許局審査官工學士　星野三郎
兼農商務技師工學士　橘英三郎

技　手

製造論(食品)、製造法實習　製造試驗部員
漁船論(日本型)、運用實習、網釣具實習、製圖　漁撈試驗部員
漁獲物處理法、製造論(化製品)　化學試驗部員
漁船論(機關)　漁撈試驗部員
漁業基本調査部員
漁場論(海洋)、養殖論(餌料)　漁業基本調査部員
養殖試驗部員
漁業基本調査部員
養殖試驗部員
漁撈論(漁法)、航海術、運用術、運用實習　漁撈試驗部員
漁船機械試驗部員
食品、分析實驗　化學試驗部員

助　教

製造論(化製品)、分析實驗　化學試驗部員
製造論(食品、化製品)、細菌實驗、漁具(染料)　化學試驗部員

兼農事試驗場技手　田和駒吉
關根磯吉
菊池健
農商務技手　石原虎司
堀宏
丸川久俊
山本由一
鎌田武造
森瀨清一郎
山本祥吉
野元俊一
木村金太郎

植物學、同實驗	養殖試驗部員	東道太郎
製造論（食品）	製造試驗部員	中山留八

書記

	庶務課會計掛主任	小澤嘉助
	庶務課	淵上保喜
	雲鷹丸乘組	岩崎甚左衛門
	庶務課	石鹽甚二郎

囑託

	魚病研究及魚種改良試驗	石川千代松（東京帝國大學農科大學教授、理學博士）
	冷凍試驗及物理學ニ關スル調査	長岡半太郎（東京帝國大學理科大學教授、理學博士）
	機械ニ關スル調査	井口在屋（東京帝國大學工科大學教授、工學博士）
製造論（化製品）		奥健藏（專賣局技師、農藝化學士）
水產動物學	生物調査	岸上鎌吉（東京帝國大學農科大學教授、理學博士）
經濟		松崎壽三（東京帝國大學農科大學教授、法學士）
	化學ニ關スル事項	鈴木梅太郎（東京帝國大學農科大學教授、農學博士）
	漁業基本調査ニ關スル事項	岡田武松（中央氣象臺技師、理學博士）
	漁業基本調査ニ關スル事項	丸橋彥三郎（海軍大佐）
	漁場調査	岸榮太郎（海軍大佐）
	細菌及貯藏	西村寅三（東京稅務監督局技師、農學士）
	水產應用機械ニ關スル試驗及調査	加茂正雄（東京帝國大學工科大學教授、工學博士）
	海洋學ニ關スル研究事項、漁業基本調査ニ關スル事項	寺田寅彥（東京帝國大學理科大學教授、理學博士）
物理學、同實驗		川久保修吉（水產局書記官、法學士）
法規		
氣象學		吉田得一（中央氣象臺技師、理學士）
	水產講習所新營及修繕工事設計監督	桜本惣太郎（農商務技師）
物理學、同實驗		中村左衛門太郎（中央氣象臺技手、理學士）
物理學、同實驗、數學、簿記、		池上泰次郎
漁撈論（漁具）		中村利吉
海洋學、漁場論（湖沼）		田中阿歌麿
救急療法		北村銀平

職員

子爵

英語　檜山剛三

貝殼珊瑚彫刻　貝殼珊瑚利用ニ關スル事項

英語、獨逸語　淺井勝治郎

湖沼學、植物學、同實驗　文學士　相原一郎介

製造論(化製品)、化學　理學博士　中野治房

酵素ニ關スル試驗　理學士　松井秀三郎

魚種改良試驗及魚病調査ニ關スル事項　農學士　秋山吉五郎

體育教師　檜山義質

化學

水產物色素晒白其他化學試驗　理學士　池田晏平

赤潮魚病其他細菌ニ關スル調査　理學士　小南清

魚病論、動物學、同實驗　理學士　石井重美

魚病調査　拂川悌之輔

丸沼外二沼養殖試驗ニ於ケル試驗事項　古橋余四郎

雲鷹丸機關長　西健

電氣應用漁具試驗　中司正朔

教務課事務取扱　賀根東洋雄

雲鷹丸一等運轉士　山本靜一

雲鷹丸運轉士事務取扱

第二　傳習

第一節　規則及規程

一　水產講習所傳習規則

明治三十年四月

(沿革)　明治三三年一月告示第七號、同三七年四月同第九〇號、同四四年三月同第一九九號、大正二年四月同第一〇三號、同二年七月同第二三三號同五年九月同第一七〇號改正

第一條　本所ハ水產ニ關スル學理及技術ノ講習ヲ爲ス

第二條　本所ニ本科、遠洋漁業科、研究科及別科ヲ置ク

本科ハ漁撈、製造及養殖ノ三科ニ分ツ

第三條　本科ニ於テハ漁撈、製造又ハ養殖ニ關シ各科ニ必要ナル學理及技術ヲ習得セシム

遠洋漁業科ニ於テハ遠洋漁業ニ關スル技術ヲ習得セシム

研究科ニ於テハ既修學科又ハ其ノ關係學科ヲ專攻セシム

別科ニ於テハ漁撈、製造又ハ養殖ノ三科中種目ヲ限リ專ラ技術ヲ習得セシム但シ其ノ種目ハ水產講習所長之ヲ定ム

第四條　修業年限ハ本科及遠洋漁業科ハ三箇年研究科ハ三箇年以內別科ハ一箇年トス但シ遠洋漁業科及別科ノ修業年限ハ時宜ニ依リ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第五條　本所ハ必要ト認ムルトキハ第二條ノ外短期講習ヲ行ヒ水產ニ關スル特殊ノ種目ニ就キ學理及技術ヲ習得セシム

前項講習ノ種目及期間ハ水產講習所長ニ於テ其ノ都度之ヲ定ム

第六條　本所ハ授業料ヲ徵收セス

第七條　學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條　入學志願者ハ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要

ス

一　本科ニ在リテハ左記各號ノ一ニ該當スルモノ

（イ）中學校卒業者

（ロ）文部省專門學校入學者檢定規程ニ依ル試驗檢定ニ合格シタル者

（ハ）文部省專門學校入學者檢定規程第八條第一號ニ該當スル者

（ニ）道府縣立水產學校本科卒業者又ハ本所ノ適當ト認ムル水產學校及甲種程度ノ實業學校ノ水產科卒業者

二　遠洋漁業科ニ在リテハ本科漁撈科卒業者又ハ之ト同等以上ノ學術技能ヲ有スル者

三　研究科ニ在リテハ本科卒業者

四　別科ニ在リテハ左記各號ノ一ニ該當スルモノ

（イ）水產學校本科又ハ本所ニ於テ適當ト認ムル水產學校別科若ハ府縣立水產講習所ノ卒業者

（ロ）甲種農學校又ハ府縣立中學校若ハ之ト同等以上ノ認定アル私立中學校ノ卒業者

（ハ）二箇年以上水產ノ業務ニ從事シタル者若ハ水產家ノ子弟

（ニ）其ノ他本所ノ適當ト認ムル履歷ヲ有スル者

第五條ノ規定ニ依ル短期講習志願者ノ資格ハ水產講習所長ニ於テ其ノ都度之ヲ定ム

第九條　本科ヲ卒ヘタル者ニハ卒業證書、遠洋漁業科又ハ研究科ヲ卒ヘタル者ニハ證明書、別科ヲ卒ヘタル者ニハ修業證書ヲ授與ス

第十條　學術優等品行方正ニシテ他ノ生徒ノ模範トナルヘキ者ハ特待生トス

第十一條　本所ノ規則、告示又ハ命令ニ違反シ若ハ怠慢不品行其ノ他生徒タル本分ニ背クノ行爲アル者ハ懲罰ヲ加フ

第十二條　學業ヲ怠リ成業ノ見込ナキ者ハ之ヲ除名ス

第十三條　本規則施行ニ關スル規程ハ水產講習所長之ヲ定ム

附　則

本規則ハ大正五年九月十一日ヨリ之ヲ施行ス

大正五年九月十一日ヨリ始マル學年ハ大正六年三月三十一日ヲ以テ一學年トシ之ヲ一箇年ト見做ス

本規則施行前ニ入學シ現ニ在學中ノ現業科生徒ハ別科生徒トス

二　水產講習所傳習規程

明治三十年四月

（沿革）明治三一年一月、同三三年一月、同三三年三月、同三三年九月、同三七年四月、同四四年三月、大正二年四月、同六月、同五年九月、同五年十二月改正

第一章　本科規程

一　學科課程

第一條　本科ノ各學科課程左ノ如シ

漁撈科

學科目	學年學期	第一學年 第一學期	第一學年 第二學期	第一學年 第三學期	第二學年 第一學期	第二學年 第二學期	第二學年 第三學期	第三學年 第一學期	第三學年 第二學期	第三學年 第三學期
水產通論		一時	一時	一時	四	四	四			
漁撈論	漁具	三	三	四	三	三	三	三	三	三
	漁法	二	二	二	二	二	二	二	二	二
漁場論										
漁獲物處理法										
航海術					一	一	一	三	三	三
運用術		三	三	三	三	三	三	三	三	三

製造科

學科目	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
	第一學年			第二學年			第三學年		
水產通論	一時	一時	一時	時	時	時	時	時	時
製品	二	二	二	三	三	三			
化製品				三	三	三			
貯藏論	一	一	一						
細菌學									
化學	無機、有機	無機	無機	有機	有機				
實驗及實習	操縱、製作、生物	操縱、製作、生物	操縱、製作、生物	不定	不定	不定	不定	不定	不定
漁場觀測及氣象									
漁船製圖									
物理	四回	四回	四回	二回	二回	二回	二回	二回	二回
計	二六	二六	二六	二五	二五	二五	一九	一九	一九
外國語	三	三	三	三	三	三	三	三	三
救急療法				一	一	一			
蓄殖保護論				二	二	二	二	二	二
法規及經濟				二	二	二			
數學及簿記	數三	數三	數三	簿一	簿一				
海洋及氣象學	二	二	二	二	二				
機械學									
物理學	三	三	三	二	二	二	四	四	四
植物學	二	二	二						
漁業									
動物學	三	三	三						
漁船論									
船體	一	一	一	三	二	二			
機關									

養殖科

學科目	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
	第一學年			第二學年			第三學年		
水產通論	一時	一時	一時	時	時	時	時	時	時
淡水養殖	二	二	二	二	二	二			
鹹水養殖				二	二	二			
論				一	一	一			
養殖土木				二	二	二			
魚病論									
細菌學				二	二	二			
動物學	二	二	二	三	三	三			
水產									
普通									
實驗及實習	動物、植物	動物、植物	動物、植物	不定	不定	不定	不定	不定	不定
細菌									
物理	一回	一回	一回	二回	二回	二回	二回	二回	二回
分析	一	四	一	三	三	三			
製造									
計	二四	二四	二四	二五	二五	二五	一三	一一	
區	三	三	三	三	三	三	三	三	
外語	二	二	二						
漁業大意	三	三	三	二	二	二			
法規及經濟				二	二	二			
數學及簿記	數三	數三	數三	簿一	簿一				
氣象學	一	一	一	二	二	二	二	二	
機械學									
物理學	三	三	三						
植物學	二	二	二						
水產									
普通									
動物學	二	二	二	二	二	二			
水產									
普通									

	第一學年				第二學年				第三學年					
	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回	回
動物學 生理	一	一												
動物學 發生														
植物學 普通	二	二	二											
植物學 水產														
化學 有機、無機	無三	無三	無三		有三	有三	有三							
化學 水產														
蓄殖保護論														
物理學	三	三	三											
海洋及氣象學	二	二	二											
流場論														
數學及簿記	數三	數三	數三		簿一	簿一								
法規及經濟														
流撈大意	二	二	二		二	二	二							
外國語	三	三	三		三	三	三							
計	二四	二四	二四		二六	二六	二四							
實驗及實習 動物、植物細菌	植四	動四			二		五	半期組五	發五					
實驗及實習 物理	一	一	一					半期五						
實驗及實習 分析			四			五								
實驗及實習 製造養殖大意					六									
不定									二	二	二	二	二	二
不定									三	三	三	三	三	三
不定												湖沼二		

一 第三學年ニ於テハ定時以外ニ於テ題目ヲ定メテ各自研究ヲ爲サシム

二 外國語ハ英語トシ隨意科トシテ獨逸語ヲ課ス

三 本表ノ外各科必要ト認ムル科目ニ就キ課外講義ヲ課スルコトアルヘシ

四 體育トシテ各科ニ擊劍柔道及操艇水泳等隨時ニ之ヲ課ス

五 各科第三學年ノ學科ノ講義ハ實習ノ都合ニ依リ多少變更スルコトアルヘシ

二 學期及休業

第二條 一學年ヲ分テ三學期トス

第一學期授業ハ四月八日ヨリ七月十日ニ至リ第二學期授業ハ九月十一日ヨリ十二月二十四日ニ至リ第三學期授業ハ一月八日ヨリ三月三十一日ニ至ル

各學期授業以外ノ期間ニ於テハ實習ヲ課ス但シ實習ノ都合ニ依リ休業スルコトアルヘシ

第三條 休業日左ノ如シ

一 日曜日

一 大祭祝日

一 記念日 三月二十二日

三 入學

第四條 入學試業ハ學年開始前ニ於テ之ヲ行フ

第五條 入學試業ニ合格シタル者ハ其ノ成績ノ順位ニ依リ入學ヲ許可ス但シ水產業者若ハ其ノ子弟又ハ道府縣立水產學校本科卒業者ハ銓衡ニ依リ優先入學セシムルコトアルヘシ

第六條 入學試業ハ中學卒業ノ程度ニ依リ左ノ學科ヲ試驗シ及體格檢査ヲ行フ

一 國語漢文 一 化學 一 英語

一 動物學 一 物理學 一 植物學

一 作文 一 地理 一 數學

前項ノ學科ハ場合ニ依リ其ノ一科又ハ數科ノ試業ヲ行ハサルコトアルヘシ

第七條 入學志願者ハ漁撈、製造、養殖ノ三科中其ノ一科ヲ撰擇スヘシ

入學ノ許可ヲ受ケタル後ハ他ノ科ニ轉スルコトヲ得ス但シ一學年以上在學ノ後轉科ヲ望ム者ハ銓衡ノ上他科ノ第一學年ニ編入スルコトアルヘシ

第八條 入學志願者ハ書式第一號ノ入學願書ニ左記各號ノ書類及第九條ノ入學試業料ヲ添付シテ本所長ニ差出スヘシ

一 書式第二號ニ依ル履歷書

二 傳習規則第八條第一項第一號ノ（イ）又ハ（ハ）若ハ（ニ）ニ該當スル者ハ當該學校長ノ卒

業證明書若ハ卒業豫期證明書在學中各學年ノ席次及成績表又同條第一項第一號ノ(ロ)ニ該當スル者ハ之ヲ證明スル書類

三　第五條但書ニ該當スル者ハ書式第三號ニ依ル證明書

四　受驗當日前六箇月以内ニ單身脱帽ノ上半身ヲ撮影シタル手札形寫眞但シ裏面ニ志望學科名及族籍氏名竝ニ生年月日ヲ自書スヘシ

第九條　入學試業料ハ金三圓トシ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ既收ノ場合ニハ之ヲ返還セス

第十條　退學シタル者再入學ヲ請フトキハ詮議ノ上學年ノ始メニ於テ原級又ハ原級以下ニ編入スルコトアルヘシ

四　在　學

第十一條　入學ヲ許可セラレタル者ハ四月十日迄ニ書式第四號ニ依ル在學證書ヲ本所長ニ差出スコトヲ要ス正當ノ事由ニ因ラスシテ其ノ手續ヲ遲延スル者ニ對シテハ入學ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十二條　保證人ハ二人トシ内一人ハ入學者ノ父兄親戚又ハ其ノ入學者ニ學資ヲ支給スル者他ノ一人ハ東京市又ハ其ノ附近ニ在住シ公民權ヲ有スル者若ハ本所ノ適當ト認ムル者タルコトヲ要ス

本所ハ保證人ニシテ其ノ責務ヲ盡ササルモノト認メタルトキハ之カ變更ヲ命スヘシ

第十三條　保證人死亡シ又ハ保證人タル資格ヲ缺クニ至リタルトキハ遲滯ナク之ヲ改メ轉居旅行改印等ノ場合ニ於テハ其ノ都度直ニ之ヲ屆出ツヘシ

第十四條　生徒ハ所定ノ制服制帽ヲ著用スヘシ

五　缺席、缺課

第十五條　病氣其ノ他止ムヲ得サル事故ニ因リ遲刻又ハ缺課スル者ハ直ニ本人ヨリ之ヲ屆出テ、缺席スル者ハ其ノ事由ヲ記シ通學生ハ保證人連署ヲ以テ寄宿生ハ生徒取締ノ證明ヲ得テ速ニ之ヲ屆出ツヘシ但シ疾病ニ因リ引續キ缺席一週間以上ニ亙ルトキハ通學生ハ醫師ノ診斷書、在舍中ノ者ハ本所囑託醫ノ證明書ヲ其ノ屆書ニ添付スヘシ

六　休　學

第十六條　病氣其ノ他ノ事故ニ因リ一學期以上修學スルコト能ハサルトキハ許可ヲ受ケ其學年間休學スルコトヲ得

第十七條　休學ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由ヲ記シ保證人連署ヲ以テ本所長ニ願出ツヘシ其ノ疾病ニ因ル場合ハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十八條　休學者ハ次學年ノ始メヨリ原級ニ編入ス但シ陸軍兵役ニ服スル者ニシテ服役滿期後直ニ就學セントスル者ハ其ノ學年ニ於テ原級ニ編入スルコトアルヘシ

七　特　待

第十九條　特待生ノ特待期間ハ次ノ學年間トス

第二十條　特待生ニハ賞金又ハ賞品ヲ給ス

第二十一條　特待生ニシテ其資格ニ不適當ナル行爲アリト認ムルトキハ直ニ特待ヲ停止ス

八　懲　罰

第二十二條　懲罰ハ戒飭、停學及放所トシ所爲ノ情狀ニ依リ之ヲ科ス

九　退學及除名

第二十三條　疾病又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ退學セントスル者ハ其ノ事由ヲ記シ保證人連署ヲ以テ本所長ニ願出ツヘシ

第二十四條　左記各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ除名ス

一　數々遲刻缺課又ハ缺席スルモノ

二　一箇月以上無屆缺席スルモノ

三　數々戒飭ノ處分ヲ受クルモノ
四　停學ノ處分三回ニ及フモノ
五　同一ノ學級ニ於テ試業不合格二回ニ及フモノ
六　成業ノ見込ナキモノ

十　試業、進級及卒業

第二十五條　學科ノ試業ハ一學期間一回以上之ヲ行フ

第二十六條　試業ニ缺席シタル者ハ左ノ場合ヲ除クノ外追試業ヲ施行セス總テ零點ヲ付ス

一　一學期ノミ課シタル學科ハ缺席ノ理由正當ナル場合ニ限リ他學科ノ成績勤怠等ヲ斟酌シ詮議ノ上追試業ヲ施行ス

二　病氣又ハ止ヲ得サル事故ニ因リ試業ヲ受クルコト能ハサル者ハ其ノ理由ノ明瞭ナル場合ニ限リ該學年中ニ得タル他ノ學期試業點ヲ標準トシ勤怠ヲ參酌シテ認定點ヲ付シ該學期試業點ニ代フルコトアルヘシ

第二十七條　最終學年ノ試業ハ其ノ學年中ニ教授シタル學科ノ外既修ノ學科中ニ就キ卒業試問ヲ行ヒ又必要ト認ムルトキハ卒業論文ヲ提出セシメテ之ヲ行フ

實驗及實習ノ評點ハ平生ノ成績、勤怠及報告書ニ依リ之ヲ定ム

定期ノ實驗、及實習ヲ缺キタル場合ニ於テハ卒業ヲ延期スルコトアルヘシ

第二十八條　試業ノ評點ハ一百ヲ以テ定點トス

第二十九條　各學期ノ終リニ於テ其ノ學期間ニ於ケル學科及實驗、實習ノ評點ヲ計算シ其ノ平均點ヲ以テ學期試業ノ得點トス

第三十條　各學年ノ終リニ於テ當該學年ノ各學科及實驗、實習ノ學期試業ノ評點ヲ合計シ之ヲ平均シタルモノヲ以テ各學科及實驗、實習ノ得點トシ其ノ得點ヲ合計平均シタルモノヲ以テ該學年ノ得點トス

最終學年ニ於テハ他ノ學年ニ準シテ平均點ヲ求メ之ニ實習點、卒業試問及卒業論文ノ評點ヲ合計平均シタルモノヲ以テ得點トス

第三十一條　學年ノ成績各學科及實驗、實習並ニ卒業試問、卒業論文ノ得點五十點、平均六十點以上ヲ得タル者ハ進級又ハ卒業セシム

第三十二條　生徒ノ席次ハ學年試業ノ得點ニ依リ卒業生ノ席次ハ各學年試業ノ得點ヲ合計シテ之ヲ定ム

第三十三條　勤怠及品行ノ良否ハ評點、席次及進級ノ參考ニ資ス

第三十四條　最終學年ノ試業ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第三十五條　在學中學業優等品行善良ナル者ニハ特ニ優等卒業證書ヲ授與ス

第二章　遠洋漁業科

第三十六條　遠洋漁業科ニ入學セントスル者ハ書式第一號ニ準シタル願書ヲ本所長ニ差出スヘシ入學者ハ銓衡ノ上之ヲ許可ス

第三十七條　遠洋漁業科生徒ハ本所實習船又ハ內國若ハ外國ノ漁船ニ乘組ミ漁業、航海、運用及其ノ他遠洋漁業ニ必要ナル技術ヲ練習セシム但シ時宜ニヨリ期間ヲ定メ本所ニ於テ遠洋漁業ニ關スル技術ヲ練習セシムルコトアルヘシ

第三十八條　疾病其ノ他止ヲ得サル事由ニ因リ修業ニ堪ヘ難キ者ハ期間ヲ定メテ休學ヲ願出ツヘシ休學ノ期間ハ之ヲ修業年限ニ算入セス

第三十九條　乘船實習中ハ水夫漁獵長及船長ノ爲スヘキ作業並ニ職務ニ就キ實習スヘシ

第四十條　乘船實習中ハ漁撈日誌ヲ調製シ每日ノ觀測、操業、漁況其ノ他必要ノ事由ヲ記入シ船長ノ認印ヲ受ケ又一事項ニ付實習調査ヲ終リタルトキハ其ノ報告書ヲ作製スヘシ

前項ノ漁撈日誌又ハ報告書ハ速ニ之ヲ本所長ニ

差出スヘシ實習中ト雖檢閲ノ必要アルトキハ日誌ノ提示ヲ命スルコトアルヘシ

第四十一條　下船中練習セシムヘキ事項ハ隨時之ヲ定ム

第四十二條　修業ヲ完了シタルトキハ漁撈日誌、報告書及成績ヲ考査シ證明書ヲ授與ス但シ必要ニ應シ特ニ試業ヲ行フコトアルヘシ

第四十三條　本章ニ定ムルモノヲ除クノ外第一章ノ規定ハ之ヲ遠洋漁業科ニ準用ス

第三章　研究科

第四十四條　研究科ニ入學セントスル者ハ書式第五號ニ依ル願書ヲ本所長ニ差出スヘシ

入學者ハ銓衡ノ上之ヲ許可ス

第四十五條　研究科生徒ハ教官ノ指導ヲ受ケ本所ニ於テ研究ニ從事シ又ハ必要ニ應シ學科ヲ指定シテ聽講セシム但シ場合ニ依リ他ノ場所ヲ定メ研究ニ從事セシムルコトアルヘシ

第四十六條　研究ヲ結了シタルトキハ研究事項ニ就キ論文ヲ提出スヘシ

第四十七條　論文ヲ考査シ相當ノ資格アリト認ムル者ニハ證明書ヲ授與ス

第四十八條　本章ニ定ムルモノヲ除クノ外第一章及第二章第三十八條ノ規定ハ之ヲ研究科ニ準用ス

第四章　別科

第四十九條　入學志願者ハ願書ニ書式第六號ニ依ル體格檢査書ヲ添ヘ本所長ニ差出スヘシ

第一章第八條ノ規定ハ前項願書ノ場合ニ之ヲ準用ス

入學者ハ銓衡ノ上之ヲ許可ス

第五十條　實技ヲ習得セリト認メラルヽ者ニハ證書ヲ授與ス

第五十一條　本章ニ定ムルモノヽ外第一章ノ規定ハ之ヲ別科ニ準用ス

附　則

大正五年九月十一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル學科及課程ハ別ニ之ヲ定ム

明治四十三年三月特殊技術員養成科規程ハ之ヲ廢止ス

書　式

○第一號（用紙美濃）

收入印紙

入學願書　受驗地何々（朱書）

私儀御所本科何々科（別科）ヘ入學（何々專修）志願ニ付御許可相成度左記書類相添此段相願候也

一　履歴書（書式第二號）

一　卒業證明書若ハ卒業豫期證明書又ハ檢定合格證明書

一　學業成績證明書

一　業務證明書（書式第三號ニ準シ優先入學資格者及別科志願者ニ限ル）

一　寫眞

一　體格檢査書（書式第六號別科志願者ニ限ル）

本籍族稱　道府縣市郡町村番地　華士族平民戸主又ハ何某何男弟等

現住所　道府縣市郡町村番地　何某方同居止宿寄留等

年　月　日　何　某㊞　何年何月何日生

水産講習所長宛

『備考　遠洋漁業科及別科ニハ收入印紙貼用ヲ要セス

收入印紙貼用ニ就テハ別項入學試業料ニ關スル條參照

○第二號（用紙美濃）

履歴書

本籍族稱	道府縣市郡町村番地華士族平民戸主又ハ何某何男弟等
家業	何業（戸主ノ家業ヲ記ス家業ナキモノハ其趣ヲ記スベシ）
氏名	何某（片假名ニテ傍訓ヲ附スベシ）
出生年月日	明治　年　月　日生
學業	一何年月日官公私立何學校ニ入リ何學修業何年月日卒業或ハ何々ニ付中途退學或ハ何年間修業等 一何年月日ヨリ何年月日迄何處何某ニ從ヒ何年間何學修業（卒業證書ヲ有スル者ハ其寫） 一何々
兵役	來何年徴兵適齢何年月日ヨリ何年月日迄何師團何旅團何兵何聯隊ニ入リ陸軍現役ニ服セリ何年月日何處ニ於テ徴兵檢査ヲ受ケ何々ニ付國民軍ニ編入セラル等
職業	何年月月何官廳何々拜命何年月日依願免官或ハ現今在職中等何年月日何業ニ從事何年月日廢業或ハ現今從事何年月日ヨリ何年月日迄何月間何々漁業會社何々丸ニ乘組或ハ何々會社工場、養殖場ニ入リ何業實習等
賞罰	何年月日何所ニ於テ何々ニ付賞罰ヲ受ケタル等

右之通相違無之候也

年　月　日　　何　　某㊞

○第三號

業務證明書

氏　名　（何年何月何日生）

道府縣郡市町村番地
華士族平民戸主又ハ何某何男弟等

本人又ハ父兄何某ハ何年ヨリ何處ニ於テ水產業何々營業又ハ何年何月ヨリ何年何月迄水產業何々ニ從事シタル者ニ相違無之候也

市町村長若ハ業務主　何　　某㊞

年　月　日

○第四號（用紙美濃）

收入印紙

在學證書

私儀今般何々科ヘ入學御許可相成候ニ付テハ御規則等固ク遵守シ專心勉勵卒業ニ至ル迄猥リニ退學致ス間敷仍テ在學證書如件

本籍家業
某男弟等

年　月　日　　何　　某㊞

何年何月何日生

右某儀今般入學御許可相成候ニ付テハ御規則等固ク相守ラセ且本人ニ係ル一切ノ事件ハ私共ニ於テ引受可申ハ勿論御所御趣意ノ旨ヲ體シ平素督勵可致候仍テ保證如斯候也

現住所

族籍職業（學生ノ父兄親戚又ハ學費支學生トノ關係（給人タル關係ヲ記スヘシ）

保證人　何　　某㊞

何年何月何日生

現住所
族籍職業學生トノ關係

保證人　何　　某㊞

何年何月何日生

水產講習所長某殿

前記保證人　　ハ當區公民ニ相違無之候也

現住所

○第五號（用紙美濃）

入學願書

一何々（研究ノ事項）

私儀何年何月御所何科卒業致候處尙前記ノ事項ニ就キ何年間在所研究致度候間御詮議ノ上入學許可被成下度別紙履歷書相添此段相願候也

年　月　日

本籍及族稱

道府縣市郡町村番地
華士族平民戸主又ハ何某何男弟等

現住所　道府縣市郡町村番地寄留又ハ何某方同居止宿等

氏　名　何　　某㊞

出生年月日　何年何月何日生

水產講習所長某殿

○第六號（用紙美濃）

體格檢査書

族籍某男弟等

何　　某

何年何月何日生

一體　格（甲、乙、丙）（最モ强健ナル者ヲ甲トシ之ニ亞ク者ヲ乙トシ現ニ疾患ナキモ身體薄弱ナル者若ハ著シキ病歷ヲ有スル者ヲ丙トス）

一體　質（强健、稍弱、弱）特別ナル事項ハ其ノ條件ヲ記ス

一身　長（何尺寸分）

一體　重（何貫匁）

一胸　圍（何尺寸分）常時、充盈、空虛及其ノ差

一視　力（何々）（スネルレン氏ノ檢視法ニ依リ左右共其ノ中心視力ヲ檢シ辨色力眼疾ヲモ檢査スヘシ）

一聽　力（尋常）（過敏）（遲鈍）（左右兩耳ニ就キ懷中時計ニテ可及的其ノ聽取ノ最遠距離ヲ測定シ「センチメートル」ニテ記入シ尙障害ノ有無耳疾ヲモ檢査スヘシ）

一神經系

一呼吸器

一血行器

一皮膚其他

一柱　脊　一齒牙　一痘　一言語

一既往現在ノ疾病又ハ畸形

右檢査候處相違無之候也

檢査年月日

道府縣市郡町村番地
何學校々醫若ハ公立病院

（學位若ハ稱號）何　　某㊞

水產講習所入學試業料ニ關スル件

大正六年二月二十六日農商務省第四號

前項ノ收入印紙ハ之ヲ入學願書ニ貼付シ消印ヲ爲サス シテ差出スヘシ水產講習所長ハ其ノ收受スヘキモノナルヲ認メタル後願書ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニ掛ケ消印ヲ押捺スヘシ但志願者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ之ヲ妨ケス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○實習規程

明治三十年四月

（沿革）明治三三年三月、大正二年六月改正

第一條　實習ハ本所及ヒ實習場實習船又ハ本所指定ノ場所若ハ船舶ニ於テ從事セシム

第二條　實習ノ事項及期限ハ學科課程ニ準據シ之ヲ定ム

第三條　實習ノ爲メ出張ヲ命シタルトキハ其ノ往復ノ旅費ヲ補給

ス但シ本所實習場及試驗地竝ニ本所及實習場試驗地ヨリ鐵道十六哩海岸十海里以内ニ出張スル者及遠洋漁業科生徒ニハ旅費ヲ支給セス

第四條　實習ニ付テハ擔當教官又ハ特ニ設ケタル監督者ノ監督ヲ受クヘシ

第五條　各組ニ組長副組長各一人ヲ設ケ其ノ組合ニ對スル通達其ノ他實習ニ關スル諸般ノ整理ニ任セシム

第六條　實習中ハ規定ノ實習服ヲ着用スヘシ

第七條　實習シタル事項ニ付テハ指定ノ期間内ニ其ノ報告書ヲ作成シテ之ヲ擔當教官ニ差出スヘシ但シ遠洋漁業科生徒ニ在リテハ水産講習所傳習規程第三十九條及第四十條ニ依ル

第八條　實習中報酬手當ノ類ヲ贈與セントスルモノアルトキハ其ノ事由ヲ所長ニ具申シ認可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ受領スルヲ得ス

○實習船規程

明治四十三年七月

（沿革）明治四三年一一月及一二月改正

第一章　總則

第一條　實習船ハ本所生徒ヲシテ漁撈、航海、運用、及機關ニ關スル學術竝ニ技業ヲ實習セシムルヲ以テ目的トス

第二章　職員

第二條　實習船ニ左ノ職員ヲ置ク但シ場合ニ依リ變更スルコトアルヘシ

一　船長　二　教官

三　運轉士　運轉士補　四　機關長　機關士

五　事務長

第三條　船長ハ實習、風紀、衛生、其ノ他全般ノ船務ヲ總轄ス

第四條　船長ハ毎實習期ノ終リニ於テ其ノ實習報告書別表書式ノ考課表及衛生狀態調査書ヲ添ヘ所長ニ提出スヘシ但シ實習報告書ハ其ノ實習期中便宜數回ニ分割シテ提出スルコトヲ得

第五條　船長ハ所長ノ決裁ヲ經テ實習船内規ヲ定メ又ハ之ヲ改廢スルコトヲ得

第六條　教官ハ船長ノ命ヲ承ケ各々其ノ擔當課業ノ實習ニ任シ且ツ乘組生徒取締其ノ他船務ニ從事ス

臨時乘組ヲ命セラレタル教官ハ特別ノ場合ヲ除ク外前項後段ノ事務ニ從事スル限リニアラス

第七條　運轉士ハ船長ノ命ヲ承ケ運用術ノ實習、船内風紀ノ取締其ノ他ノ船務ニ從事ス

運轉士補ハ船長ノ命ヲ承ケ運轉士ノ職務ヲ補助ス

第八條　機關長ハ船長ノ命ヲ承ケ機關術ノ實習其ノ他ノ船務ニ從事ス

機關士ハ船長ノ命ヲ承ケ機關長ノ職ヲ補助ス

第九條　事務長ハ船長ノ命ヲ承ケ文書帳簿其ノ他經理及衛生ニ關スル事項ヲ擔當ス

第十條　職員ハ毎實習期ノ終リニ各々其擔當課業ニ對スル生徒ノ實習評點表ヲ作製シ之ヲ船長ニ提出スヘシ

第三章　實習

第十一條　實習期間ヲ三期トシ各四箇月ヲ以テ一期トス但シ場合ニ依リ變更スルコトアルヘシ

第十二條　實習科目左ノ如シ但シ場合ニ依リ變更又ハ增減スルコトアルヘシ

一　漁撈法

出漁、漁具使用法、魚群偵察、漁法、漁艇ノ運用、漁獲物處理法、漁具作製及修理、漁具保存、漁業ノ地方慣習制度及經濟調査、漁獲物ノ種類及性質調査、漁具漁船ノ種類及構造調査

二　航海術

推測、實測、羅盤差測定、羅盤修正、經線儀誤差測定、氣象觀測、潮時算法

三　運用術

操帆、操舵、適帆、荒天航法、應急修理、船體船具保存法、技業、信號法、運轉法、衝突豫防法、非常召集、消防配置、當直勤務、守錨法、諸圓材取扱、糧食貯藏品積載法、出入港手續

四　機關術

汽機及汽罐取扱及管理法、冷藏機取扱及管理法

第十三條　碇泊中ハ船長ノ見込ヲ以テ研究ノ爲生徒ヲシテ當該地方ノ水産狀況ヲ調査又ハ視察セシムルコトヲ得

前項ノ調査又ハ視察ヲ終リタルトキハ生徒ヲシテ各其ノ報告ヲ提出セシムルコトアルヘシ報告書ハ其ノ實習期ノ終ニ船長ノ提出スヘキ實習報告書ニ之ヲ添付スヘシ

第十三條ノ二　船長ハ一實習航海期間内ニ於テ實習上必要ト認ムル場合ハ生徒ヲシテ交番ニ他ノ漁船ニ便乘セシムルコトヲ得但シ此場合ニ在リテハ交番人員數、便乘船ノ種類、船名及其所有主ニツキ直チニ所長ニ報告スヘシ

第十四條　實習成績ノ評點ハ各實習期ノ終ニ運用術及航海術ニアリテハ實習日誌竝ニ臨時試業ノ評點ノ合約點其ノ他ノ課業ニ在リテハ擔當教官ノ見込ニ依リ之ヲ定ム

第十五條　各職員ハ豫メ協議ノ上其擔當課業ニ付順序ヲ定メ尚天候其ノ他ノ事情ヲ參酌シテ適宜課業スヘシ

第四章　風紀衛生及上陸

第十六條　風紀衛生及上陸ニ關シテハ本規程ニ定メアルモノノ外船長定ムルトコロノ内規ニ依リ之ヲ行フ

第十七條　船長ハ船務ニ差支ナク且ツ衛生上其ノ他ノ故障ナキヲ認メタルトキハ相當ノ時間職員生徒ノ上陸ヲ許可スルコトヲ得

第十八條　上陸ヲ許可スヘキ生徒ノ員數ハ通常ノ場合ニ在リテハ其ノ半數ヲ超過スルコトヲ得ス

第十九條　「船内ニ於ケル運動遊戯ハ健康ヲ增進シ士氣ヲ鼓舞シ嗜好ヲ高尚ナラシムルニ足ルト認ムルモノヽ外之ヲ許可スルコトヲ得ス

第二十條　事務長ハ衛生日誌ヲ調製シ且ツ毎月一回生徒ノ衛生狀態ヲ調査シ之ヲ船長ニ報告スヘシ

第二十一條　職員生徒カ疾病傷痍ニ罹リタルトキハ船長ハ所長ニ經伺シテ相當ノ期間特ニ公暇又ハ下船療養ヲ許可スルコトヲ得但シ生徒ニツキテハ經伺ノ限リニアラス

交通不便其ノ他ノ事情ニ依リ豫メ所長ニ經伺スルコトヲ得サル場合ハ事後其ノ旨ヲ所長ニ報告スヘシ

第二十二條　職員生徒上陸中疾病傷痍ニ罹リ定刻ニ歸船シ能ハサルトキハ直チニ醫師診斷書ヲ添ヘ船長ニ届出ツヘシ

第五章　賞罰

第二十三條　船長ハ生徒ノ品行方正ニシテ實習ノ成績良好ナルモノニ限リ碇泊中一定ノ期間特別公暇ヲ與フルコトヲ得

第二十四條　船長ハ本則及諸規則心得等ニ背戻シタル生徒ニ對シ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第二十五條　懲戒ハ上陸禁止及加役ノ二種トス

上陸禁止ハ七日以內トシ碇泊日數ニ於テ之ヲ算ス加役ハ七日以內トシ常務時間外一日二時間以內役務ニ服セシム

第二十六條　生徒ニシテ犯則度ヲ重ネ又ハ重大ナル不都合ノ所爲アリタルトキハ船長ハ所長ニ其處分ヲ申請スヘシ

實習第　期考課表　生徒

年齡	年　月　日生
上船月日	年　月　日
下船月日	年　月　日
全實習日數	日間
在船日數	日間
實習日數	日間
賞	
罰	

體格	第　期末	上船ノ際
體質		
體量	貫　匁	貫　匁
身長	尺　寸	尺　寸

課業成績 科目	評點	全點
漁撈		一〇〇
運用		一〇〇
航海		一〇〇
機關		一〇〇
報告書		一〇〇
合計		
平均		
出欠及勤怠		一〇〇

性質	
品行	
勤怠	
特長	
偏癖	
意見	

年　月　日

〇生徒心得

明治三十年四月

（沿革）明治三三年三月改正

第一條　本所々定ノ條規ニ準據シ學生ノ體面ヲ汚スカ如キ行爲アルヘカラス

第二條　本所ノ制服及制帽ハ入學後一箇月以內ニ於テ調製シ之ヲ用スヘシ

第三條　事故ニ依リ制服又ハ制帽ヲ着用スルコト能ハサル事情アルトキハ豫メ時日ヲ限リ寄宿生ハ生徒取締通學生ハ保證人連署ヲ以テ願出テ許可ヲ受クヘシ

第四條　控所ノ外黌舍內ニ於テハ喫煙スヘカラス

第五條　通學生ハ許可ナクシテ寄宿舍ニ出入スヘカラス

第六條　告示ハ揭出ノ日ヨリ一般ニ了知シタルモノト認ムヘキカ故ニ常ニ揭示ニ注意スヘシ

第七條　學術研究又ハ實習ノ爲メ出張ヲ命シタルトキハ出發歸所共ニ屆出ヘシ

〇寄宿舍規程

明治三十年四月

（沿革）明治三三年三月改正

第一條　寄宿生ハ生徒取締ノ監督ヲ受クヘシ

第二條　寄宿生ハ規律衞生等ニ關スル規約ヲ設ケ所長ノ認可ヲ經テ實踐スヘシ

第三條　寄宿舍ハ每年九月十日ニ開キ翌年七月十一日ニ閉ツ

第四條　每朝夕所定ノ時限或ハ臨時ニ人員點檢ヲ受クヘシ

第五條　寄宿生ハ左ノ時限ノ外ハ外出スルヲ許サス

一　平日ハ終業時後午後九時迄土曜日ハ午後十時迄

二　休業日ハ午前點檢後ヨリ午後十時迄

但シ事宜ニヨリ伸縮スルコトアルヘシ

第六條　外泊又ハ時限內ニ歸舍シ難キ事情アルモノハ豫メ保證人連署ヲ以テ願出テ許可ヲ受クヘシ

但シ至急ヲ要スル場合ハ口頭又ハ書面ヲ以テ生徒取締ノ許可ヲ得後本條ノ手續ヲナスヘシ

第七條　許可ナク歸舍ノ時期ニ後レ又ハ外泊シタルモノハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ屆出テ其處分ヲ待ツヘシ

第八條　入舍又ハ退舍セントスルモノハ規定ノ用紙ニ認メ保證人連署ノ上願出ヘシ

第九條　管理上ノ便宜ニヨリ寄宿生ヲ數部ニ分チ各部ニ部長副部長各一人ヲ置キ生徒取締ノ指揮ニ從ヒ部內一般ノ取締ニ任ス

第十條　物品ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ其ノ情狀ニヨリ之ヲ修補又ハ辨償セシム

第十一條　寄宿舍食費等ハ每月五日迄ニ生徒取締ノ檢證ヲ經テ支拂フヘシ期日ヲ經過スルモ拂入レサルトキハ其ノ情狀ニヨリ退舍ヲ命ス

第十二條　外來人トノ面會ハ應接所ニ於テスヘシ

第十三條　舍內ニ於テハ和服ヲ用フルコトヲ得

三　遠洋漁業練習生規程

明治三十一年五月六日
告示第一一二號

（沿革）明治三七年四月告示第九二號、同三八年五月同第一二九號、同四二年七月同第三三六號、大正四年九月同第二二八號改正

第一條　遠洋漁業練習生ハ水産講習所本科卒業生又ハ之ト同等以上ノ學術技能ヲ有スト認ムル者ヨリ之ヲ採用ス

第二條　前條ニ依リ採用セラレタル者ハ之ヲ外國ニ派遣シ遠洋漁業ニ關スル學術技能ヲ練習セシムルモノトス

練習スヘキ事項及練習地ハ農商務大臣之ヲ指定

ス

第三條　遠洋漁業練習生ノ修業期限ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外三年トス

第四條　遠洋漁業練習生採用ノ員數、時期及本規程ニ定メサル出願ノ手續其ノ他之ニ關シ必要ナル事項ハ便宜之ヲ定ム

第五條　遠洋漁業練習生ノ志願者ハ第一號書式ニ依ル願書ニ履歴書及醫師ノ體格檢査ヲ經タル證明書ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出スヘシ

第六條　遠洋漁業練習生ニ採用セラレタルトキハ一週間以内ニ第二號書式ニ依ル證書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第七條　遠洋漁業練習生保證人ハ身元正シク相當ノ財産アル者タルコトヲ要ス保證人破産シ又ハ死亡シ其ノ他保證人ニ適セサル事故發生シタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ遲滯ナク之ヲ屆出ヘシ

第八條　遠洋漁業練習生ニハ相當ノ月手當及旅行手當金ヲ支給ス但シ一時手當金ヲ以テ之ニ代フルコトアルヘシ

手當金ノ額及其ノ支給方法ハ隨時之ヲ定ム

第九條　遠洋漁業練習生ハ毎年二回以上練習事項ニ關スル報告書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第十條　農商務大臣ハ法規ニ違背シ若ハ命令規則ヲ遵守セサル者又ハ成業ノ見込ナキ者其ノ他相當ノ事由アリト認ムル者ニ對シテハ遠洋漁業練習生ヲ解免シ又ハ手當金ノ支給ヲ停止若ハ減少スヘシ其ノ法規ニ違背シ若ハ命令規則ヲ遵守セサルトキ又ハ怠慢若ハ不品行ニシテ解免セラレタルトキハ既ニ支給シタル手當金ノ全部若ハ一部ヲ本人又ハ保證人ヨリ辨償セシムヘシ

附　則

本規程改正前遠洋漁業練習生ニ採用セラレタル者ニ付テハ仍從前ノ規程ヲ適用ス

○第一號書式

遠洋漁業練習生志願書

私儀遠洋漁業練習生志願ニ付御採用相成度此段奉願候也

年　月　日

族籍住所職業誰子弟

本人　姓　名　印

生年月日

族籍住所職業

保證人　姓　名　印

農商務大臣爵氏名殿

○第二號書式

印紙

證

私儀遠洋漁業練習生ヲ命セラレタルニ就テハ御規則命令等堅ク遵守可致ハ勿論萬一規程第十條ニ依リ手當金ノ償還ヲ命セラレタル場合ニハ本人又ハ保證人ニ於テ速ニ償還可致候也

年　月　日

族籍住所職業誰子弟

本人　姓　名　印

族籍住所職業

保證人　姓　名　印

農商務大臣爵氏名殿

第二節　講習功程

一　研究科

目下在學ノ生徒ハ漁撈科七名製造科三名養殖科五名合計十五名ニシテ各自專攻ノ題目ニ就テ教官指導ノ下ニ其研究ヲ爲シ或ハ關係學科ノ聽講ヲ爲サシム

二　遠洋漁業科

規則及規程

目下在學ノ生徒ハ十五名ニシテ漁業船舶ニ乘組ヲ命シ漁業及航海運用ニ關スル技術ヲ練習セシム

三　本科

目下在學ノ生徒ハ百八十六名ニシテ本科ノ教程ハ學年ノ始ニ於テ學科課程表ニ基キ一學年間ニ授クヘキ各學科ノ時數ヲ豫定シ教授事項ノ要目ヲ配當シテ之ヲ定メ之ニ依テ教授ヲ爲セリ而シテ本學年間ニ教授シタル時數及擔當教官左ノ如シ

第二十學年教授時數及教授擔當表

學年	第一學年			第二學年			第三學年			教官氏名
學科目 / 學科別	漁撈科	製造科	養殖科	漁撈科	製造科	養殖科	漁撈科	製造科	養殖科	
水産通論	二三時	二三時	二三時	一時	一時	一時	一時	一時	一時	技師 伊谷以知二郎
漁具 網具	六〇	—	—	六六	—	—	二二	—	—	技師 川合角也
漁具 釣具	二二	—	—	—	—	—	—	—	—	囑託 中村利吉
漁具 染料	—	—	—	一一	—	—	—	—	—	助教 木村金太郎
漁撈論 漁法	三四	—	—	五四	—	—	二六	—	—	技師 小瀬次郎 技手 鎌田武造
漁場論 海洋	—	—	—	二五	—	一八	一三	—	—	技手 丸川久俊
漁場論 湖沼	—	—	—	—	—	—	—	一九	—	囑託 中野治房 囑託 田中阿歌麿
漁場論 測量	—	—	—	—	—	—	一〇	—	—	技師 橘 英三郎
航海術	八四	—	—	八〇	—	—	—	—	—	技師 淺利孝爾 囑託 岸榮太郎 山本榊一
運用術	—	—	—	四三	—	—	二三	—	—	技師 淺利孝爾 技手 岸榮太郎 鎌田武造
漁船論 船體 日本型	二三	—	—	—	—	—	—	—	—	技手 關根磯吉
漁船論 船體 西洋型	一〇	—	—	五二	—	—	一二	—	—	技師 春日信市
漁船論 機關	—	—	—	一九	—	—	—	—	—	技手 石原虎司
教會療法	—	—	—	二三	—	—	—	—	—	囑託 北村銀平

學年	第一學年			第二學年			第三學年			教官氏名
學科目 / 學科別	漁撈科	製造科	養殖科	漁撈科	製造科	養殖科	漁撈科	製造科	養殖科	
製造論 罐詰	—	—	—	三二	—	—	—	—	—	技師 伊谷以知二郎
食品 貧乾	—	—	—	—	—	—	—	—	—	助教 中山留八
食品 節類	—	—	—	一一	—	—	—	—	—	技手 山本祥吉
食品 刻昆布	—	—	—	一七	—	—	—	—	—	助教 木村金太郎
食品 素乾、鹽乾	—	—	—	二八	—	—	—	—	—	技師 星野三郎
食品 鹽藏	—	一九	—	—	—	—	—	—	—	助教 中山留八
食品 懷製調味品 調味材料	—	—	—	—	—	—	—	—	—	技手 田和駒吉
食品 油蠟膠	—	—	—	二二	四一	—	—	九	—	技師 小野辰次郎
化製品 布糊、寒天 肥料	—	—	—	—	—	—	—	—	—	技手 菊地 健
化製品 革	—	—	—	九	—	—	—	—	—	助教 木村金太郎
化製品 鹽、沃度	—	三三	—	四一	—	—	—	—	—	助手 谷村重忠
細菌	—	—	—	—	—	四二	—	—	—	囑託 西村寅三
貯藏	—	—	—	—	—	四二	—	八	—	囑託 奥健藏 助教 野元俊一
養殖論 淡水養殖	—	—	三九	—	—	—	—	—	—	技師 日暮忠 技手 丸川久俊
養殖論 鹹水養殖	—	—	—	—	—	七二	—	—	—	技師 妹尾秀實
養殖論 養殖土木	—	—	—	—	—	—	五四	—	—	教授 橘 英三郎
動物學 普通動物	三九	三九	—	—	—	—	三七	—	—	囑託 石井重美
動物學 水産動物	五六	—	—	四一	三九	五七	—	—	—	囑託 岸上鎌吉 技師 中澤穀一

學年	學科目	第一學年 漁撈科	第一學年 製造科	第一學年 養殖科	第二學年 漁撈科	第二學年 製造科	第二學年 養殖科	第三學年 漁撈科	第三學年 製造科	第三學年 養殖科	教官氏名
生理	時	一	一	一七	一	一	一	一	一	一	囑託 石井重美
發生		一	一	一	一	一	三八	一	一	一	技師 妹尾秀實
普通植物		二二	六一	四六	一	一	一	一	一	一	教授 岡村金太郎 助教 東道太郎 囑託 中野治房
水產植物		一	一	一	一	一	一	一	一	一	教授 岡村金太郎
無機		一	八二	八二	一	一	一	一	一	一	囑託 池田晏平
有機		一	一	一	一	一	四五	一	一	一	囑託 松井秀三郎
水產化學		一	三六	一	一	一	四六	一	一五	一	囑託 松井秀三郎 池田晏平
物理		五三	五三	五三	一	一	二二	一	一	一四	技師 北原多作
力學		三四	三四	三四	一	一	四五	一	一	一	囑託 中村左衛門太郎
機械學		一	一	一	四九	四九	一	二二	三〇	一	教授 星野三郎
海洋學		三三	一	三三	一	一	一	一	一	一	囑託 池上泰次郎
氣象學		二九	三四	三四	一	一	一	一	一	一	囑託 田中阿歌麿
數學		八五	八五	八五	一	一	一	一	一	一	囑託 吉田得一
簿記		一	一	一	二〇	二〇	二〇	一	一	一	囑託 池上泰次郎

學年	第一學年	第一學年	第一學年	第一學年	第二學年	第二學年	第二學年	第三學年	第三學年	第三學年	教官氏名
法規	一	一	一	一	三八	三八	三八	一	一	一	書記官 川久保修吉
經濟	一	一	一	一	三四	三四	三四	一	一	一	局長 松崎壽三
漁撈大意	一	一	一	一	一	一	三九	一	一	一	技師 川合角也
英語	六二	六一	六二	六二	六一	六〇	五二	二三	二八	四五	囑託 檜山剛三 囑託 相原一郎介
水產貿易	一	一	一	一	一	一二	一	一	一二	一	囑託 大槻清三
合計	六三〇	五七三	五四七	六一六	六四八	六〇五	一七二	九三	一五〇		
實驗及實習 物理	二三回	二二回	二二回	一回	一回	一回	一回	一回	一回	一回	囑託 寺田寅彦 囑託 池上泰次郎 囑託 中村左衛門太郎
動物	一	二六	二七	一	一	一	一	一	一	一	技師 中澤毅一 囑託 石井重美
植物	一	三一	三六	一	一	二四	二五	一	一	一	囑託 中野治房
分析	一	二〇	二〇	一	五一	五四	一	一	一	一	助教 野元俊一 技手 山本祥吉
運用	五二	一	一	三七	一	一	一	四	一	一	技手 鎌田武造 技手 根磯知之吉
網、釣、索具製作	三六	一	一	二六	一	一	一	一	一	一	技手 關根磯吉 助手 野崎知之造
製圖	一	一	一	四三	一	一	一	六	一	一	技師 春日信市 技手 關根磯吉
製造法	一	一	一	一	一	五七	一	一	一〇三	一	技師 小野長次郎 技師 和田駿吉 技手 池田駿吉 助教 中山建雄
養殖法	一	一	一	一	一	一	一二	一	一	九八	技師 日暮忠

本表ノ外定時以外ニ於テ隨意科トシテ獨逸語ヲ課シタレトモ其時數ハ之ヲ略ス

學年	學科目	第一學年 漁撈科	第一學年 製造科	第一學年 養殖科	第二學年 漁撈科	第二學年 製造科	第二學年 養殖科	第三學年 漁撈科	第三學年 製造科	第三學年 養殖科	教官氏名
合計		一一一回	九九回	一〇五回	六九回	一四五回	一一四回	一〇回	一〇三回	九八回	

漁撈科

學年	期間	場所	項目
第二學年	大正五年自六月二十八日至八月二十五日	神奈川、靜岡兩縣東京府大島沿岸千葉縣館山及乙濱、太海村	各種漁業、各種漁具製作、漁船運用、海洋測、航海、捕鯨、水泳
第二學年	自大正五年十二月廿五日至大正六年一月七日	甲組千葉縣布長鴨川、勝浦、大原 乙組靜岡縣沼津、興津、清水、焼津	各種漁業 各種漁業
第三學年	大正五年自九月八日至十二月廿一日	一人宮城縣水産試驗場所屬船 東華丸	鰹一本釣漁業、ビーム、トロール漁業、鮭鱒流網漁業、蟹底刺網漁業、其他各種漁業 鰹釣漁業、鮪、秋刀魚流網漁業、海洋觀測、
第三學年	大正五年自九月廿一日至十二月廿三日	一人福島縣水産試驗場所屬船 磐城丸	同 鰹釣漁業、秋刀魚漁業
第三學年	大正五年自九月廿六日至十月三十日	一人千葉縣水産講習所所屬船 房丸	大敷網及其他漁業
第三學年	自大正五年十二月廿五日至大正六年一月十六日	甲 富山縣氷見、新湊	同
第三學年	大正六年自一月四日至一月廿三日	乙 靜岡縣網代、伊東、焼津	同

製造科

學年	期間	場所	項目
第二學年	大正六年自一月廿五日至二月廿五日	甲 長崎	トロール漁業 連子鯛延縄漁業
第二學年	大正六年自一月廿八日至二月廿七日	乙 下ノ關	トロール漁業
第二學年	自大正五年十二月十日至大正六年二月末	四名 南方諸島方面	鮪漁業
第二學年	大正五年自七月十一日至同三十日	靜岡縣沼津、清水、焼津、田子、松崎、稻取、伊東	生魚ノ輸送、節類其他乾製品、鹽子、罐詰等ノ製造及經營、販賣、水産物取引、鱶漁業組織、漁業組合等ニ關スル調査
第二學年	大正五年自七月二十日至八月八日	一名 支那廣東地方	水産物ノ販路並製造方法
第三學年	大正五年自八月二十七日至九月十二日	愛知、三重、大阪、兵庫、山口ノ一府四縣	製鹽法及各種水産物製造法並ニ販賣、取引等
第三學年	大正五年自七月十一日至八月二十六日	神奈川縣小田原實習場	節類、乾魚、鹽藏肥料各種罐詰、簿記、節類、濕乾鹽付試驗、鮮魚輸送試驗

養殖科

學年	期間	場所	項目
第二學年	大正六年自二月二十六日至六月	一名 樺太	蟹罐詰製造法及其工場經營法
第二學年	大正五年自七月九日至七月廿九日	高島實驗場	動物臨海實驗海洋觀測及漁撈並水泳實習
第二學年	大正五年自七月十日至七月廿三日	神奈川縣金澤	養蠣法
第二學年	大正五年自七月二十六日至八月十七日	大阪、靜岡、愛知三重、奈良、兵庫滋賀、岡山、廣島ノ一府八縣	各種魚介藻類養殖法
第三學年	大正五年十月十二日	千葉縣五井	海苔養殖
第三學年	大正五年自十月一日至十月十四日	一名 滋賀縣彦根	池沼ノ生産ニ就テ
第三學年	大正五年自十月二十三日至十一月二日	一名 山形縣飽海郡湯ノ田	日本海産いわがきニ就テ
第三學年	大正五年自十月十四日至十月十八日	群馬縣丸沼	湖沼研究並養鱒實地見學
第三學年	大正五年自十一月四日至十一月十日	小田原實習場	養殖魚類處理法

學年	期間	場所	項目
	大正五年自十二月五日至十二月十八日	新潟縣村上	鮭鱒人工孵化法
	大正六年自一月十八日至一月廿二日	三重、愛知ノ二縣	鰻ノ研究
	大正六年自二月十日至二月十一日	神奈川縣金澤	海苔養殖

四 別科

本學年ニ於テハ貝殼珊瑚ノ産地ヨリ水産工藝專修生徒ヲ募集シ隨時入學ヲ許可スルコトトシ目下在學ノ生徒八名アリ

五 指導及講話

地方水産業指導ノ爲メ講習及講話ヲ爲シタルモノ栃木、長野、鹿兒島ノ三縣ニ於テ養魚ニ關シタルモノアリ牡蠣養殖法ニ就テ兵庫縣ニ於テセルモノアリ富山縣ニ於テ船匠養成ノ爲メ講習シタルモノアリ又海藻蓆殖法ニ就テ岩手、千葉二縣ニ於テセルモノヽ外三重縣ニ於テ簡易水産講話ヲ行ヘリ

第三 調査及試驗

第一節 調査及試驗ニ關スル組織

本所ハ從來水産生物、養殖、漁撈、漁船、漁具、化學、製造及機械ニ關スル試驗ニ從事シタリシガ大正三年三月本所處務細則ヲ定メ漁業基本調査部、漁撈、養殖、製造、化學及漁船機械ノ五試驗部竝編纂部ヲ設ケ且試驗規則ヲ設ケ本所ノ業務ニ妨ナキ範圍ニ於テ一般ノ依頼ニ應シ又種苗拂下規則ヲ設ケ種苗配付ヲ爲スコトヽセリ其規則左ノ如シ

一 水産講習所試驗規則

大正三年三月農商務省令第五號

第一條 水産講習所ハ漁業基本調査、漁撈、養殖、製造、化學、漁船及機械ニ關スル事項ニ付試驗、鑑定、分析、檢定及設計ノ依頼ヲ受ケタルトキハ主管ノ業務ニ妨ケナキ範圍ニ於テ之ニ應スルコトヲ得

第二條 前條ノ規程ニ依リ依頼ヲ爲サムトスル者ハ願書ニ依頼事項及目的ヲ明カナラシムヘキ詳細ナル說明書類竝必要ノ圖面及現品ヲ添附シテ差出スヘシ

前項ニ依リ水産製造品等ノ鑑定又ハ分析ノ依頼ヲ爲サムトスル者ノ差出スヘキ現品ハ左記ノ區別ニ依ルヘシ但シ必要ノ場合ニハ更ニ相當ノ數量ヲ差出サシムルコトアルヘシ

製造ニ關スル事項

罐詰類	鑑定	普通成分	一成分毎ニ三箇以上
	分析	特別成分	一成分毎ニ三箇以上
鹽藏乾腊類	鑑定	形大ナルモノ	二尾
	分析	形小ナルモノ	一尾
節類	鑑定	普通成分	一尾
	分析	特別成分	一尾分
鰹鯊斯類	鑑定	普通成分	二箇以上
	分析	特別成分	五十匁以上
肉類	分析	普通成分	一貫匁以上
		特別成分	一成分毎ニ五百匁以上
肥料	分析		三百匁以上
脂肪油及蠟	鑑定 分析、檢定		三合又ハ一斤以上
食用油	鑑定 分析、檢定		六合又ハ二斤以上
藥用肝油	鑑定 分析、檢定		三合又ハ一斤以上
			六合又ハ二斤以上
皮革	鑑定 檢定		一封度又ハ二合以上
			二封度又ハ四合以上
食用藻類鑑定			一坪又ハ二枚以上
寒天及其原藻	鑑定	製品	同上
		原藻	八十匁以上
糊料及其原藻	鑑定	製品	五本又ハ十匁以上
		原藻	五十匁以上
沃度、沃度灰及其原藻	鑑定 分析	沃度及灰	十匁又ハ二枚以上
		原藻	十匁以上
罐詰用鐵葉	鑑定 分析		一封度以上
			五十匁以上
硫酸紙其他罐內被物	鑑定	紙類其他ノモノ	二枚以上
	分析	罐材ニ加工シタルモノ	二枚以上
		同	五箇以上
		同	同上

漁具材料等ニ關スル事項

網地	鑑定	一間以上
網糸	鑑定	十間以上
綱	鑑定	十間以上

浮子　鑑定　五箇以上
釣鉤　鑑定　十本以上
塗料　鑑定　一貫匁ヲ染メ得ヘキ材料百匁以上
分析

養殖ニ關スル事項

餌料　分析　定性
水質　分析　定量
土質　分析　定性　定量

二百匁以上
一升五合以上
三升以上
百匁以上
五百匁以上
容器ハ充分洗滌シタルモノヲ使用スヘシ

前項ニ掲ケサル事項ニ關シテハ前項ニ準シ適當ノ數量ヲ差出スヘシ

第三條　水産講習所試驗又ハ鑑定ノ必要ナシト認ムルトキハ其ノ依頼ニ應セス

第四條　差出シタル現品ハ依頼ニ應セサル場合又ハ出願ノ際依頼者ニ於テ豫メ返付ヲ申出テ其ノ承認ヲ得タル場合ノ外之ヲ返付セス

第五條　本規則ニ依リ依頼ヲ受ケタル事項ニ關シ必要アル場合ニ於テハ依頼者ヲシテ旅費ヲ負擔セシメ又ハ器具、機械、原料、消耗品又ハ人夫等ヲ提供セシムルコトアルヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十三年農商務省告示第四十三號水産講習所試驗規程及同年農商務省告示第六百六十三號試驗又ハ鑑定依頼者心得ハ之ヲ廢止ス

書式

試驗（調査、鑑定、分析、檢定、設計）願

一　事項　何々
一　添附書類　何通
一　現品　何々

前記事項御試驗（調査、鑑定、分析、檢定、設計）依頼致度別紙説明書類（及現品）相添へ此段相願候也

年　月　日　住所
依頼人　何　某　印

水産講習所長氏名殿

二　水産講習所種苗拂下規則

大正三年三月農商務省令第六號

第一條　水産動植物種苗ノ拂下ヲ受ケムトスル者ハ第一號樣式ニ依ル願書ニ養殖ノ場所、面積及設備等ニ關スル設計書ヲ添ヘ水産講習所長ニ差出スヘシ

第二條　拂下クヘキ種苗ノ種類、數量及價格ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第三條　種苗ノ拂下ヲ受クルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル

一　地方水産試驗場、水産講習所、學校、水産組合、漁業組合、産業組合
二　道、府、縣、郡、市町村其ノ他ノ公共團體
三　一年以上養殖事業ニ從事シ相當ノ成績ヲ擧ケタルモノ

前項ニ該當セサル者ト雖水産講習所長ニ於テ適當ト認メタル者ニ對シテハ拂下ヲ爲スコトアルヘシ

第四條　水産講習所長ニ於テ必要ト認ムルトキハ水産動植物ノ養殖試驗ヲ爲ス者ニ對シ無償ニテ種苗ヲ下付スルコトヲ得

第一條ノ規程ハ前項ニ依リ種苗ノ下付ヲ受ケムトスル者ニ之ヲ準用ス

第五條　種苗拂下ノ許可ノ通知アリタルトキハ出願人ハ水産講習所長ノ指定シタル期限迄ニ其ノ價格ヲ納付スヘシ但シ郵便ニ依ルトキハ書留郵便ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第六條　出願人種苗ノ送附ヲ受ケタルトキハ第二號樣式ノ領收證ヲ差出スヘシ

第七條　種苗ノ送付ニ要スル荷造費、運賃及其ノ送付中ニ生シタル種苗ノ斃死、損傷等ノ損害ハ出願者ノ負擔トス

第八條　種苗ノ拂下又ハ下付ヲ受ケタル者ハ水産講習所長ノ指定シタル種苗ノ發育狀況等ニ關スル事項ヲ水産講習所長ニ報告スヘシ

第一號樣式

種苗拂下願

一　何々　何尾（粒）

右養殖致度候ニ付拂下相成度御所種苗拂下規則ニ依リ
此段相願候也

年　月　日　何縣何郡何町(村)
漁業組合理事(出願人資格)
何　某　印

水産講習所長氏名殿

(受領者出頭スルコト能ハサルトキハ種苗屆先、取扱驛名及取扱運送店名ヲ附記スヘシ)

第二號樣式

種苗領收證

一何々　何尾(粒)
右領收候也

年　月　日　何縣何郡何町(村)
何　某　印

水産講習所長氏名殿

第二節　各部事業ノ概要

一　漁業基本調査部

漁業基本調査ハ海洋及生物ノ變化ヲ調査シ漁業ノ豐凶ヲ豫測シ漁場ノ擴張ヲ圖ルノ目的ニ出デ農商務省ニ於テハ明治四十二年以降之カ調査ニ從事シタリシガ大正三年四月該事務ヲ本所ニ移シ且遠洋漁業奬勵法ニ依リ遠洋漁場ノ調査事務ヲ委囑セラレタルヲ以テ新ニ漁業基本調査部ヲ設ケ雲鷹丸隼丸等ヲ以テ調査ノ事ニ從ヒ且地方水産試驗場及燈臺等ノ海洋觀測報告ヲ徵シ報告書ヲ編シ若ハ官報ニ掲載セリ

一、生物調査

(イ)稚魚及魚卵ノ研究　魚卵及稚魚ノ研究ハ獨リ魚族ノ産卵及發育ノ狀況ヲ知ルニ止マラズ漁期竝ニ移動區域ヲ明ラカニシ蕃殖保護上ノ根底ヲ樹立セシムルニ重要ナルモノトス仍テ千葉縣下舘山高島實驗場ニ於テ明治四十五年以來此研究ヲ施行シ前年度ニ於テ其成績ヲ本所試驗報告第十一卷第五冊ニ發表シタル外尙未知ノ材料ニ就キテハ引續キ研究中ナリ

(ロ)蝦蟹類調査研究　蝦蟹類ノ肉ハ人ノ嗜好スルモノ多ク殊ニ歐米人及支那人ハ此肉味ヲ賞スルコト甚シク從ツテ此等ノ罐詰或ハ乾製品ノ輸出ハ逐年增加ス故ニ本所ハ本邦ニ產スル重要蝦蟹ノ種類及分布ヲ研究シ又其蕃殖ノ狀態ヲ調査シ此等漁業ノ發達ヲ圖リ蕃殖保護ノ方法ヲ講ゼンガ爲メ數年前ヨリ此ガ研究ニ從事シたらばかに、さくらゑび及瀨戸內海產蝦ニ關シテハ試驗報告トシテ既ニ公表シタリ

(ハ)鯛ノ調査　瀨戸內海關係諸府縣ト聯絡シテ一昨年度ヨリ鯛ノ調査ニ着手シ昨年度ニ至ル二ケ年ニ於テ調査セシ結果春季鯛ノ去來、稚魚ノ發生及ヒ漁獲率ト水溫トノ間ニハ密接ノ關係アルモノニシテ春季水溫ノ上昇例年ニ比シ速カナル時ハ備讃瀨戸ニ來游スル親魚多キモ水溫ノ上昇遲ル、年ハ中途ニ於テ放卵スルガ故ニ備讃地方沿海ニ來ルモノ少ク親魚ノ魚獲少キノミナラズ卵ノ分布稚魚ノ發生率等少ナキコトヲ明カニスルコトヲ得タリ

(ニ)船喰蟲　海水ニ浸サレタル木材ヲ蝕害スル蟲中最モ恐ルベキハ船喰蟲ナリ本所ハ之ガ防禦ノ方法ヲ講ズル爲メ昨年度ヨリ引續キ該蟲ノ蕃殖時期、侵害方法、各種鹹度ニ對スル抵抗力ヲ研究シ又防蟲劑トシテ民間ニ使用スル諸種藥品ノ效力ニ關シ試驗中ナリ

二、海洋調査

漁業豐凶ノ原因ハ主トシテ海流ノ移動ト之ニ伴フ浮游生物ノ消長トニ在リ而シテ漁場ノ位置ハ海底ノ性質、水深、水溫、比重、水色等ヲ參酌シテ檢出スルモノナルヲ以テ太西洋沿岸諸國ハ夙ニ聯合調査會ヲ起シ各自重要魚族ノ習性、產卵場、漁場、漁期等ノ研究ニ從事セリ本邦ニテハ未ダ如斯設備ヲ有セザルモ本所ハ現在ノ設備ヲ利用シ得ル限度ニ於テ又燈臺、地方水產試驗

場、講習所ト連絡シ各種ノ調査試驗ヲ行ヘリ其主要ナル事項左ノ如シ

(イ)相模灘調査　相模灘特ニ伊豆七島附近ノ海洋狀態ハ常ニ變化著シク頗ル錯綜セルモノナルモ魚族ノ廻游ト海洋狀態トノ關係ヲ研究スルニ好個ノ場所ナルヲ以テ大正四年十二月隼丸ヲ以テ此附近ニ於ケル秋刀魚ノ廻游ニ就キ調査セシガ大正五年ニ於テモ比較研究ノ爲メ同年十一月同船ヲ以テ海洋ノ調査ヲ行ヘリ

(ロ)東京灣調査　大正二年九月以降東京灣内ニ於ケル海洋狀態ノ調査ニ從事セリ本調査ハ灣内海苔介類ノ生産ト海洋狀態トノ關係ニ就キ調査スルノ目的ナルヲ以テ大正五年及ビ同六年ニ於テモ引續キ前年ト同樣ノ調査ヲ行ヘリ

(ハ)金華山沖調査　本所ハ大正三年以來年々十月雲鷹丸ヲ以テ金華山沖合東方約二百浬ノ間ニ於テ精密ナル調査ヲ行ヒ此位置ニ於ケル定期調査ノ基準ヲ作レリ乃チ大正五年十月ニ於テモ同一場所ニ於テ同樣ノ調査ヲナシ累年比較ノ材料ヲ得ルニ努メタリ

(ニ)オコツク海調査　雲鷹丸ヲ以テ大正五年七八月オコツク海ノ海洋調査ヲ行ヒ特ニ堪察加西岸北緯五十一度乃至五十六度ノ間ニ於テ鱈及鮭鱒漁業ト海洋狀態トノ關係ヲ調査シ鱈漁場トシテ適當ナル面積約一萬二千平方浬ノ存スルコトヲ確メ得タルノミナラズ同沿岸中特ニコムバコバ以北ハ鮭ノ分布多ク流網漁場トシテ良好ナルコトヲ知ルヲ得タリ其他オコツク海ヲ東西ニ三回横斷シテ海洋ノ調査ヲ行ヒ更ニ樺太東部多來加灣ノ海洋狀態ヲ調査シ大正四年ニ於ケル海洋狀態ト比較セリ

二　漁撈試驗部

甲　漁具使用試驗

一、發動機船巾着網片手廻漁法試驗

本所ハ發動機漁船ヲ使用スル片手廻漁法ヲ試驗スルノ必要ヲ認メ大正五年度夏期舘山灣ニ於テ之ヲ行ヒタリ漁船ハ本所々屬七號艇ヲ使用シ副漁具トシテ發動機「カブスタン」及「デリツク」ヲ設備シ網艙ヲ船尾ニ設ケテ船ノ機走ニ從ヒ網ノ自然走出ニ便シ以テ投網ハ任意左右舷ニ廻轉自在ナル裝置トシ更ニ推進器ヲ被包スルニ帆布製被布ヲ使用セリ試驗ニ使用シタル網ハ鰮巾着網長百二十二間、重量百七十八貫ナリ而シテ投網ハ船尾ヨリ揚網ハ舷側ヨリシ網裾締括ハ「カブスタン」ヲ使用シタルニ作業輕捷ニシテ勞力ヲ省略シ稍々成績ヲ擧クルヲ得タリ依テ本年度ニ於テハ更ニ漁網及漁船ヲ改造シ本試驗ヲ繼續シテ一層研究ノ歩ヲ進メントス

二、定置漁具試驗

數年前ヨリ鰤大敷網漁場ノ地理的關係魚族來游ノ狀況、網ノ構造及敷設方法其他經濟事項ノ調査試驗ヲ開始シ主トシテ建網敷設ニ最適當ナル位置及網ノ敷設ト潮流速力トノ關係トヲ究メムトシ各地ニ於テ實地調査ニ着手セシモ昨年度ハ事務上ノ都合ニヨリ一時中止セシヲ以テ本年度ヨリ引續キ各地漁場ニ於テ繼續研究セントス

尙大正三年度ヨリ千葉縣水産講習所ト聯絡シテ舘山灣内及太海村ニ小規模ノ定置漁具ヲ敷設シ潮流ト網敷設トノ關係、浮子網地染料ノ良否網ノ材料等ニ就キ試驗セシモ天候及漁場ノ關係上昨年度ハ一時中止シタリ本年度ハ舘山灣ニ於ケル試驗ヲ復活シ繼續試驗セントス

三、鮭鱒鰊流網試驗

(イ)從來鮭鱒ハ河川ニ溯上スル前沖合ニ於テ捕獲スルコト稀ナリ然レドモ季節ニ依テハ沖合ニ群泳ヲ認ムルノ事實アルヲ以テ大正三、四年度雲鷹丸ヲシテオコツク海距岸二三十浬ノ沖合ニ於テ

流網ヲ試驗セシメ成績ノ見ルベキモノアリシモ盛漁期ヲ逸セシヲ以テ五年度ニ於テハ初漁期ヨリ盛漁期ヲ通シテ之ガ試驗ヲ行ヒ且其ノ漁獲物ヲ船内ニテ罐詰ニ製作スル試驗ヲナシ好結果ヲ得タリ故ニ本年度ハ少シク規模ヲ大ニシテ前記鮭鱒ノ外ニ紅鱒ヲ加ヘ其ノ漁獲及船内罐詰製造ヲ試驗セントス

(ロ)鰊モ亦産卵期以外オコツク海ニ其ノ群游ヲ認ムルコト往々之アルヲ以テ沖取法ヲ試驗スルノ必要ヲ認メ大正四年度ニ於テ之ヲ行ヒシガ試驗期日短ク成績ノ見ルベキモノナカリシヲ以テ昨年度ハ期日ヲ延長シテ樺太東海岸ニ於テ同試驗ヲ行ヒシモ充分ノ結果ヲ得ズ故ニ本年度引續キ同方面ニテ繼續試驗セントス

乙　漁具試驗

(イ)網絲ノ腐敗試驗　網絲ノ腐敗ハ水溫、水質等ノ差ニ依リ甚シク差アルヲ以テ其ノ程度ニヨリ染料ヲ施スハ保存上必要ノ條件ナルニ係ラズ之ガ試驗ヲナシタルコトナキヲ以テ染料ヲ施ス時期ヲ誤ル場合少ナカラズ故ニ昨年度ヨリ之ガ試驗ヲ行ヒ水溫水質ニヨル差異ヲ明ニセントセルモ未ダ成績ヲ擧グル能ハザルヲ以テ本年度モ引續キ其ノ試驗ヲ繼續ノ豫定ナリ

(ロ)網絲及ビ網地ニ對スル水ノ抵抗試驗　本試驗ハ前年度來繼續シ其ノ一部ハ既ニ本所試驗報告第十卷第五册ニ於テ報告シ更ニ引續キ試驗セントスルモ設備完全セザルヲ以テ一時中止セリ

(ハ)染料試驗　「コールタール」ヲ漁具ノ染料トシテ使用シ有效ナルハ既ニ定論アルモ「コールタール」ノ良否撰別法ニ就テハ未ダ研究セシコトナキヲ以テ知ルヲ得ズ而シテ其ノ撰別法ニ就テハ當業者ノ切望スル所ナルヲ以テ昨年度ニ於テ試驗セルガ未ダ成績ヲ擧グルヲ得ザルガ故ニ本年モ引續キ試驗セントス

丙　集魚燈試驗

(イ)水中ニ於ケル照度ノ寫眞的研究　前年度來館山灣ニ於テ研究中ナリシガ標準照影ニ二三ノ改良ヲ加ヘ特ニ直下ニ於ケル照度ノミノ研究ヲ進メ稍々其緒ニ就ケリ依テ引續キ同試驗ヲ進ムルト同時ニ斜ノ方向ニ於ケル照度ノ研究ヲモ行ハントス

(ロ)光色ノ集魚ニ及ボス影響　未タ充分ノ結果ヲ得ズ引續キ試驗セントス

(ハ)燈光照射圏ノ廣狹ト集魚ノ模樣　此研究ニ就テハ前年度特種ノ反射笠ヲ考案製作シ館山灣及其他ニ於テ實驗セシモ其試驗回數僅少ニシテ其効力ヲ判定スルニ至ラズ依テ來年度ニ於テモ同試驗ヲ繼續セントス

三　養殖試驗部

一、淡水養殖試驗

(イ)溫水性魚類養殖試驗　深川區冬木町養魚池ニ於テハ前年度ニ繼續シテ日本種及獨逸種ノ鯉卵孵化試驗ヲ行ヒ種苗拂下規則ニ依リ昨五年度ニ拂下ゲタル鯉兒ハ日本種二萬五千六百尾獨逸種革鯉兒三千九百尾ニシテ神奈川、群馬、茨城、栃木、愛知、巖手ノ六縣ニ配附セリ、又しらす鰻ノ池中飼育、試養魚ノ餌料ニ關シテハ前年度ノ研究ヲ繼續セリ

(ロ)冷水性魚類養殖試驗　冷水性魚類養殖ハ前年度ニ繼續シ北海道擇捉島ウルモベツ谷紅鱒孵化場ニテ採卵シタル紅鱒卵十萬粒ノ分與ヲ受ケ昨年十二月中同地ヨリ群馬縣利根郡丸沼試驗地ニ輸送シ孵化飼育セリ、姫鱒ハ丸沼ニテ昨年度百十六萬粒ヲ採卵シ其一部ヲ群馬縣内ニ四ケ所中宮祠湖及福島、長野二縣下ノ希望者ニ分讓シ、虹鱒ハ四萬二千粒ヲ採卵シテ其ノ一部ヲ朝鮮總督府ニ分讓シタリ、又佐賀縣及朝鮮佐瀨熊藏氏ノ

希望ニ依リ菅沼產嘉魚卵二萬五千粒ヲ採卵シテ分讓シタリ

(ハ)鮎、鱒及しらす鰻ノ移殖　志賀重昂氏ノ依賴ニ依リ前年度ト同樣神奈川縣厚木町ニテ相模川產鮎卵ノ人工受精ヲ行ヒ約三十萬粒ト本邦產鱒ノ三年生ノモノ十二頭トヲ横濱港ヨリ北米合衆國「シャートル」ニ輸送移殖シタルニ鱒ハ無事到着シ同國水產局養魚池ニ放養セリトノ通知ニ接シタリ

しらす鰻ハ長野縣諏訪湖漁業組合ヨリノ依賴ニ依リ本年四月本所員ヲ茨城縣霞ケ浦ニ派出シ約三十萬尾ヲ採捕セシメ之ヲ諏訪湖ニ輸送シ湖中ニ放流シタリ

二、鹹水養殖試驗

(イ)輸出生牡蠣養殖試驗　米國西部沿岸ヘ生蠣ノ儘輸出スルノ目的ヲ以テ明治四十二年度ヨリ神奈川縣下金澤灣ニ於テまがきノ育養ヲナシ、四十四年度ヨリ今日ニ至ルマデシャトル、桑港、及ホノルヽ地方ヘ十數回輸出シ試賣シタルニ其成績良好ニシテ斃死率僅ニ約壹割ノ割合ニテ對岸ニ到着スルコトヲ確メ、尙生牡蠣百個ニツキ米貨一弗乃至一弗二十五仙ノ價格（邦貨ニテ牡蠣一個貳錢乃至貳錢五厘）ヲ以テ販賣スルヲ得タリ

該試驗ハ養蠣方法ノ改良ニヨリ貳十日間氣中運搬ヲナシ得ベキコトヲ確メ輸出問題ニツキ一光明ヲ開キタルモノナリ。爾來對岸米國養蠣家ノ注意ヲ喚起シ本邦ヨリ輸入ヲ希望スルモノ增加ノ傾向アリト雖モ經濟的ニ商品トシテ輸出シ永ク國產伸長ヲ計ルベキハ尙今後ノ努力ヲ要スル所多シ依テ大正六年度ヨリ專ラ經濟的ノ試驗ニ着手セリ。

又從來本邦ノ沿岸ニ廣ク分布スル牡蠣ノ一種いたばがきハ歐洲產優良種ニ比シ其形態習性等酷似スルモノアリト雖モ未タ其蕃殖ヲ試ミタルモノナシ仍テ四年度ヨリ金澤灣外夏島附近ノ水底露出セザル海床ニ親貝ヲ移殖シ稚貝採集試驗施行中ナリ、尙兵庫、香川兩縣ニ於ケル該種蠣床ヲ調査シ、養殖方法ヲ指導シ、製品罐詰ヲ倫敦ニ試賣シ好評ヲ得タリ。

(ロ)牡蠣ノ餌料及水質土質分析試驗　本試驗ハ大正三年度ヨリ引續キ試驗中ニシテ養蠣上ノ基礎的研究タラシメントス。

三、藻類養殖試驗

(イ)海苔色素試驗　東京灣產あさくさのりニ就テ試驗シあさくさのりニハ葉綠素、黃色素（「キサントフキル」「カロチン」ノ二色素ヲ含ムナラン）紅藻素及ヒ藻青素ノ存在スルコトヲ知リ先ヅ紅藻素、藻青素ニ就テ其性質、溶解度、比重、酸及「アルカリ」ニ對スル反應、他ノ藻ニ於ケル同色素トノ比較試驗ヲ行ヒ尙ホ淺草海苔ノ貯藏ト變色、製品ト新鮮材料トニ於ケル色素量ノ比較、色素量ト品質トノ關係等ニ就テ試驗ヲ行ヒタリ

(ロ)海苔施肥試驗　本試驗ノ目的ハ色澤品質トモ粗惡ナル海苔ヲ產スル場所ヨリ優良ナルモノヲ得ントスルニアリ、千葉縣五井本所海苔養殖試驗地ニ於テ二十間ニ四十株ヅヽ三柵ノ濱ヲ立テ試驗シタリ、肥料トシテハ智利硝石ヲ用キ始メハ一柵ニ對シ一回ニ四匁八分ヅヽ後ニハ二十四匁ヅヽヲ一斗ノ海水ニ溶カシ露出セル際如露ニテ濱ニ注キ十一月七日ヨリ三月二十六日迄ニ五十七回施肥シタリ施肥濱ヨリ五千七百五十三枚此價格三十三圓四十八錢四厘不施肥濱ヨリ三千八百五十六枚此價格二十一圓七十九錢三厘ノ生產アリ、而シテ濱ハ幾分流失シタル故各百二十株ヅヽヨリ右ノ割合ニテ生產シタルモノト假定スレバ施肥濱ヨリハ三十八圓三十六錢五厘不施肥濱ヨリハ二十六圓七十七錢ノ收入アリテ其差十

一圓五十九錢五厘ナリ、肥料代及施肥ニ要シタル手間賃ヲ見積リ之ヲ差引タモ尙ホ一柵ニ對シ二圓三十一錢四厘ノ利益アリタリ然レバ五井ニ於ケル普通一柵ノ收入ハ十圓內外ナルヲ以テ約二割ノ收益ヲ增加スルコトヽナル

(ハ)かぢめ成長試驗　前年ヨリ引續キ千葉縣水產試驗場ト連絡シテ安房郡富崎村布良ニ設ケタル試驗地ト神奈川縣試驗場ト連絡シテ葉山ニ設ケタル試驗地トニ於テ試驗シタルニ十一月頃ヨリ二三月頃ニ至ル間ノ方夏季中ニ於ケルヨリモ成長率大ナルコトヲ確メ且成長率ハ場所ニ依テ異同アルヲ以テ追テハ他縣ト連絡調査セントス

(ニ)あぢも移殖試驗　千葉縣水產試驗場ト連絡シテ船形町地先ニあぢも移殖試驗ヲ行ヒタルニ種子ヲ以テスルヨリモ根莖卽チ俗ニ所謂株ヲ土俵ニ挿シ之ヲ沈下スル方有効ナルコトヲ確メタリ

四、養殖土木試驗

大正五年度ニ於テハ淀川上流ニ於ケル鮎ノ急激ニ減少シタル原因ヲ調査シ同川筋下流毛馬及長柄ノ堰堤ニ魚梯設置ノ指導ヲ爲シタリ又滋賀縣下池內川ニ魚梯籬形ヲ裝置シ鮎ノ泝上力ト水流トニ關スル試驗ヲ行ヒタリ

四　製造試驗部

一、鰮油漬罐詰熟成ノ研究

本試驗ハ大正五年四月全國水產試驗場、水產講習所長會議ノ協定ニ基ヅキ關係府縣試驗場及ヒ講習所ト本所トノ聯絡試驗ニ係ルモノナリ鰮油漬製造後ニ於ケル變化卽チ俗ニ所謂熟成ト其商品タル價値增進トノ關係ヲ研究シ其應用問題トシテ人爲的熟成法ヲ研究セムトスルモノニシテ本年ハ專ラ第一ノ問題ニ關シテ研究ヲナシタリ

二、低熱罐詰法ノ理論的研究

從來低熱罐詰法ニ就テハ主トシテ實際的方面ヲ研究シタリ本年度ハ其理論的方面ヲ研究シ本方法ノ「アッペール法」ヲ主體トセズシテ寧ロ包藏法ヲ主體トスルモノナルヿヲ推究シ從ツテ從來ノ方法以外更ニ本理論ノ適用範圍アルベキコトヲ確信スルニ至レリ

三、食品貯藏ニ瓦斯ヲ應用スル試驗

本年度ハ都合ニヨリ行ハス

四、罐詰注入油トシテ本邦產植物油ノ精製試驗

本邦產植物油ヲ精製シ油漬罐詰ノ油煤用ニ供スルコトハ數年前ヨリ研究ヲ始メ略ホ所期ノ目的ヲ達スルニ至レリ是ヲ以テ更ニ罐詰注入用ニ適スヘキ一層良好ナル油ヲ得ント欲シ新ナル精製法ノ研究ヲナセリ本年ハ豫備的試驗ヲ行ヒタレ共略ボ結果ヲ得タリシヲ以テ更ニ之ヲ明年度ニ繼續試驗セントス

五、調味材料製造試驗

水產物ヲ利用シテ諸種ノ調味材料ヲ製造スルコトハ頗ル興味アル問題ナレ共未ダ多ク研究セラレザルカ故ニ本年度ヨリ諸種調味材料ノ製造試驗ヲ開始シ「ウオーセスター、ソース」類似品竝ニ「トマトーケチヤツプ」ノ製造法ニ關シテハ相當ナル成績ヲ得タリ更ニ明年度此試驗ヲ繼續シ新ナル調味材料ノ試製ヲ行ハントス

六、鮪油漬罐詰製造試驗

合衆國南部カリホルニヤ州ニ於ケル鮪油漬罐詰業ノ盛大ナルハ一昨年ノ產額約五十萬函ニ徵スルモ知ルヲ得ヘシ而シテ之カ原料ハ本邦ニ產スルびんながが鮪ナリ農商務省所屬船得撫丸ハ漁場探檢ノタメ小笠原列島方面ニ出動シ該魚ヲ多獲シタリシヲ以テ之ヲ原料トシ彼地ノ製造法ニ則リ之レガ輸出向製造ヲ試ミシニ優良ナル物品ヲ得タリ

七、鯖油漬罐詰製造試驗

鯖油漬罐詰ノ賞用セラルヽハ罐詰トシテノ鶏肉及ヒ七面鳥ノ肉ニ類似スルヲ以テノ故ナリ而シテ本邦ニ多産スル鯖ハ其肉色白クシテ脂味鮪肉ニ劣ラサルヲ以テ之カ利用トシテ輸出向製造ヲ試ミタルニ試製ノ結果ハ頗ル優良ニシテ彼ノ地ノ製品ニ酷似シ食味亦佳良ナリ將來歐米市場ニ相當ノ聲價ヲ擧ケ得ル望アリ

八、鯨肉ノ利用試驗

鯨肉ノ或部ハ食用ニ供スルモ大部分ハ肥料トナス外アラザリシガ東洋捕鯨株式會社ノ依賴ニヨリ種々利用法ノ研究ヲ實行シタリ即チ(一)牛肉ニ擬シテ「コーンビーフ」樣ノ罐詰トナス事(二)豚肉ノ如ク燒肉トナス事(三)鯛田麩ノ如ク肉纖維ヲ味付「ソボロ」トナス事(四)鯛味噌ノ如ク製スル事(五)鱈ノ田麩ノ如ク纖維ヲ乾燥スル事(六)鮫節ノ如クニ製法ヲ加フル事(七)乾燥肉ヲ製スル事(八)養魚ノ餌料トナス事(九)養鶏ノ飼料トナス事、以上ノ中未着手ノモノアルモ(一)ヨリ(五)ニ至ル各項ハ各好成績ヲ得來年度ニ於テハ販賣品トシテ計劃スルモノアルニ至レリ

九、製革試驗

海驢ノ幼獸皮ハ前年來ノ試驗ノ結果ニヨリ單寧鞣法ヲ行ヒ銀面ヲ剝キテ染色シ袋物及鼻緒等ノ用ニ供スルヲ以テ本皮固有ノ性質上最モ適當ナルコトヲ確メタリ

海豚革ハ從來厭フベキ惡臭ヲ有スルコトヲ欠點トシ脫臭法困難ナリシガ試驗ノ結果簡單ナル作業ニヨリ完全ニ脫臭スベキ方法ヲ考案シ此欠點ヲ除キ得タリ

臘鼎獸毛皮ハ從來原料ノマヽ主トシテ英國ロンドンニ致サレ同地ニテ鞣製及色染ヲ施シタル後更ニ他國ニ輸出セラルヽヲ例トセリ、而シテ其原料皮ト製品トノ間ニ著シキ價格ノ差アルハ吾

人ノ夙ニ遺憾トスル所ナリ本所乃チ之カ鞣製及色染ニ就キ試驗ヲ行ヒ稍見ルヘキ成績ヲ得タリ依テ更ニ試驗ヲ續行セントス

五　化學試驗部

一、魚類ノ白子ノ研究

(イ)にべ、ぶり、むつ、すずき、いしなぎノ白子ヨリ分離セル六種ノ新「プロタミン」ニ就キテハ已ニ本所試驗報告第十二卷第一冊ニ公表セシカ尙研究ヲ進メン爲更ニ白子ヨリ「プロタミン」ヲ硫酸鹽トシ分離セントス

(ロ)「プロタミン」ヲ分離セル殘滓ヨリ「ニウクレイン」酸ヲ分離セントス。

二、水產物ノ營養價値試驗

水產物ノ營養價値ニ關スル從來ノ試驗成績ハ極メテ尠シ然モ水產物ハ本邦食料ノ主要部ヲ占ムルモノナルヲ以テ之レカ化學的成分ヲ知リ動物試驗ヲ行ヒテ其ノ營養價値ヲ明ニセントシ目下試驗準備中ナリ。

三、うるしぐさノ研究

該藻ノ主成分ノ分離中ニ屬ス

四、あさくさのりノ研究

品質ト成分トノ關係ニ就キテハ本所試驗報告第十二卷第三冊ニ報セリ、本年度ニ於テハ產地ト成分トノ關係ニ就キ產地ヲ異ニシテ價格ノ同シキ材料ヲ得特種成分ニ就キ分析セリ、尙蛋白質及ヒ「アルコール、エキス」ハ乾海苔ノ價値ニ關係スルコト大ナルヲ以テ目下夫々成分ノ分離ニ着手シ追テ研究セントス

五、鰹節ノ研究

(イ)製造ニ關スル試驗ノ結果ハ本所試驗報告第八卷第一冊及ヒ第十冊ニ報ゼシガ本年度ニ於テハ鹿兒島、高知、三重、靜岡、福島ノ五縣ト聯合シ普通法及ヒ濕乾法ニ依ル製品ノ比較試驗ヲ行

ヒ已ニ各地水產試驗場ヨリ本所ニ送附セル製品ニ就キ品評會ヲ催シ目下該試製品ノ分析試驗中ナリ

(ロ) 漁場ノ相違ニ因ル鰹肉ノ成分ノ比較ニ就キテノ研究アルヲ聞カズ然モ各地ノ鰹節ニ就キ論ゼントセバ原料ノ相違ヲ確知スルノ必要アルハ論ナシ依テ本年度特ニ技術者ヲ沖縄、鹿兒島、高知、靜岡、福島、宮城ノ諸縣ニ派遣シ原料ヲ該地ニ於テ適當ノ程度迄處理シテ本所ニ持參セシメ、水分、灰分、「エーテル、エキス」、窒素ノ總量、溫水可溶、「モノアミノ」酸、燐ノ總量、溫水可溶、同無機、「イノシン」酸及「ヒスチヂン」、ヲ定量シ又加水分解物ニ就キテハ「ブリン」「クレアチン」等ヲ定量セリ

但シ近時鰹節ノ味トシテ「イノシン」酸ヲ擧クルモノアレトモ未タ之カ定量法トシテ賞揚スヘキモノナキハ遺憾トスル所ナリ、依テ目下「イノシン」酸ノ分離ヲ企ツ追テ之ガ方法ノ研究ヲ考案中ナリ

六、罐詰蝦肉ノ軟化原因調査試驗

本年度ニ於テハ原料蝦肉及ヒ處理中ニ如何ナル變化ヲ爲スヤニ就キ地方水產試驗場ト連絡試驗セントセシガ都合上中止セリ

七、昆布醬油

本年度ニ於テハ豫備試驗トシテ黴ノ適溫及ヒ蛋白質、炭水化物分解力試驗ヲ行ヘリ

八、寒天原料藻類

本問題ニ關シテハ本所試驗報告第十二卷第三冊ヲ以テてんぐさ、ゑごのり及ビおごのりノ成分比較ヲ公表セシガ寒天製造上原藻ノ凝固力ノ强弱ハ製品品質ニ重大ナル關係アリ然ルニ當業者ノ原藻ニ關スル檢査ハ只從來ノ經驗ニ依リ何等此點ニ及バザルハ遺憾トスル所ナリ依テ本年度ニ於テハ各地產てんぐさニ就キ本所考案ノ測定器(本所試驗報告第九卷第三冊參照)ヲ以テ凝固力ヲ測定シ當業者ノ便宜ヲ圖ラン爲メ目下試驗中ナリ

九、魚油ニ關スル試驗

(イ) 魚油防臭法　魚油ノ惡臭ヲ發生スル原因ハ種々アレトモ挾雜スル煮汁ノ腐敗臭ニ因ルモノ頗ル惡影響ヲ與フル如クナルガ故ニ之ガ防臭方法ヲ試驗シ好成績ヲ得タリ殊ニ鱈肝油ノ採製等ニハ良好ナルヲ認メタリ

(ロ) 時計油　前年來引續キ試驗セル海豚腦顎油製時計油ハ輸入品ニ比シ粘力ノ低度ナルヲ缺點トシタリシカ精製法ノ改良ト相待テ粘稠力ノ强キ蓖麻子油等ノ適量ヲ配合セバ此缺點ヲ補フコトヲ試驗シタリ以來民間事業トシテ輸入品拂底ノ場合需用者ニ供給スルニ至レリ

(ハ) 魚油性質ノ檢定　本試驗ハ前年來繼續セルモノニシテ本年度ハ千葉縣產眞鰯、背黑鰯、富山縣產螢烏賊、其他鰮、鯖、紅鮭等ノ油ニ就テ其性質ヲ測定セリ

(ニ) 魚油硬化法試驗　前年度ヨリ繼續研究ノ結果原油ノ採取宜シキヲ得バ精製硬化共ニ容易ナルヲ知リ十數種ノ魚油ニ就キ試驗ヲナシ好結果ヲ得タリ

一〇、苦汁利用試驗

前年度ヨリ繼續試驗ヲ行ヒ鹽化加里ヲ先ヅ「カーナリツト」トシテ分離シ次デ精製シ八五—九五%ノ鹽化加里ヲ採取スルコトヲ得タリ

一一、沃度及ビ加里給源調査試驗

本試驗ハ專ラ海藻中ノ沃度及ビ加里含有量ト產地季節及ヒ部分ノ相違トノ關係ヲ明ニセントスルニアリ本年度ハ千葉縣水產試驗場ト協力シかぢめノ葉、莖、ニ就キ已ニ昨年六月ヨリ十二月ニ至ル材料ニ就キ定量ヲ了ヘ尙引キ續キ試驗中ナリ

一二、網絲塗料ノ研究

網絲塗料トシテ「コールタール」ノ優秀ナルハ已ニ本所試驗報告第九卷第六冊ニ記載サルルカ如クナレトモ其品質ノ鑑定竝ヒニ效力ノ程度ニ關シテハ未タ不明ノ點少シトセス依テ本試驗ハ此等ノ諸點ニ就キ研究セントスルニアリ本年度ニ於テハ已ニ粘度灰分量及ヒ揮發成分ヲ定量シ目下主要成分ニ就キ試驗繼續中ナリ

一三、鰹節黴ノ研究

本問題ノ研究ハ都合上來年度ニ延期セリ

一四、罐詰細菌ニ因ル化學的研究

罐詰貯藏中內容ハ變化ヲ蒙ムルモノニシテ其惡變ノ主因ハ容器中ニ存スル細菌ノ化學的作用ナルコト明白ナリト雖モ從來水產物罐詰ニ關シ此方面ノ研究極テ乏シク之ガ影響ヲ蒙リ斯界ノ問題トナレルモノ多シ依テ本年度ニ於テハ鮑水煮及ヒ鰛油漬罐詰ノ細菌ノ發育適溫竝ニ性質ニ就キ研究ノ步ヲ進メタリ

一五、膠品質鑑別法

膠質ノ良否ヲ鑑別スル方法ハ參考書ニ乏シカラサレトモ精組其宜シキヲ得サル爲メ弘ク應用スルニ當リ不便ノ點アリ故ニ膠質ノ良否ノ標準トシテ色、透明度、融解度、粘力、反應等ヲ測定セバ略ホ之カ良否ヲ識別スルコトヲ認メ且ツ其測定方法ヲ考究シ實用上稍々滿足ナル成績ヲ得タリ

六　漁船機械試驗部

一、推進器保護裝置試驗

網漁業中網具ガ漁船ノ推進器ニ纏綿シ爲メニ意外ノ損害ヲ蒙ムルコト尠シトセズ依テ本所ハ大正四年度ヨリ之ガ研究ニ從事シ稍々具體案ヲ得タルヲ以テ本年度ニ於テ之ガ實物試驗ヲ行ハムトス

二、二重漁艇

歐米ニ使用スル「ドーリー」艇ヲ本邦ノ漁業ニ使用スルハ困難ナレドモ何等カ重ネ合セ得ル漁艇ヲ要求スルコト久シ依テ本所ハ和船型ニシテ而モ「ドーリー」ノ如ク使用シ得ル漁艇ニ就キ研究試驗中ナリ

三、船底防腐ニ關スル試驗

船底腐蝕防止方法竝ニ之ニ使用スル塗料ハ種々アリト雖モ效果ノ程度不明ナルガ故ニ本所ハ昨年度ニ於テ小規模ニ之ガ試驗ヲ行ヒタルモ何等具體的結果ヲ得サリシヲ以テ本年モ尙ホ引續キ之ガ研究試驗ヲ行ハムトス

四、推進器傾斜試驗

船舶ノ推進ニ使用セラルル螺旋推進器ハ其軸ヲ水ノ表面ト平行ニ据付クルヲ可トス然レトモ漁船ハ其構造上大ナル傾斜ヲ附シテ据付クザル可カラザルヲ以テ其傾斜角度ト推進效率トヲ比較試驗シ漁船ノ推進效果ヲ增大セシメントス

五、彫刻機

本試驗ハ前年ニ引續キ佛國ヨリ購入シタル彫刻機ヲ大正四年度ニ於テ同時ニ數個ヲ彫刻シ得ル樣考案改造シ好結果ヲ得タレドモ尙ホ彫刻スヘキ介殼ノ大サ及物ノ彫刻速度及物鋼ノ選定等ニ就キ研究ヲ要スルモノアルヲ以テ大正五年度ヨリ引續キ之カ研究中ナリ

六、貝釦ノ加工機

貝釦ノ製造ハ近來著シク發達シ輸出額六百萬圓以上ヲ算スルニ至レリ從テ加工機ノ發達モ見ルヘキモノナキニ非ズト雖モ一般他ノ工業用諸機械ニ比スル時ハ甚シキ遲色アリ幾多改良ノ餘地ヲ存ス故ヲ以テ本所ハ大正五年度ニ於テ貝釦加工機竝ニ工具ノ一般ヲ調査シ尙本年モ引續キ之ガ調査研究ヲ繼續セントス

七、冷藏庫應用試驗

大正五年度ニ於テ冷藏庫ヲ應用シテ試驗シタル事項ハ左記四件ニシテ何レモ成績良好ナリ

(イ)寒天ノ工業的製造試驗　期間自四月廿三日至六月廿六日　六十五日間

試供高、一五六貫(原藻三四一、五〇〇匁)

(ロ)冷藏庫應用鱈肝油蠟分々離ニ關スル工業的試驗

期間自八月十七日至九月廿三日、三十八日間

試供石數、粗製品二百石

(ハ)抹香鯨ノ蠟分ヲ分離スル工業的試驗　期間自十月三日至十二月三日、四十五日間

試供石數、粗製品二百五十石

(ニ)巨頭海豚腦油ノ冷却溫度ニ因ル蠟分ノ工業的歩留試驗　期間自十二月四日至十二月十五日、十二日間

試供石數、粗製品參石

八、簡易冷藏法ノ基礎的試驗

本試驗ハ漁船又ハ貨車ニ依ル鮮魚ノ運搬、貯藏等ニ應用シ得ベキ極メテ簡單ニシテ取扱容易ナル小規模ノ冷藏法ニ就キ基礎的試驗ヲナサントスルニ在リ本冷藏法ハ鹽水ヲ眞空蒸發槽內ニ送リ其一部ノ蒸發潛熱ヲ殘部ノ鹽水中ヨリ奪取セシメテ低溫度ノ鹽水ヲ得以テ冷却媒介劑トシテ使用スルニアリ

九、副漁具設計ニ要スル張力調査

本所ハ大正四年度ニ於テ千葉縣下ニ於ケル鰮揚繰網ノ括網及ビ鮪延繩ノ幹繩等ニ加ハル荷重、張力、並ニ捲揚速度等ノ調査ヲナシ更ニ大正五年度ハ宮城縣水產試驗場ト協力シテ鮫ノ刺網又富山縣水產試驗場ト協力シテ鰤ノ大敷網等ニ就キ此等ノ調査ヲナシタリ尙本年モ引續キ他ノ漁業ニ就キ之ガ調査ヲ繼續セントス

十、速度變換「キヤプスタン」

漁業用「キヤプスタン」ニ最モ必要ニシテ而モ之ヲ得ルニ困難ナルハ繩ノ捲揚速度ヲ任意ニ且ツ

極メテ平滑ニ變換セシムル機構ナリトス本所ハ大正五年度ニ於テ此要件ヲ充タスベキ「キヤプスタン」ヲ設計シ之ガ試驗ヲナシ稍好結果ヲ得タルモ尙傳達馬力、機械的効率ノ增進竝ニ取扱上幾多研究ヲ要スルモノアルヲ以テ本年度ニ於テ引續キ研究セントス

十一、「フレキシブルシヤフト」ニ依ル「ラインホーラー」

本試驗ハ小形漁船ニ於テ延繩ノ捲揚ニ際シ動力傳達ニ伴フ据置場所ノ節約ト同時ニ任意ノ位置ニ取付クル爲メ「ワイヤーロープ」ヲ以テ簡單ニ動力ヲ傳達セシムルモノニシテ曩ニ七號艇ニテ試驗セル結果稍良好ナリシモ尙傳達馬力、動力傳達ニ伴フ「シヤフト」ノ收縮、据付方法等ニ就キ引續キ研究中ナリ

十二、海中震動覺知器

本器ハ漁網中ニ於ケル魚波ヲ感受シ以テ魚類ノ集合ヲ覺知シ得ベキ電氣應用ノ器械ニシテ大正二年以來之ガ試驗ヲナシタルモ尙幾多ノ研究スベキ事項アルヲ以テ是ヲ繼續シ更ニ本年ハ本器ニ海中微音器ヲ應用シ試驗ヲ施行セントス

十三、自働給水裝置

液體ニシテ常溫ニテ沸騰シ分解作用ヲ起スモノニアリテハ其蒸餾ニハ吸氣器ニ一定ノ壓力ヲ有スル水ヲ通過シテ液體蒸餾器ノ空氣ヲ吸出セシメ液面ノ壓力ヲ減シ以テ其沸騰點ヲ下降セシムルヲ要ス而レドモ長時間ニ亘リ一定ノ壓力ヲ有スル水ヲ供給スルハ容易ノ業ニ非ズトス本所ハ種々考究ノ結果大正五年度ニ於テ之ニ適當ナル自働給水裝置ヲ設置セリ本裝置ハ貯水槽ヨリ電働機直結三聯成喞筒ニ依リ水ヲ壓力水槽ニ壓入シ且ツ電路自働開閉器ニ依リ槽內ノ水ノ壓力ヲ一定ニ保持セシメ且ツ使用壓力ヲ調整シ得ルノ構造ニシテ成績良好ナリ

十四、乾燥機ニ關スル研究

大正三年度ニ於テ乾燥機ノ調査ヲ行ヒタルモ未ダ良好ナル成績ヲ擧グルモノ尠ナシ之ガ爲メニ乾燥ニ及ボス氣流ノ速度溫度ノ影響又ハ乾燥率等ヲ研究シテ之ガ設計ヲ行ハントス

方法ハ在來ハ蒸汽浴(スチームバス)中ニ乾燥物ヲ懸吊シ其減量ヲ以テ乾燥程度ノ檢定ヲ行ヘリ然ルニ其方法ニハ學理上幾多ノ缺點アルヲ以テ本所ハ一ツノ檢定器ヲ考案シ之ガ試驗ヲ行ヒタルニ其成績良好ナリ

七 編纂部

大正五年度ニ於テ編纂出版シタル試驗報告ハ第十二卷第一冊ヨリ第五冊マデニシテ其細目ハ卷末ニ記載セリ此他地方各水產試驗場及燈臺等ノ海洋觀測ヲ蒐集編纂シ之ヲ官報ニ揭載シタリ

八 試驗鑑定及設計等ノ依賴

本所試驗規則ニ依リ大正五年度中試驗鑑定等ヲ出願セル總數三十三件ニシテ其ノ種類ヲ大別スレハ左ノ如シ

分析鑑定	六件
食物製造法良否鑑定	二件
製造試驗	十六件
機械鑑定	三件
漁具染料其他試驗	六件
計	三十三件

右ノ中主要ナルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

櫓金具、冷藏庫應用寒天ノ工業的製造試驗、眞空壜詰中ニ於ケル各食品防腐試驗、鱈肝油ノ蠟分分離ニ冷藏庫ヲ應用スル工業的試驗、冷藏庫應用抹香鯨油ノ蠟分分離試驗、鰹乾燥及罐詰製造試驗、寒天板製造試驗、海豚腦油ノ冷却溫度ニ依ル蠟分ノ工業的步留試驗、あぢも電氣漂白試驗、燻製秋刀魚罐詰溫室試驗等ナリ

九 地方出張

地方ノ申請ニ依リ又ハ出張ノ序ヲ以テ本所職員ヲ派遣シ施行シタル事項左ノ如シ

養魚講習會	栃木縣	技師	日暮忠
水產講話	岩手縣	教授	岡村金太郎
養魚講話	長野縣	技師	日暮忠
牡蠣養殖法指導	兵庫縣	技師	妹尾秀實
鮎產卵場調査	京都府	技師	日暮忠
水產講話	千葉縣	教授	岡村金太郎
同	三重縣	教授	岡村金太郎
同	同	技師	妹尾秀實
養魚事業計畫指導	鹿兒島縣	技師	日暮忠
船匠講習會	富山縣	技手	關根磯吉
副漁具試驗	山口縣	技手	森瀨清一郎
しらす鰕移殖法指導	長野縣	助手	伊比忠三郎

第四章 本所敷地建物及諸設備

明治三十年本所創立ノ當時ニ於テハ舊水產講習所ノ建物ヲ充用シタリシカ明治三十三年新築ノ必要ヲ感シ位置ヲ東京市深川區越中島ニトシ同年四月工ヲ起シ同三十五年三月卽チ滿三箇年ニシテ竣工セリ敷地面積一萬四百三十二坪餘內繫船場千九百二坪餘アリ其後冷藏庫、船圍場、製革實習場等ノ增築ヲナシ明治四十二年ニハ圖書及標本室ヲ同四十四年ニハ各種試驗ニ使用スヘキ家屋ヲ新築シタリ四十五年海嘯ニ依リ實習場其他蓄電池室破壞シタルヲ以テ之ヲ改修シ其際蓄電池室、汽罐室等ノ爲ニ三十三坪餘ノ增築ヲ爲シ又冷藏庫ハ大正二年八月火災ニ罹リ燒失シタルヲ以テ之ヲ改築シ猶ソコロノ式乾燥室、「ドラフトチヤンバー」及恒溫室ヲ增築シ

本所敷地建物及諸設備

タリ而シテ教室、試驗室、寄宿舍、圖書及標本室其他ノ配置、實驗室及實習場ニ於ケル設備ハ大要左ノ如シ

第一節　廳　舍

本所ノ建物ハ本館、實驗室、試驗室、實習室、圖書室、標本陳列室等ヨリ成ル

本館ハ二階建ニシテ教室、事務室、講堂等ニ充ツ、教室ハ一室六十人ヲ容ルトコトヲ得其數十二室アリ其他物理、化學ノ特別教室物理實驗室及準基機械室等ヲ設ク、講堂ハ面積七十七坪ニシテ各室ニハ暖房裝置アリ

中央ノ一棟ハ平家建ニシテ實驗室ニ充ツ其半部ハ養殖科並ニ細菌學ニ關スル實驗及實習ノ用ニ供シ他ノ半部ハ化學分析室トス

後部ニアル一棟ノ實習場ハ平家建ニシテ漁撈、製造ノ二ニ分チ其一部ヲ漁撈實習室ニ充テ網具、釣具、船具等ノ設計、製作、修補ノ場所及製圖室トナス他ノ一部ヲ製造ノ實習場トシ沃度、油鰻、罐詰及汽罐室等ニ分ツ

最後方ニ冷藏庫アリ冷凍ニ關スル試驗及實習ヲ行フ又其側ニ調理場及製革實習場ヲ設ク

圖書及ヒ標本室ハ別棟トシ其階上ヲ漁撈及養殖ニ關スル標本ノ陳列ニ充テ階下ノ一室ヲ製造標本ノ陳列室トシ他ノ一部ヲ書庫トナシ生徒閲覽室ヲ附屬セシム

各種試驗ニ使用スヘキ家屋ハ四十四年三月竣工シ階下ヲ化學、生物學等ノ實驗室トシ階上ハ漁業基本調査部及漁船漁具等ノ陳列室トセリ

艇庫ハ漁艇ヲ引揚クヘキ起重臺ヲ備ヘ又發動機ノ馬力ヲ檢定シ得ル運轉臺ヲ裝置セリ

繫船場ハ敷地ノ一隅ヲ區劃シテ水門ヲ設ケ實習用ノ端艇及ヒ漁艇ヲ繫留スル所トス

寄宿舍ハ二階建ニシテ自修室ト寢室トヲ兼ネ室ノ一隅床上二尺五寸ノ高サニ寢臺ヲ設ケ一室六人ヲ定員トス

體育奬勵ノ趣旨ヲ以テ學友會ニ運動部ヲ置キ寄宿舍ノ前庭ニ柔道及擊劍道場ヲ設ク

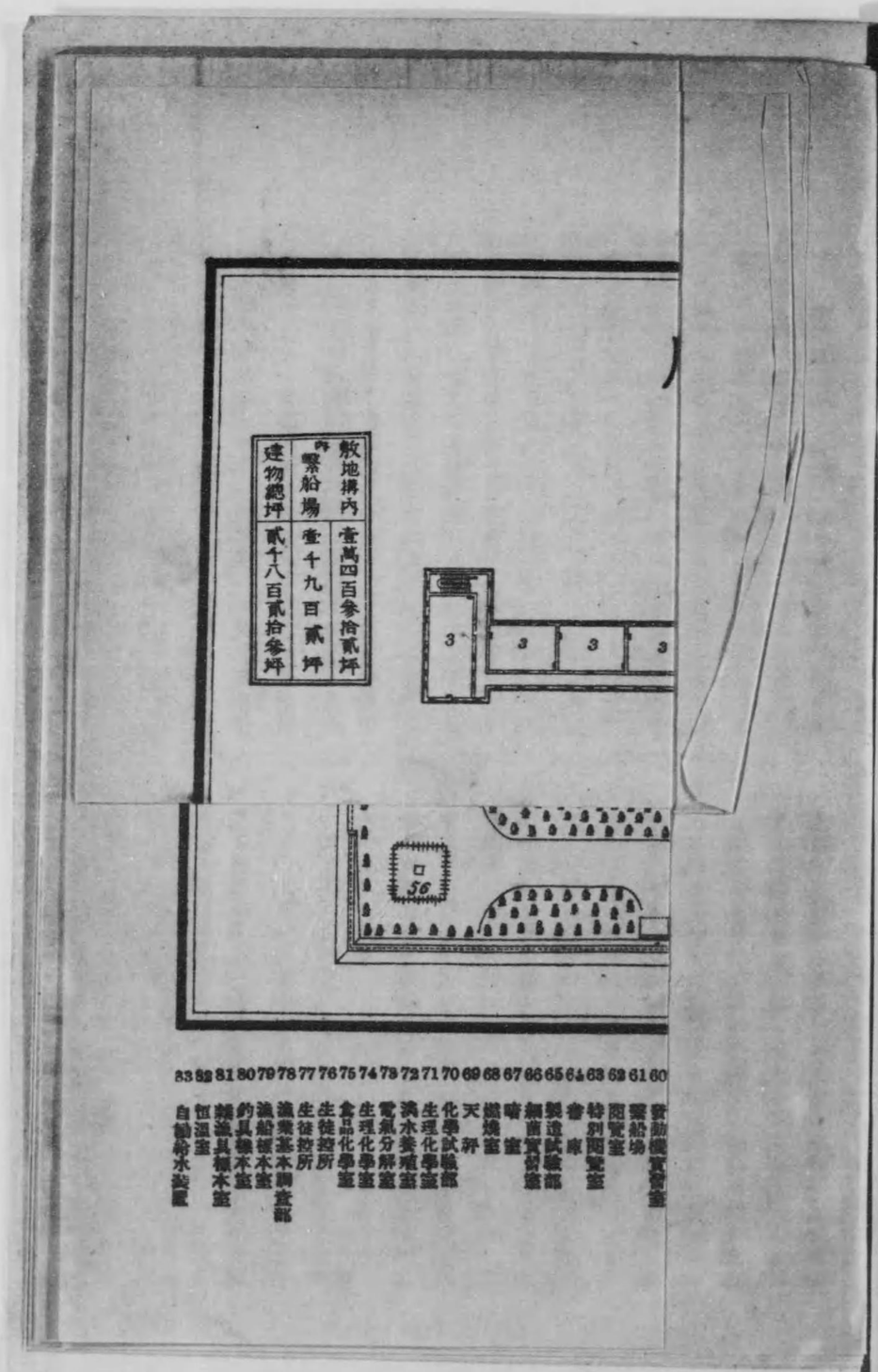
電燈及ヒ原動力ハ作業ニ使用セル汽罐ノ蒸氣ニ依リテ發動機ヲ廻轉シ又更ニ蓄電池ヲ設ケテ常ニ剩餘ノ電氣ヲ蓄ヘ置キ以テ點燈ニ供シ又機械運轉ノ原動力トシテ隨所ニ其動力ヲ應用セリ、然ルニ明治四十五年七月海嘯ノタメ蓄電池ヲ破壞セラレタルニ依リ、點燈用電力ヲ他ニ仰クノ已ムヲ得サルニ由リ其設備ヲ爲シ蓄電池室ヲ中庭ニ移シ且「モーターゼネレートル」室ヲ設ケ本所發電ノ電力ト他ノ電力トヲ併用シ得ルコトトセリ

第二節　諸設備

一　船　艇

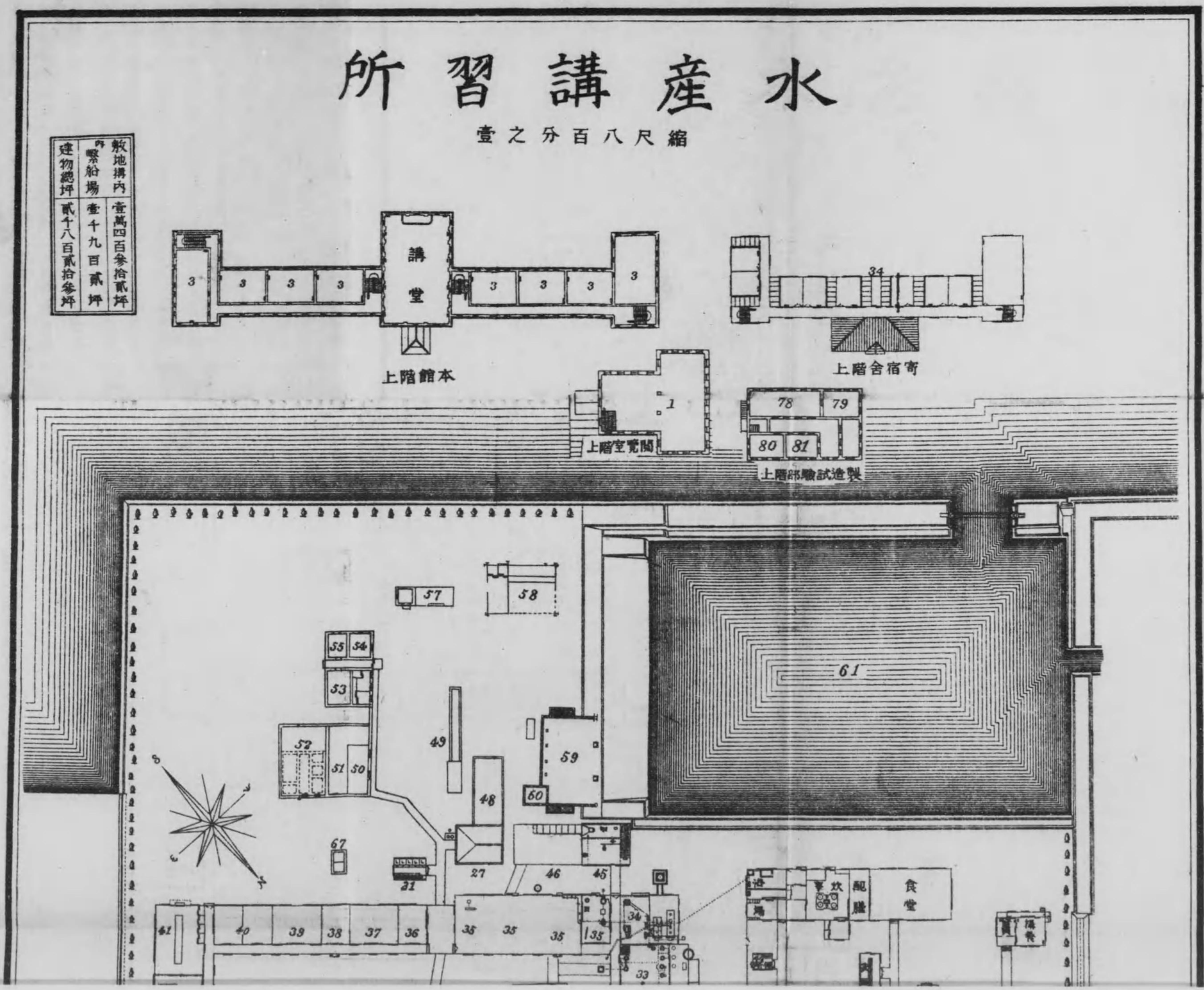
一　雲鷹丸

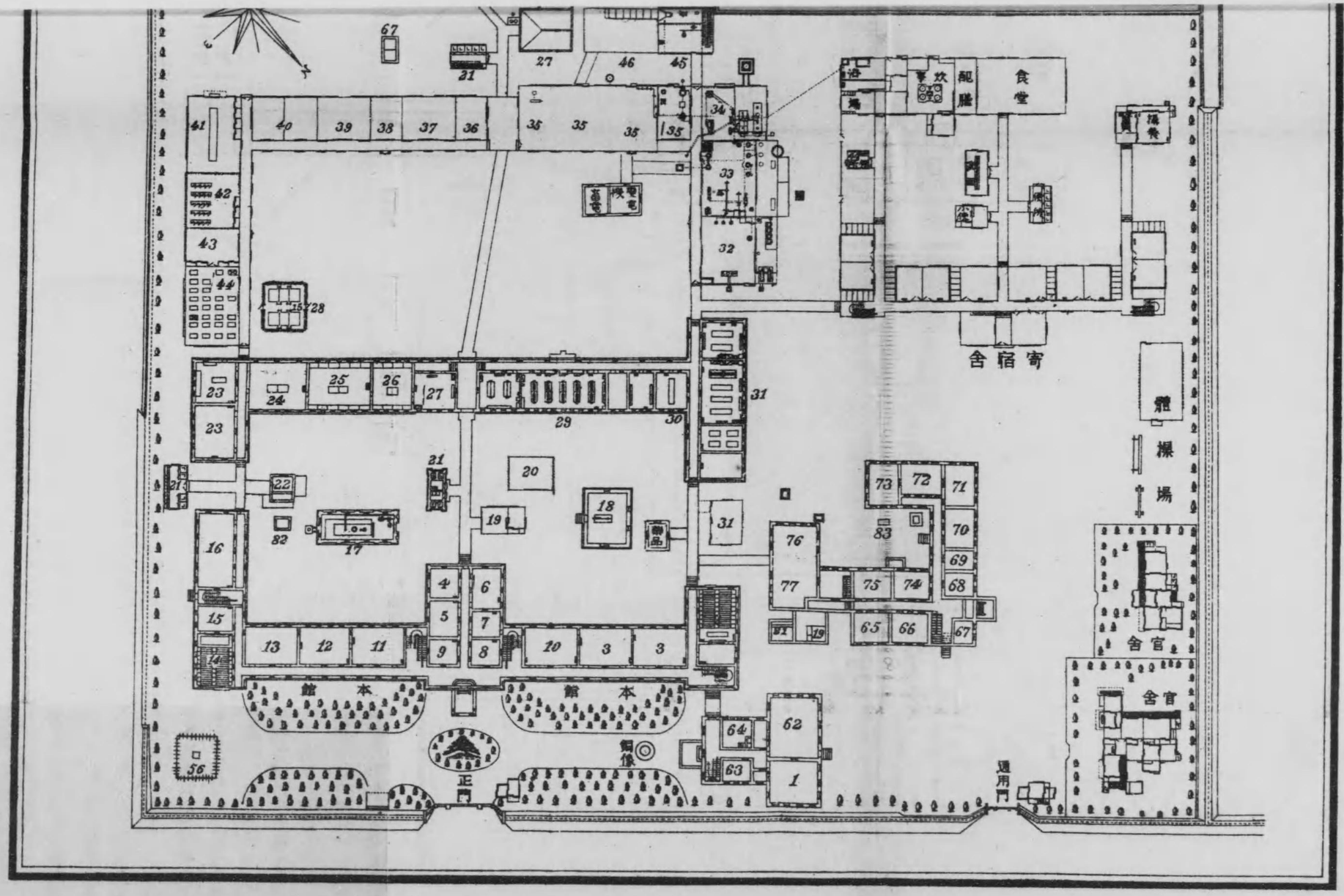
本船ハ鋼製二層甲板三檣「バーク」型帆船ニシテ總噸數四百四十



水産講習所

縮尺八百分之壹





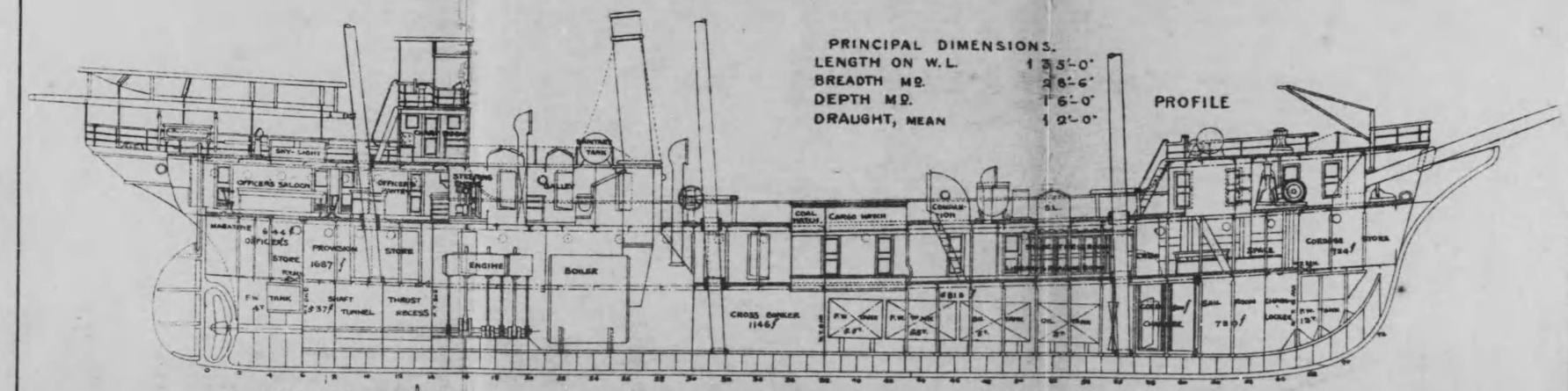
1 標本室
2 化學教室
3 教室
4 所長室
5 庶務課
6 教官室
7 宿直室
8 應接室
9 電話室
10 教務室
11 庶務課會計室
12 會議室
13 航海、海洋學機械室
14 物理教室
15 物理準備室
16 物理實驗室
17 蒸汽罐室
18 倉庫
19 小使室
20 商人控所及物置
21 便所
22 細菌培養室
23 細菌室
24 動物室
25 植物實驗室
26 養魚水槽
27 養魚試驗部
28 定量及定性分析室
29 天秤室
30 分析室
31 沃度室
32 油脂膠室
33 汽罐室
34 蠣詰室
35 蠣生罐詰室
36 調理室
37 製品整理室
38 貝殼、珊瑚彫刻室
39 漁撈試驗部
40 網具實習室
41 漁具實習室
42 帆索具實習室
43 製圖室
44 修繕工場
45 乾燥室
46 調理室
47 製本室
48 ソコロフ乾燥室
49 冷藏庫汽罐室
50 機械及製氷槽
51 冷藏庫
52 機械室
53 漁船機械製圖室
54 漁船機械試驗部
55 百葉窓
56 物置
57 船圖場
58 艇庫
59 發動機實習室
60 繫船場
61 閱覽室
62 特別閲覽室
63 書庫
64 製造試驗部
65 細菌實習室
66 暗室
67 燃燒室
68 天秤
69 化學試驗部
70 生理化學室
71 漁水養殖室
72 電氣分解室
73 生理化學室
74 食品化學室
75 生徒控所
76 生徒控所
77 漁業基本調査部
78 漁船標本室
79 釣具標本室
80 漁具標本室
81 恒温室
82 自動給水裝置
83

雲鷹丸

PRINCIPAL DIMENSIONS.

LENGTH ON W.L.	135'-0"
BREADTH MD.	28'-6"
DEPTH MD.	16'-0"
DRAUGHT, MEAN	12'-0"

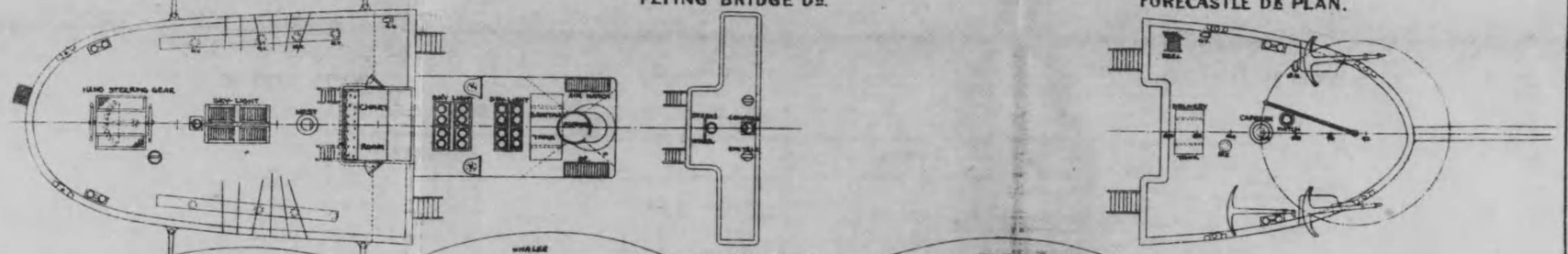
PROFILE



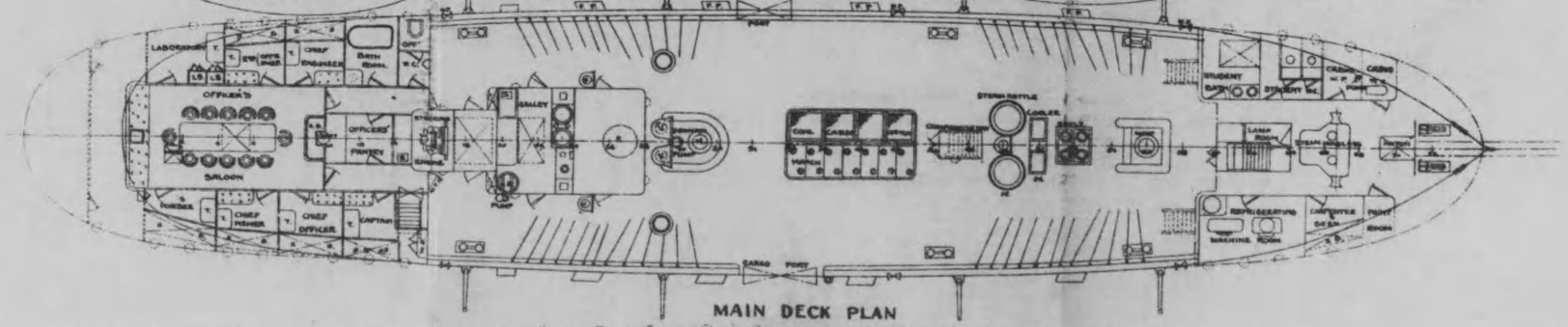
POOP DECK PLAN

FLYING BRIDGE DE.

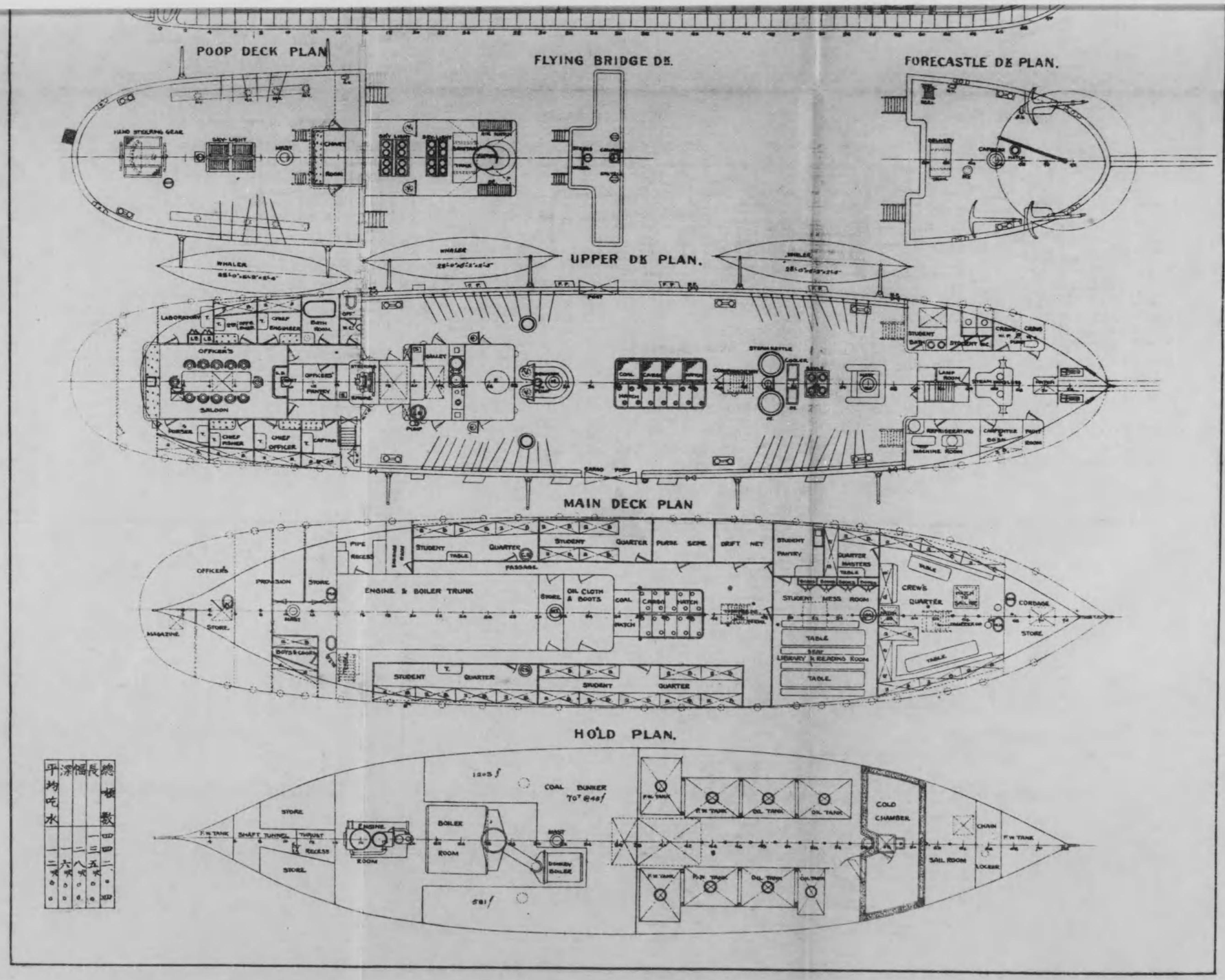
FORECASTLE DE PLAN.



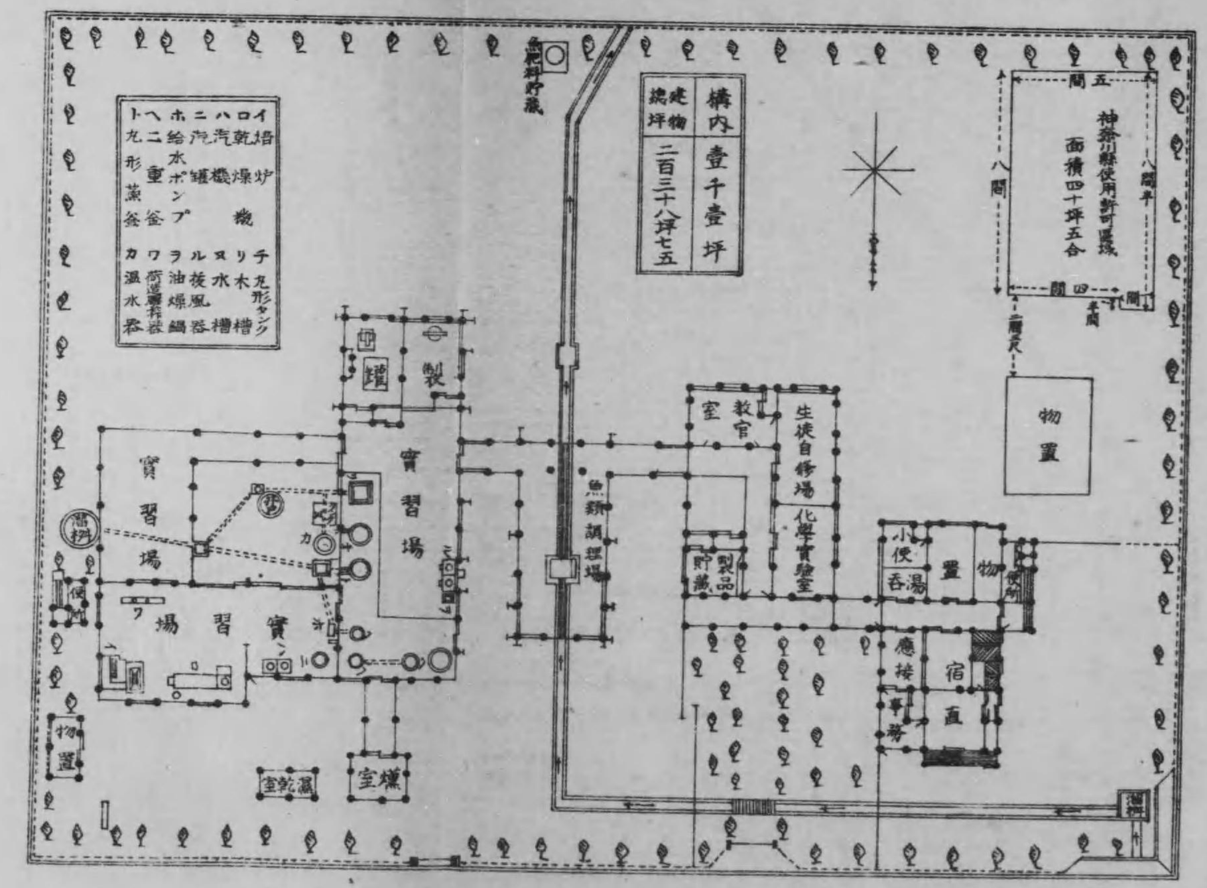
UPPER DE PLAN.



MAIN DECK PLAN


POOP DECK PLAN
FLYING BRIDGE DE.
FORECASTLE DE PLAN.
UPPER DE PLAN.
MAIN DECK PLAN
HOLD PLAN.
WHALER
OFFICER'S
SALOON
ENGINE & BOILER TRUNK
STUDENT
QUARTER
PASSAGE
STUDENT MESS ROOM
CREW'S QUARTER
STORE
COAL BUNKER
BOILER ROOM
ENGINE ROOM
COLD CHAMBER
SAIL ROOM
CHAIN LOCKER
F.W. TANK
OIL TANK
平均吃水
深
幅
長
總噸數

小田原實習場


構内
壹千壹坪
建物
二百三十八坪七五
神奈川縣使用許可區域
面積四十坪五合
五間
八間
八間半
四間
物置
教官室
生徒自修場
化學實驗室
製品貯藏
小便
湯吞
物置
便所
應接
事務
宿直
實習場
實習場
製罐
實習場
物置
乾燥室
燻室
魚類調理場
湯
角肥料貯藏
ロ 焙炉
ハ 乾燥機
ニ 汽缶
ホ 給水ポンプ
ヘ 二重釜
ト 丸形薬釜
チ 丸形タンク
リ 木槽
ヌ 水槽
ル 接風器
ヲ 油煙鍋
ワ 荷造料器
カ 温水器

高島實驗場

縮尺一千二百分ノ一

深川養魚試驗池

高ノ島

寄宿舍

上階

下階

生徒實驗室

食堂

氣象觀測室

上階

下階

	敷地	建物
一號	一六〇坪	五六坪二五
二號	一一九坪	四五〇〇
三號	五六坪	一五〇〇
四號		八〇九
合計	三三五坪	一二四〇五四

一	草	一号池
二	松	二号池
三	樹類	三号池
四	家屋	四号池
五	水槽	五号池
六	板塀	六号池
七		七号池
八		八号池
九		九号池
十		十号池
十一		十一号池
十二		十二号池

池水面積

一号池	二八四〇六坪
二号池	一九〇七〇五
三号池	一七四三〇〇
四号池	五九〇〇
五号池	三六〇〇
六号池	二七〇五
七号池	二九〇三
八号池	一〇〇〇六
九号池	九七〇八
十号池	六六〇三
十一号池	八〇〇一

總坪數九千九百二十五坪二合五勺

八噸二五アリ船尾樓及船首樓ヲ有シ三聯成表面冷汽機ノ補助汽關ヲ備ヘ汽力平均速力八浬半ナリ

本船ハ明治四十一年五月大阪鐵工所ニ於テ建造ニ著手シ同四十二年二月進水シ三月試運轉ヲナシ五月東京ニ廻航シ同月三十日ヨリ生徒ノ實習ニ供セリ其構造大要ハ本船ノ船尾樓ハ士官室、士官會食室及配膳室ヨリ成リ學生室ハ四室ニシテ共ニ第二甲板上汽罐室圍壁ノ兩側ニ在リ各室ヲ通シテ四十人ヲ容ルヘク其前部ニ學生會食室兼讀書室アリ船首樓内ニハ蒸汽揚錨機ヲ備ヘ其兩舷ニ水夫長室生徒及水火夫ノ浴室、便所、冷藏機室等アリ、第二甲板船首部ノ支水隔壁ノ後部ハ水火夫室ニシテ二十二人ヲ容ルヘシ機關室ニハ三聯表面冷汽機一臺ト長九呎六吋徑十呎ノ主汽罐一個及ビ「ドンキー」汽罐一個ヲ備ヘ主汽罐休止中暖房其他甲板上諸機械ノ運轉用ニ供シ別ニ諸室及ヒ艙内其他ノ燈火用トシテ發電機一臺ヲ備フ又汽機室内ニハ五噸蒸發機及「三百ガロン」蒸溜器ヲ備ヘテ海水ヨリ所用ノ淡水ヲ製スルノ用ニ供シ汽罐室ノ前部内側ハ石炭庫ニシテ其容積約百噸ナリ汽機室上部ニ蒸氣操舵機アリテ「フライングブリッヂ」上ニ於テ操舵スルコトヲ得又船首部ニ探海燈ヲ備フ船艙ハ機關室前部ニアリ其一部ニ漁獲物ヨリ採取セル油約二十二噸ヲ貯フヘキ鐵製「タンク」四個ヲ備フ上甲板前檣後部ニ鐵製二重釜及鋼製冷却槽ヲ設ケテ採油ノ用ニ供シ舷外ニハ漁艇ヲ懸吊シ第二甲板上ニハ漁具一切ヲ格納スヘキ艙庫ヲ有ス前年度ニ於テ「モートル」附「ルーカス」式測深器、連結採水器、轉倒寒暖計、閉塞自在「ブランクトンネット」等ヲ新ニ設備シ、生徒ノ實習、漁業上ノ試驗ノ外、漁場及海洋調査等ノ使用ニ便セリ

二 隼丸

本船ハ「ケッチ」型帆船ニシテ東京石川島造船所ニ於テ明治四十年四月建造ニ著手シ同年十月竣工セリ長五十二呎七五幅十三呎八五深六呎〇五總噸數二十八噸六七アリ補助機關トシテ四十馬力石油發動機ヲ有ス

本船ハ本ト生徒實習ヲ主トシタルモ海洋ノ研究及漁業試驗ノ爲メ地方ノ請求等ニ依リ派遣スルコト多ク目下專ラ試驗ノ用ニ供セリ

二 實習場實驗場及試驗地

一 館山假實習場

館山假實習場ハ實習船ノ繫泊及出入ニ便ナル千葉縣安房郡館山ニ設ケ一般漁具、船具等ヲ備ヘ漁撈實習、氣象觀測及漁具ノ製作、設計、修理等ノ實習ニ供ス

二 小田原實習場

小田原製造實習場ハ神奈川縣小田原町ニ設ケ明治三十四年四月起工シ同年八月竣工セル所ニシテ一定ノ期間生徒ヲシテ製造ノ技術練習ノ傍ラ自ラ經濟ヲ擔當シ企業ノ實際ニ練熟セシムル所トス其設備ノ程度モ民間ノ實情ニ適合セシメンコトヲ圖リ機械ノ動力ハ手働ヲ主トシ汽力ハ竪式汽罐一箇ヲ備フ又水ノ供給ハ製造事業ニ

必要ナルヲ以テ構内ニ流水ヲ引キ魚類其他ノ洗滌ニ便セリ大正六年三月中自働繰糸機械ヲ設置シタリ

三　深川養魚試驗地

深川區冬木町養魚試驗地ハ總地積九千九百三十五坪二合七勺アリ淡水魚族養成ノ試驗ヲ兼ネ生徒實習ノ用ニ供セリ而シテ養魚池ノ總面積ハ六千七百十七坪二ニシテ之ヲ十一箇ニ區別シ隅田川分流ヨリ用水ヲ引入シ各池ニハ水閘ヲ設ケテ水量ヲ調節スルノ裝置ヲナシ又大正四年度ニ於テ灌水及排水用トシテ離心働唧筒ノ裝置ヲナセリ

四　高島實驗場

千葉縣舘山高島實驗場ハ鹹水產魚族ニ就キテ其生理、發生、蕃殖ノ方法、人工孵化等ノ實驗ヲナサシメ以テ其一班ニ通セシムルヲ主トシ又海洋ノ調査、浮游生物研究、氣象觀測等ニ從事セシム而シテ此等ノ目的ヲ達センカ爲メニ孵化室活洲並實驗室ヲ設ケ又氣象觀測室及寄宿舍ヲ附設セリ、孵化室ハ桁行五間梁間三間ノ石造平家建ニシテ內部ヲ「タヽキ」トシ小形ノ「アクアリウム」ヲ設ケテ魚貝類ノ習性其他ヲ研究スルノ便ニ供フ活洲ハ孵化室ノ西側ニ突出セル岩角ノ一部ヲ掘鑿シテ造リタルモノニシテ二個ヨリ成リ內一個ハ長サ四十八尺幅十五尺深サ十二尺他ノ一個ハ長サ三十尺幅十二尺深サ九尺ニシテ幅二尺ノ隧道ヲ設ケテ海水ノ循環ニ便ナラシメタリ

實驗室ハ桁行十間梁間四間半ノ木造平家建ニシテ內部ヲ二ニ分チ水槽ヲ設置シ海魚卵ノ孵化試驗用其他各種生物ノ研究ニ資セリ氣象觀測室ハ二階建トシ總坪數十一坪ノ木造トス各種ノ觀測器械ヲ設備シテ實習及觀測ノ用ニ供シ海況ノ變化ト呼應シテ其ノ水族ノ習性ニ及ボス關係ヲ研究セントスルノ用ニ供セリ

寄宿舍ハ總建坪五十六坪二合五勺ノ木造二階建ニシテ階上ヲ自修兼寢室ニ充テ階下ヲ事務室食堂トセリ元來同島ハ周圍約三町ノ官有禁伐林ニシテ宿舍ニ充ツヘキ人家ナキニヨリ此設備ヲ必要トセルナリ

五　五井海苔養殖試驗地

明治四十年以來千葉縣市原郡五井町地先海面十町歩ヲ區劃シあさくさのり養殖ノ試驗地トセリ

六　金澤養蠣試驗地

明治四十二年以來神奈川縣久良岐郡金澤灣內ニ牡蠣種付場ヲ設ケ別ニ永島龜代司所有九百十五坪ヲ整形場トナシ牡蠣改良養殖試驗並ニ車蝦養殖試驗ヲ爲シ大正二年及三年ニ於テ更ニ夏島及金澤灣內ニ養蠣場及實入場ヲ增設シテ輸出向牡蠣等養殖ノ目的ニ供セリ

七　丸沼外二沼養魚試驗地

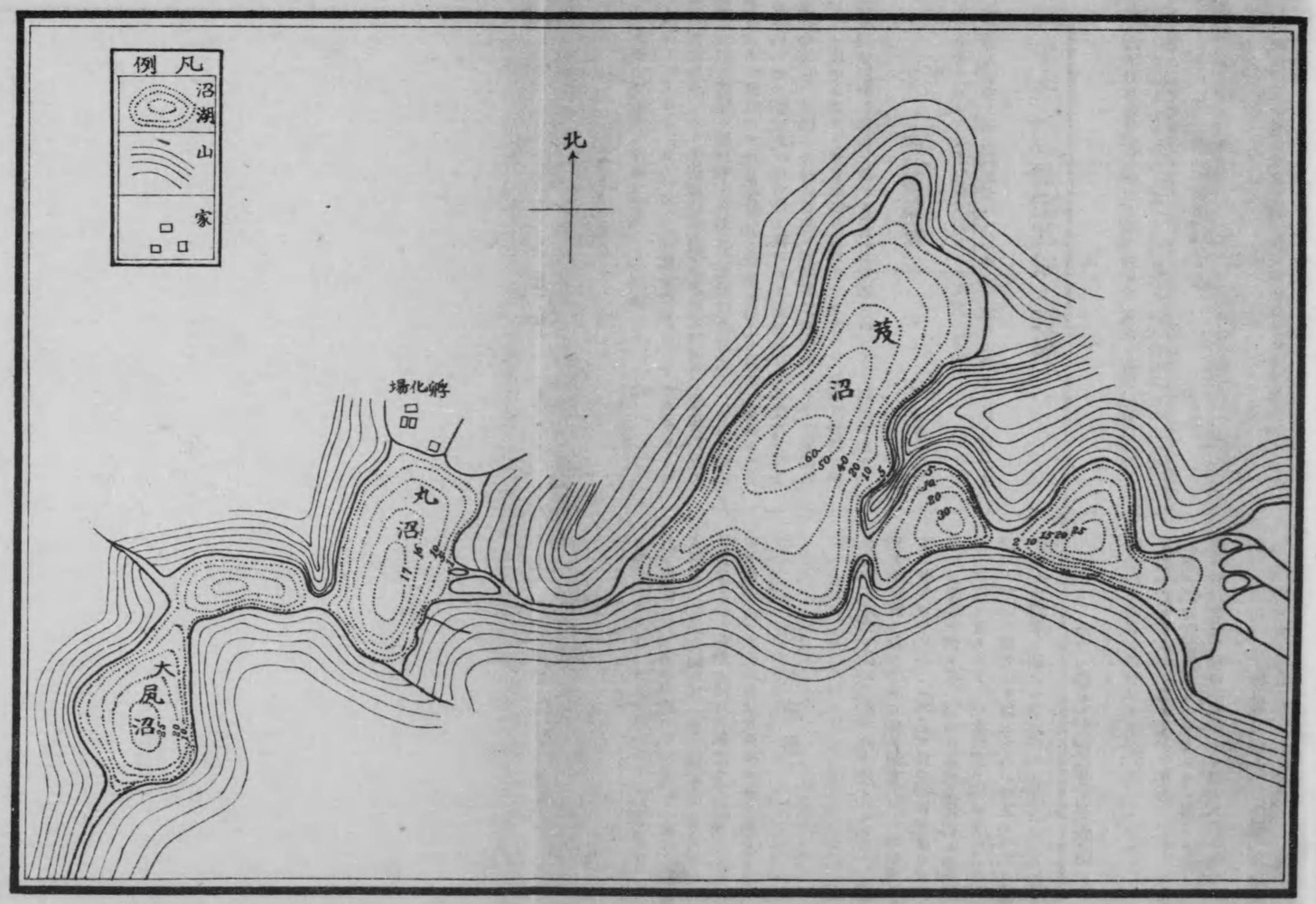
明治四十五年二月群馬縣利根郡片品村千明賢治所有山林內丸沼、笈沼、大尻池ノ三池ニ於テ冷水性魚類ノ養殖試驗地ヲ設ケ孵化場

三　深川養魚試驗地

深川區冬木町養魚試驗地ハ總地積九千九百三十五坪二合七勺アリ淡水魚族養成ノ試驗ヲ兼ネ生徒實習ノ用ニ供セリ而シテ養魚池ノ總面積ハ六千七百十七坪二ニシテ之ヲ十一箇ニ區別シ隅田川分流ヨリ用水ヲ引入シ各池ニハ水閘ヲ設ケテ水量ヲ調節スルノ裝置ヲナシ又大正四年度ニ於テ灌水及排水用トシテ離心働唧筒ノ裝置ヲナセリ

四　高島實驗場

千葉縣館山高島實驗場ハ鹹水產魚族ニ就キテ其生理、發生、蕃殖ノ方法、人工孵化等ノ實驗ヲナサシメ以テ其一班ニ通セシムルヲ主トシ又海洋ノ調査、浮游生物研究、氣象觀測等ニ從事セシム而シテ此等ノ目的ヲ達センカ爲メニ孵化室活洲並實驗室ヲ設ケ又氣象觀測室及寄宿舍ヲ附設セリ、孵化室ハ桁行五間、梁間三間ノ石造平家建ニシテ內部ヲ「タヽキ」トシ小形ノ「アクアリウム」ヲ設ケテ魚貝類ノ習性其他ヲ研究スルノ便ニ供フ活洲ハ孵化室ノ四側ニ突出セル岩角ノ一部ヲ掘鑿シテ造リタルモノニシテ二個ヨリ成リ內一個ハ長サ四十八尺幅十五尺深サ十二尺他ノ一個ハ長サ三十尺幅十二尺深サ九尺ニシテ幅二尺ノ隧道ヲ設ケテ海水ノ循環ニ便ナラシメタリ



ヲ設備シテ實習及觀測ノ用ニ供シ海況ノ變化ト呼應シテ其ノ水族ノ習性ニ及ホス關係ヲ研究セントスルノ用ニ供セリ

寄宿舍ハ總建坪五十六坪二合五勺ノ木造二階建ニシテ階上ヲ自修兼寢室ニ充テ階下ヲ事務室食堂トセリ　元來同島ハ周圍約三町ノ官有禁伐林ニシテ宿舍ニ充ツヘキ人家ナキニヨリ此設備ヲ必要トセルナリ

五　五井海苔養殖試驗地

明治四十年以來千葉縣市原郡五井町地先海面十町歩ヲ區劃シあさくさのり養殖ノ試驗地トセリ

六　金澤養蠣試驗地

明治四十二年以來神奈川縣久良岐郡金澤灣內ニ牡蠣種付場ヲ設ケ別ニ永島龜代司所有九百十五坪ヲ整形場トナシ牡蠣改良養殖試驗並ニ車蝦養殖試驗ヲ爲シ大正二年及三年ニ於テ更ニ夏島及金澤灣內ニ養蠣場及實入場ヲ增設シテ輸出向牡蠣等養殖ノ目的ニ供セリ

七　丸沼外二沼養魚試驗地

明治四十五年二月群馬縣利根郡片品村千明賢治所有山林內丸沼、笈沼、大尻池ノ三池ニ於テ冷水性魚類ノ養殖試驗地ヲ設ケ孵化場

ヲ設備セシメ十和田湖産姫鱒北海道産鱒及北米産紅鱒ノ孵化ヲ行ヘリ

八　中山養魚試驗地

大正四年四月千葉縣行德町二俣模範養魚株式會社所有中山養魚場内ニ淡水性魚族養殖試驗地ヲ設ケ併セテ養魚ノ企業的實習ニ便セリ

三　實驗室其他ノ設備

講習及試驗用ノ器具機械等ハ近年學術ノ進歩ニ伴ヒ新設ヲ要スルモノ甚多シ而シテ目下設備シ得タルモノ左ノ如シ

一　物理實驗室

明治四十四年ノ新設ニ係リ大正二年度迄ニ爲シタル設備中主ナルモノハ水中ニ於ケル網及漁船ノ抵抗力ヲ計ルヘキ玻璃水槽竝ニ附屬電氣裝置、魚類ノ骨格及發生ノ狀態等ヲ檢定スヘキX光線裝置眞空内ニ於テ測定又ハ藻發等ヲ爲スヘキ水銀ポンプ及集魚燈ノ光度光力等ヲ測ルヘキ簡易裝置竝ニ暗室及以上ノ裝置ニ使用スヘキ電路酬線ノ設備、網用浮子及沈子ノ浮沈力ヲ測定スヘキ比重測定用ノ諸機械竝ニ水ノ表面張力及液體粘性測定用器具、望遠鏡、「アンペアメーター」、「タムソン」反射電流計、「マグネツトメーター」、X線用眞空管、光度計感應「コイル」等ナリ

本所敷地建物及諸設備

二　電氣化學室及自働給水室

近年電氣化學ノ應用益著シキヲ以テ本所ニ於テハ海藻類其他ノ漂白竝ニ沃度ノ電氣採製法ヲ試ミント欲シ常設ノ蓄電池室ヨリ電路ヲ配シテ隨時實驗ヲ爲シ得ルノ設備ヲナセリ又生理化學用トシテ自働給水裝置ヲ設備シタリ

三　微生物實驗室及水槽室

魚病及腐敗等ニ關スル微生物ノ形態竝ニ生理學上ノ研究及酵素ニ關スル試驗ヲ爲サンカ爲メ大正元年度ニ於テ試驗室ノ一部ニ微生物研究室ヲ設ケタリ、酵素研究ニ關シテハ從前ノ研究室ハ專ラ酵素ノ化學的研究ヲ爲シ得ルモ化學的藥物ノ障害アルモノハ之ヲ同室ニ於テ行フヲ得サルヲ以テ微生物研究室ニ於テ爲スコトヽセリ又生物實驗ノ爲メ病魚其他ヲ飼養スヘキ水槽室ヲ設ケ各種ノ病魚ニ就キ其實驗ヲ爲スノ用ニ供シ又「ウンツ」氏魚類呼吸機ヲ設備セリ

四　冷藏庫

本所冷藏庫ハ大正二年八月火災ニ罹リ燒失シタルヲ以テ同三年一月復舊工事ニ著手シ同三月竣工セリ總建坪七十餘坪其内冷藏庫十五坪餘、冷藏室豫備室八坪、機械室二十九坪餘、汽罐室十坪餘ヲ設ケ建築ハ凡テ防火材料ヲ用ヒ屋根ハ鐵網混凝土工事ヲ施行シタリ冷藏庫ハ五室及廊下ニ區劃セラレ攝氏零下二十二度ヲ最低溫度

トス

第一、第二、第四ノ三室ハ直接膨脹式ニ依リ第三第五及廊下ハ鹹水冷却式ニ依リ、第三室ハ特ニ光線ヲ射入セシムル裝置ヲ設ケ第五室ハ電動送風機ヲ備ヘテ通風式冷却裝置ト爲セリ

冷藏機ハ米國「ヴキルター」會社製直立式單働「アンモニア」壓縮機一臺及英國「リンデ」會社製舶用型「アンモニア」壓縮機一臺ヲ據付ケ又試驗用トシテ少量ノ製氷ヲ行ヒ得ル裝置ヲ設ケタリ、原動機ニハ獨逸「ウルフ」會社製十二馬力「コロモビル」過熱蒸汽機關ヲ採用セリ

第五章　圖書及標本

第一節　圖書及標本ニ關スル規程

一　圖書標本委員會規程

明治四十五年四月二十三日

第一條　圖書標本委員會ハ左ノ事項ヲ審議ス

一　圖書標本ニ關スル規則ノ制定及改廢ニ關スル件

二　圖書標本ニ關シ所長ヨリ諮問ノ件

第二條　委員會ハ圖書標本委員ヲ以テ組織ス

第三條　委員ハ各科、課及教務掛職員ノ内各一名ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ所長之ヲ命シ委員長ハ委員中ノ首席者ヨリ所長之ヲ命ス

第四條　委員長ハ圖書標本委員會ノ議長トナリ其事務ヲ處理ス

第五條　圖書及標本主任ハ委員會ニ列席ス委員長ハ必要アリト認ムルトキハ其ノ他ノ本所職員ヲ列席セシムルコトヲ得

第六條　委員會ノ決議ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

列席職員ハ決議ノ數ニ加ハラス

二　圖書保管規程

明治三十年六月

第一條　本所ノ圖書ハ圖書掛圖書取扱主任ニ於テ之ヲ保管ス

第二條　圖書ハ各部門ニ別チ番號ヲ附シ點檢ノ便ニ供スヘシ

第三條　圖書原簿ヲ製シ之ニ書名編著者名部門番號册數ヲ記載スヘシ

第四條　圖書出納簿ヲ製シ出入ヲ記載スヘシ

第五條　圖書ハ毎年一回若ハ二回原簿ト對照シ之カ點檢ヲ爲スヘシ

第六條　點檢ノ際ハ圖書ノ補綴又ハ曝涼ヲ爲スヘシ

第七條　寄贈ニ係ル圖書ハ目錄ヲ製シ所長ニ供覽シ保存スヘキモノト否ラサルモノトヲ定メ且謝狀ヲ送ルヘキモノハ其手續ヲ爲スヘシ

第八條　雜誌及報告書類ニシテ保存ヲ要スルモノハ圖書同一ニ保管スヘシ

第九條　各部科掛ニ平常備ヘ置クヘキ圖書ハ部長又ハ主任ヲシテ之ヲ保管セシムヘシ

但シ圖書掛ニ借用證書ヲ差出スヘシ

第十條　前條備付ノ圖書ハ時々圖書取扱主任ノ點檢ヲ受クヘシ

第十一條　圖書斷破シテ使用ニ堪ヘサルモノハ庶務掛ヘ引繼キ廢棄ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條　他官廳ヨリ借入タル圖書ハ圖書掛ニ保管シ職員ニ貸付スル場合ハ圖書借覽規程ニ從フ

（沿革）明治三二年三月、同三八年八月改正

三　圖書借覽規程

明治三十年六月

（沿革）明治三二年三月、同三八年八月改正

第一條　圖書ハ本所職員及囑託員ニ限リ借覽ヲ許ス

但シ職員囑託員其資格ヲ失ヒタルトキハ五日以内ニ借用圖書ヲ返納セシム

第二條　圖書ヲ借覽セントスルモノハ書名、部門、番號、册數ヲ記シ官職氏名ヲ署シ捺印ノ上各部長又ハ各科掛主任ノ檢印ヲ受ケタル規定ノ借用證ヲ圖書取扱主任ニ差出スヘシ

第三條　圖書借用期限ハ通常三十日トス尚ホ繼續セントスルトキハ各部長又ハ各科、掛主任ノ承認ヲ得タル上圖書掛ヘ借用延期ノ請求ヲ爲シ圖書取扱主任ノ承諾及檢閲ヲ受クヘシ

第四條　平常各部又ハ各科掛ニ備置クヘキ圖書ハ各部長又ハ主任ヨリ證書ヲ差出シ六箇月ヲ一期トシ借用スルコトヲ得

第五條　前條圖書ハ所外ニ携出スルコトヲ許サス

但シ特ニ所長ノ許可ヲ得タルモノハ此限リニアラス

第六條　補綴又ハ曝涼其他圖書整理ノ爲メ一時各部、科ヲ掛備付ケノ圖書ヲ返納セシムルコトアルヘシ

第七條　貴重ノ圖書辭書類ハ閲覽室外ニ携出ヲ許サス

但シ閲覽ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第八條　他廳ヨリ圖書借用ノ申込アルトキハ圖書取扱主任ハ所長ヘ稟議ノ上許否ヲ定ムヘシ

第九條　他廳ヨリ圖書借用ノ必要アルトキハ圖書取扱主任ニ於テ所長ヘ稟議ノ上借入及返還ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條　借用者圖書ヲ返納スルトキハ同時ニ本人ニ證書ヲ返戻ス

五　自働製罐裝置

大正六年三月在來製罐工場ヲ模樣替シテ在來製罐機ノ他ニ自働製罐裝置ヲ設置シタリ、本裝置ハ米國製罐會社製ニシテ「サニタリー」罐式トシ一封度平罐及ビ竪罐ノ兩種ヲ製作シ蓋底製作線ト罐體製作線トニ配置シ蓋底製作線ハ蓋底打拔機、蓋底緣整形機、コンパウンド塗着機、コンパウンド乾燥機ノ四機ヨリ成リ罐體製作線ハ罐體製作機、胴緣折曲機、卷締機、空罐試驗機ノ四機ヨリ成ル罐體製作線ニハ自働送罐裝置ヲ完備セリ、本裝置ノ製罐能力ハ試運轉ノ結果ニヨレバ十時間約四萬個トス

ヘシ

第十一條　借用ノ圖書ヲ汚損又ハ紛失シタルトキハ修繕ヲ加ヘ又ハ同一ノ圖書ヲ以テ償ハシメ若クハ相當代價ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第十二條　借用者ニシテ前條ノ義務ヲ果サヽル間ハ圖書ノ借覽ヲ許サス

第二節　圖書及標本ノ現況

本所々藏ノ圖書ハ元水産傳習所ヨリ引繼キタルモノト農商務省ヨリ保管轉換ヲ受ケタルモノ及本所ノ購入シタルモノ竝寄贈ニ依ルモノニシテ明治四十五年現在目錄ヲ編成シ其後增減アルモ現在數左ノ如シ（大正六年三月現在）

外國書	一、七一三部　三、二〇五冊
內國書	二、〇四一部　五、三五九冊
歐文雜誌	三九種
和文新聞及雜誌	五一種
地圖及圖畫	八九部　一、六九三枚

一本所職員ノ研究調査ニ係ル論文報告ハ隨時刊行シテ之ヲ水産講習所試驗報告ト題シ昨年度ニ於テハ其第十二卷第一冊ヨリ第五冊マテ刊行セリ（卷末刊行圖書目錄參照）尙歐米鹹水養殖視察報告ヲ刊行セリ

一標本ハ標本室ニ陳列シ本年度ニ於テハ其陳列ヲ改ム而シテ其蒐集スル所主トシテ水産動植物標本、漁具漁船ノ模型、養魚裝置及模型竝諸製品等ニシテ其點數左ノ如シ

一漁具類	六二九種
一製品類	二六五種
一動植物類	七七六種
一漁船其他雜形類	四三三種

第六章　在外研究生

第一　在外研究生規程

明治四十年十月二十五日
勅令第三二九號

第一條　水産講習所在外研究生ハ外國ニ於テ水産ニ關シ須要ナル學術技藝ヲ研究セシムル爲水産講習所ヲ卒業シタル者又ハ水産講習所ノ技術官若ハ教官中ニ就キ農商務大臣之ヲ命ス

第二條　水産講習所在外研究生ノ研究スヘキ事項研究地及在外期間等ハ農商務大臣之ヲ指定ス

第三條　水産講習所在外研究生ニハ農商務大臣ノ定ムル所ニヨリ一年金千八百圓以內ノ手當ヲ支給ス但シ各地巡歷研究ノ必要アルトキ其ノ他特別ノ事由アルトキハ相當ノ手當ヲ增給スルコトヲ得

第四條　水産講習所在外研究生ニハ判任官ニ準シ旅費及支度料ヲ支給ス

前條但書ノ場合ニ於テ在官者ナルトキハ手當ヲ增給セス其ノ官相當ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得

旅費及支度料ノ支給方法ハ外國旅費規則ニ依ル

第五條　在官者ニシテ研究生ヲ命セラレタル者ハ本邦出發ノ日ヨリ歸朝ノ日迄定員外ニ置キ本官ノ俸給ヲ支給セス但シ時宜ニ依リ特ニ俸給三分ノ一以內ヲ支給スルコトヲ得

在外研究生

第六條　水産講習所在外研究生ハ歸朝ノ日ヨリ其ノ在外期間二倍ニ相當スル期間農商務大臣ノ指定スル職務ニ從事スル義務ヲ有ス

第七條　水産講習所在外研究生ニシテ農商務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ不都合ノ行爲アリタルトキハ農商務大臣ハ其ノ支給シタル手當旅費及支度料ノ全部又ハ一部ヲ償還セシム水産講習所在外研究生タリシ者ニシテ歸朝後前條ノ義務ヲ盡ササルトキハ亦同シ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二　戰事時變ノ際ニ於ケル文部省海外留學生等定員ニ關スル勅令

大正三年十月七日
勅令第二百三十號

在官者ニシテ文部省外國留學生又ハ水産講習所在

外研究生ヲ命セラレタルモノ戰時事變ノ爲留學國ニ在留スルコト能ハスシテ歸朝シタルトキ又ハ本邦ヲ出發スルコト能ハサル場合ニ於テ定員ヲ超過スルトキハ其ノ留學殘期間又ハ留學期間ニ相當スル期間之ヲ定員外ニ置クコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ定員外ニ置キタル者ハ本務ニ從事セシメス學術技藝ヲ研究セシムルコトヲ得

第一項ノ場合ニハ豫算ノ範圍内ニ於テ俸給ノ全部ヲ支給ス

第三　在外研究生

在外研究生規程ニ依リ海外ニ派遣シタル者左ノ如シ

研究事項	派遣期間	官名	氏名
獨逸國ニ於ケル水産養殖法ノ研究 墨國及伊國ニ於ケル淡水魚養殖研究	自明治四〇、一二、七 至同四二、一一、二六	技手	日暮忠
佛國ニ於テ水産食用品製造法研究 英國ニ於テ水産食用品製造法研究	自明治四一、一、三 至同四二、一、三〇	技手	小瀬次郎
米國ニ於テ貝類其他鹹水魚養殖研究 伊太利國ニ於テ貝類其他鹹水魚養殖研究	自明治四二、九、八 至同四四、三、一	技手	小野辰次郎
獨逸國ニ於ケル罐詰其他食品及油蠟等ニ關スル事項並生理化學ノ研究	自明治四四、四、一 至同四五、七、八	技手	丸川久俊
追加　北米合衆國ニ於テ前記研究事項ノ外同國食物條例實施方法ノ研究	自大正元、八、二四 至同三、一、一〇	技師	妹尾秀實
	大正五年五月十六日出發	技師	山川洵

第七章　生徒

第一節　在學生徒（二百二十四名）

第一　生徒氏名

一、研究科（十五名）

アメリカ式開鹽ノ製造並ニ輸出貿易ニ就テ（在米國）	小林敏行 東京 平	沃度副産鹽鰲ノ利用	清水淳三 神奈川 平
金魚餌料ニ就キテ（在米國）	中島穎一郎 大阪 士	漁具防腐劑ニ就テ	小河範太郎 福岡 平
本邦産牡蠣ノ輸出ニ就テ（在米國）	吉田直道 長野 士	海洋調査ニ關スル事項	日比義三 岐阜 平
種苗改良及魚病ニ關スル研究	松井佳一 山口 平	活魚及鮮魚ノ輸送	藤本政男 兵庫 平
定置漁業ニ就テ（在南洋ジヤバ）	莊得一 岡山 平	罐詰ノ内裝	秦義輔 福井 平
介殼ノ利用竝其外國貿易ニ就テ	佐藤玄三郎 東京 平	鮪漁業	福野久松 石川 平
蝦漁業及其處理法（在米國）	服部愛之助 大阪 平	鮪鰹漁業並ニ漁獲物取扱	吉田春吉 東京 士
鮭鱒漁業	石崎實三郎 愛媛 平		

二、遠洋漁業科（十五名）

第三學年（七名）		谷口武三 岐阜 平	休學
永福虎 鹿兒島 平		大村道一 兵庫 平	中村吉次 長野 平
本田光吉 愛媛 平		大石秀雄 靜岡 平	山本清内 山形 平
生徒			第二學年（五名）

家坂孝平 新潟平
高橋千里 長崎士
仙波平馬 栃木平

田原精夫 東京士
佐々木政之助 宮城平
關口壽之助 東京平

森村共正 石川士
日下部彦次郎 兵庫平
第一學年（三名）

三、本科（百八十六名）

小笠原秀雄 兵庫士
友廣年 岡山平
中谷熊補 和歌山平
菊池忠造 宮城平
鯉沼英吉 栃木平
大熊保道 山口平
伏本政樹 廣島平
佐藤清治 宮城平
伊賀敏郎 兵庫平
酒卷義司 千葉平
井上常吉 佐賀平
久野好 福岡平
谷島馬太郎 大阪平
海老塚健一 神奈川平
高橋幸三郎 宮城平

副田德平 佐賀平
鹽澤虎馬雄 山梨平
中島貞治 山形士
第二學年（二十八名）
赤星家雄 大分平
戸川千藏 鳥取平
小俣信親 東京士
中島健輔 佐賀士
庵原順一 兵庫平
秀島魁 佐賀平
篠山武次郎 岡山平
池田信也 廣島平
五十嵐昭 愛知士
中田吉太郎 東京平
大西清忠 奈良平

漁撈科（八十八名）
第三學年（三十一名）
飯野良佐 埼玉平
岩尾公博 三重士
休學
梅咲榮成 奈良平
日置德太郎 岡山華
鎌田穣 福岡平
堀井恒次郎 廣島平
大津清 福岡平
近藤止三 愛媛平
青木京一郎 嚴手平
山下彌三左衛門 鹿兒島平
今岡源一 廣島平
十川正夫 德島平
山口嘉四郎 兵庫平

近藤重虎 高知士
中島爲一 佐賀士
高久彰 福島士
石田壽之 群馬士
竹井增一 岡山平
小濱氏清 鹿兒島士
桃島年安 福岡士
坂倉今次郎 靜岡平
三好市郎 山口平
乾明太郎 高知平
桑原時藏 東京平
横手武熊 鹿兒島平
河野通直 高知士
池田文爾 富山士
森下伊三郎 和歌山平
神野三郎 愛知平
小石安一 福岡士
第一學年（二十九名）（大正六年四月入學）
永井福三郎 岡山平

北畠清風 山口平
今井菊之助 群馬平
國井林 栃木平
太田久隆 群馬平
白石平七 福岡平
谷嚴 高知士
小島信司 新潟平
北島正 長崎士
中田賢吉 長野平
馬場政二 福岡平
後藤豪 岡山士
久保慶男 長野士
瀨田稔 佐賀士
本間鬯 茨城士
飯塚喜一 東京士
山口虎雄 佐賀平
碓井秋雄 靜岡平
工藤辰雄 靜岡平
伴善居 福井士

中原俊一 福岡士
野口乾 福島士
中目協 宮城士
佐藤正夫 大分平
高橋亮吉 東京平
石田稜威雄 群馬平
廣瀨恒美 高知平
黑田德次郎 北海道平
申鴻雨 朝鮮士
製造科（六十八名）
第三學年（二十一名）
桑原義輔 山口士
成田穣 千葉士
新妻善七 宮城平
山田壽信 愛媛平
松田權六 群馬平
富岡謙吉 兵庫平
山崎秋生 京都士
本村惟 鹿兒島士

松葉篤彌 東京士
田村光三 大阪平
三輪儀三郎 大阪平
井出孝吉 東京士
濱本清志 鳥取平
梶原賴久 兵庫平
村井英雄 福岡平
河内吾郎 山口士
中島計次 群馬平
兼本盛光 沖縄士
松本清之丞 福島平
三木觀藏 兵庫平
上原元助 香川平

第二學年（十五名）

島田浦 大分平
古川武毅 千葉平
中谷正雄 大阪平
富崎善吾 佐賀平
西磐 山形士
村井午之助 千葉士
大久保嘉壽彦 香川平
宇津見修藏 茨城平
原武雄 廣島士
楠鋼四郎 愛知士
石川成人 宮城士
吉川市次 佐賀平
田邊武雄 山梨平
淺野一哉 千葉平
李重漢 朝鮮平

第一學年（三十二名）（大正六年四月入學）

眞田幸次 石川平
森川庄次郎 大阪平
渡邊喜好 福井平
中川勤 廣島平
門馬將昭 福島士
野間志朗 愛媛平
新井昇次郎 東京平
平松角治 長崎平
稲葉茂祐 熊本平
間庭秀文 東京士
山下武雄 群馬士
川口武男 三重平
青木林藏 愛知平
安藤信衛 東京平
田坂武文 山口平
水野忠一 神奈川士
內田康次 埼玉平
栗原傳四郎 埼玉平
小宮卓 東京平
高橋重治 廣島平
坂田信太郎 東京平
小泉喜代治 靜岡平
有坂松夫 長野士
築鰐 東京士
高橋越洲 福井士
松永馥一郎 福岡平
堀越一三 茨城平

川本籌雄 廣島平
山崎憲治 長崎平
西壕朝祐 兵庫平
山本益太郎 北海道平
相良谷次郎 大阪平

養殖科（三十名）

第三學年（六名）

鈴木秀策 靜岡平
宮崎敏正 熊本平
吉武實 山口平
原信 福岡平
渡邊赳 兵庫平
小園龍次 佐賀平

四、別科

赤井卯八 福井士
栗田達道 熊本平
山本治惣吉 三重平

第二學年（十一名）

秋谷庸 千葉平
建部豪 兵庫華
大島信夫 東京士
齋藤光雄 千葉平
明石博次 京都士
濱名龜助 福島平
西岡丑三 佐賀平
江島靜次 靜岡平
青木三雄 神奈川平
落合清 群馬平
加藤喜八郎 石川平

第一學年（十三名）（大正六年四月入學）

大山國男 鹿兒島士
森本敬義 東京平
永坂勝次 東京士
浦津磐太郎 熊本平
八尋武良次 福岡平
巖谷那珂彥 福岡平
上野惇五 東京士
永井正 東京士
伊藤賢一 福岡平
海老名謙一 千葉平
山田一男 群馬士
牧健三 福岡士
小林忠太 栃木平

休學

植木清 新潟平
市川友治 茨城平
東角藏 岐阜平
南風原英當 沖縄士
松野大五郎 長崎平

第二　在學生徒府縣別

在學生徒府縣別並學年一覽表

道府縣	研究科	遠洋漁業科 第一學年	遠洋漁業科 第二學年	遠洋漁業科 第三學年	本科 漁撈科 第一學年	本科 漁撈科 第二學年	本科 漁撈科 第三學年	本科 製造科 第一學年	本科 製造科 第二學年	本科 製造科 第三學年	本科 養殖科 第一學年	本科 養殖科 第二學年	本科 養殖科 第三學年	合計	別科	總計
東海區																
和歌山																
三重																
愛知																
靜岡																
神奈川																
東京																
千葉																
茨城																
福島																
宮城																
岩手																
青森																
北海區																
島根																
鳥取																
京都																
福井																
富山																
石川																
新潟																
山形																
秋田																
大分																

道府縣	研究科	遠洋漁業科 第一學年	遠洋漁業科 第二學年	遠洋漁業科 第三學年	本科 漁撈科 第一學年	本科 漁撈科 第二學年	本科 漁撈科 第三學年	本科 製造科 第一學年	本科 製造科 第二學年	本科 製造科 第三學年	本科 養殖科 第一學年	本科 養殖科 第二學年	本科 養殖科 第三學年	合計	別科	總計
內海區																
山口																
愛媛																
廣島																
岡山																
香川																
兵庫																
大阪																
西海區																
福岡																
長崎																
佐賀																
熊本																
鹿兒島																
沖繩																
宮崎																
高知																
德島																
東北海區																
北海道																
外區																
埼玉																
群馬																
栃木																
茨城																
千葉																
山梨																
滋賀																
岐阜																
長野																
朝鮮臺灣																
生徒																

道府縣	種別	研究科	遠洋漁業科 第一學年	遠洋漁業科 第二學年	遠洋漁業科 第三學年	本科 漁撈科 第一學年	本科 漁撈科 第二學年	本科 漁撈科 第三學年	本科 製造科 第一學年	本科 製造科 第二學年	本科 製造科 第三學年	本科 養殖科 第一學年	本科 養殖科 第二學年	本科 養殖科 第三學年	本科 合計	現業科	總計
外國	支那	一													一		一
合計		一五	三	五	七	二九	二八	三二	三二	一五	二二	一三	一一	六	一八六	八	二二四

第二節 卒業者

第一 卒業者氏名（〇八優等卒業×ハ死亡者）（大正六年三月調）

一 研究科（二十九名）（姓名イロハ順）

（一）漁撈科

〇明治三十七年十二月卒業（一名）

實業

〇明治四十年三月卒業（一名）　日高靖宮崎平

〇明治四十三年六月卒業（一名）　×吉永貴八郎長崎士

長崎縣長島眞珠養殖場技師（舊姓朝長）　渡邊理一東京士

〇明治四十三年七月卒業（一名）

〇大正三年七月卒業（一名）　武富榮一佐賀士

山口縣水產試驗場技師　熊田頭四郎栃木平

〇大正四年七月卒業（一名）

特許局囑託　鈴木敏三福岡士

〇大正五年五月卒業（二名）

朝鮮總督府　齋藤陽三東京士

朝鮮群山簡易水產學校　李炫國朝鮮

〇大正六年三月卒業（一名）

兵役　德光外治石川平

（二）製造科

〇明治四十一年十二月卒業（一名）

實業　杉村泰治三重士

〇明治四十三年十二月卒業（舊姓大竹）（一名）

實業

〇明治四十四年七月卒業（一名）　梅浦健吉東京士

東都府水產講習所技手（舊姓坪田）　小山甲三茨城平

〇明治四十五年三月卒業（一名）

實業　矢野實富山平

〇大正二年五月卒業（一名）

丁字屋化學研究部技師　深山義道千葉平

〇大正二年六月卒業（一名）

總房水產株式會社　內田孝雄東京平

水產講習所助手　〇大正二年七月卒業（三名）　谷村重惠和歌山平

實業　山添兵造兵庫平

神奈川縣川崎町鈴木味素工場　關根豐埼玉平

〇大正四年七月卒業（二名）

膠製造會社（王子）　深澤三郎山梨平

岩手縣水產技手　荻原茂長野平

〇大正五年三月卒業（一名）　李商鎬朝鮮

〇大正五年七月卒業（一名）

水產講習所助手　弓削讓茨城平

〇大正五年十月卒業（一名）

陸軍技手（東京陸軍獄秣廠）　近藤辰雄新潟平

（三）養殖科

〇明治三十七年十一月卒業（一名）

香川縣水產試驗場技手　今野虎吉福島平

〇明治三十九年十月卒業（一名）

水產講習所技手　丸川久俊島根士

〇大正四年六月卒業（一名）（舊姓前田）

岡山縣水產試驗場技手　申井信隆和歌山士

〇大正五年十月卒業（一名）

愛媛縣水產試驗場　三木信幸德島士

〇大正五年十一月卒業（二名）

高知縣眞珠養殖會社　片岡虎之助山形士

東京帝國大學動物學教室　岡田彌一郎東京平

二 遠洋漁業科（八十名）

〇明治三十三年五月卒業（一名）

東北帝國大學農科大學水產科講師（舊姓宮澤）　黑田九萬男東京士

〇明治三十四年七月卒業（二名）

南摩紀麿東京士

藤田勘太郎島根平

〇明治三十四年八月卒業（一名）

朝鮮總督府農商工部殖產局技手　木村廣三郎石川士

〇明治三十五年二月卒業（二名）

東京府大島島廳技手　高原剛太郎福岡士

志村次郎東京士

〇明治三十五年七月卒業（三名）

農商務技手　石野敬之千葉平

卒業者

實　業　　松崎彌市　鹿兒島平
　　森　茂樹　鹿兒島士
○明治三十六年一月卒業（一名）
實　業　　高橋淵二　岡山平
○明治三十六年十月卒業（一名）
農商務技師兼水產講習所技師　　下田李一　廣島士
○明治三十七年五月卒業（一名）
實　業（明治漁業會社）　　小金丸增次郎　福岡平
○明治三十七年十一月卒業（一名）
長崎縣水產試驗場飛龍丸乘組　　戶田牛平　靜岡平
○明治三十八年一月卒業（一名）
朝鮮江原道春川水產實習所　　前田春水　東京平
○明治三十八年三月卒業（一名）
　　松尾秀夫　長崎士
○明治三十八年十月卒業（一名）
トロール漁業　　佐藤正孝　山形平
○明治三十九年四月卒業（一名）
實　業　　田中仁吉　島根平
○明治三十九年十一月卒業（一名）
宮城縣水產試驗場技師　　黑木圓太　福岡平
○明治四十年十一月卒業（二名）
實　業　　筧多記　茨城平
鹿兒島縣立商船水產學校教諭　　美代清信　鹿兒島士
○明治四十一年八月卒業（一名）

○明治四十一年九月卒業（一名）
　　×川添友志　鹿兒島平
大日本水產會漁船設計部技師　　上枝平五郎　香川平
○明治四十一年十二月卒業（一名）
ラサ島燐礦合資會社　　小松重利　高知平
○明治四十三年五月卒業（二名）
共同漁業株式會社技師　　林田甚八　長崎平
實業（田村汽船漁業部）　　國司浩助　山口平
○明治四十三年十月卒業（四名）
實　業　　柳悅多　東京士
宮崎縣水產試驗場技手　　長友寬　宮城士
臺灣總督府技手（淺海丸監督）　　安達誠三　愛媛平
福岡縣水產試驗場技師　　秋山實　千葉平
○明治四十四年九月卒業（四名）
朝鮮總督府鵬丸船長　　吉田義男　長崎平
在　米　　福野久松　石川平
千葉縣技手　　木下信資　鳥取士
愛媛縣水產試驗場技手　　濱上二州　兵庫士
○明治四十四年十二月卒業（一名）
農商務技手（速鳥丸船長）　　宮鳩伊太郎　鹿兒島平
○大正元年八月卒業（四名）
岩手縣水產試驗場技手　　谷本坂惠　岡山平
　　×市川峯吉　三重平
山口縣水產試驗場技手　　新井藤一郎　茨城平

實業（嘉美齋商會）　　蓑田靜夫　鹿兒島平
○大正元年十月卒業（四名）
富山縣水產講習所技手　　興儀喜宣　沖繩平
富山縣水產講習所技手　　後藤節藏　大分平
　　飯尾公壽　福岡士
愛媛縣水產試驗場技手　　日比義三　岐阜平
○大正元年十二月卒業（一名）
關東州水產試驗場技手　　岩本清太郎　鳥取士
○大正二年八月卒業（六名）
　　×渡邊康介　愛知平
實業（田村汽船漁業部）　　加藤平吉　山形平
春丸一等運轉士　　武富榮一　佐賀士
三重縣水產試驗場技手　　竹田重雄　靜岡士
　　後藤榮助　香川平
　　柴戶雅一　長崎平
○大正二年十月卒業（三名）
實業（明治漁業株式會社）　　伊東猪六　佐賀士
實業（明治漁業株式會社）　　辻知一　長崎平
實業（明治漁業株式會社）　　木村成松　福井士
○大正二年十二月卒業（一名）
實業（山神組）　　木村晃　鳥取平
○大正三年三月卒業（四名）
農商務省利國丸　　林卯吉　大阪平
　　越智章　靜岡士

卒業者

實　業　　小林章之　埼玉平
○大正三年五月卒業（二名）
長崎縣水產試驗場技手　　佐藤敬吉　山形平
石川縣水產試驗場技手　　上野省三　山形平
○大正三年八月卒業（一名）
雲鷲丸運轉士　　田中耕之助　東京平
○大正三年十月卒業（二名）
實業（日魯漁業會社）　　山本靜一　愛媛平
實業（樺太宮內纏詰製造所）　　御厨保太郎　長崎士
○大正四年六月卒業（一名）
臺灣澎湖島水產組合技師　　大塚三平　茨城平
○大正四年十二月卒業（五名）
實　業　　古閑義康　熊本士
實　業（大北漁業會社）　　飯田與兵衛　東京平
臺灣水產株式會社　　葛城忠男　石川平
　　國分友海　鹿兒島士
　　×莊司勇　山形士
　　島田喜一　靜岡平
○大正五年四月卒業（二名）
柴取丸運轉士　　中川甚藏　東京平
福島縣水產試驗場技手　　三輪源造　岡山平
○大正五年七月卒業（六名）
神壽丸運轉士　　高柳繁次郎　群馬平
實業（田村汽船漁業部）　　馬上福壽　福島平

兵　役　山口慶四郎　群馬平
鰐漁船富鶴丸船長　久富　元　長崎平
香川縣水産試驗場技手　松尾我何人　長崎平
宮崎縣南那珂郡南郷漁業組合　塚崎謙吉　歌田士
○大正五年十一月卒業（一名）
兵　役　郵井捨吉　東京平

三本科（八百三十二名）

（一）漁撈科（三百三十名）

○明治三十一年四月卒業（十三名）
渤黄漁業株式會社　家入四直　福岡士
橋本猪太郎　熊本平
宮城縣水産技師　加藤勢三　三重平
沖繩縣立水産學校教諭兼校長兼沖繩水産技師（舊名小市）　龜井順一　山口平
南廖紀麿　東京士
外務省（電信課在勤）　長友茂三郎　宮崎士
實業　業　村田乙三郎　東京士
朝鮮館日魯漁業株式會社技師　内田治三郎　山口士
實業　業　武藤禮二　宮城士
朝鮮總督府農商工部殖産局技手　福田久橘　長崎士
福岡縣糸島郡技手　木村廣三郎　石川士
實業　業　庄司與一郎　石川平
菅谷　毅　茨城平
○明治三十二年四月卒業（十五名）
實業　業　吉永貫八郎　長崎士
新潟縣水産試驗場技手　田中仁吉　島根平
北海道水産試驗場技師（室蘭駐在所）　田谷　英　石川平
福德銀行專務取締役　津田美津彦　福岡士
北海道水産試驗場技手（釧路駐在所）　○中村嘉壽　鹿兒島平
久保澤　董　青森士
實　業　松田　林　宮崎士
和歌山縣水産試驗場技師兼場長　小金丸增次郎　福岡平
小島才一　神奈川平
鹿兒島縣加世田鰯漁業會社取締役　小木原元吉　鹿兒島士
森　藏助　鹿兒島士
須田正治　山形平
○明治三十四年四月卒業（八名）
宮城縣立水産學校教諭　石川伸治　石川士
福島縣技手　○本間平八　山形平
長内泰助　岩手平
在米國　大川辰藏　兵庫平
福井縣立小濱水産學校教諭　松尾秀夫　長崎士
朝鮮江原道春川水産實習所　前田春水　宮城平
荒　卯忠　福島士
秋田縣水産試驗場技手　喜多山昇來　愛媛士
○明治三十五年四月卒業（五名）
石川縣技手　額田喜一　香川平
鹿兒島縣水産試驗場技手　小島省吾　石川士

卒業者

實業（トロール漁業）　佐藤正孝　山形平
同　日高　靖　宮崎平
長崎縣北松浦郡水産技手　元木淑人　鳥島平
○明治三十六年七月卒業（七名）
函館日魯漁業株式會社　稲見彌一郎　北海道平
×岩田　雄　京都平
福井縣技手　内田四郎七　福井平
宮城縣水産試驗場技手　黒木圓太　福岡平
×山田廣次　福岡平
宮田光　京都平
關根礒吉　東京平
水産講習所技手
○明治三十七年七月卒業（十二名）
水産講習所技手　堀　宏　新潟士
實業（神戸盛和商會）　渡邊定助　愛知士
長崎縣長島眞珠養殖場技師（舊姓朝長）　渡邊理一　東京士
實　業　笹多記　茨城士
實　業　田中榮定　長崎士
實業（在智利）　中島昌二　廣島士
大分縣東臼杵郡水産技手　中島秀男　島根士
島根縣水産試驗場技手　長井貫吾　新潟平
長崎縣西彼杵郡長島眞珠養殖場技師（舊姓鈴木）　山岸留之助　北海道平
ラサ島燐礦合資會社　小松重利　高知平
鹿兒島縣立商船水産學校教諭　美代清信　鹿兒島士
新潟縣技師　杉江謙治　石川士

○明治三十八年七月卒業（十三名）

秋田縣水産試驗場技手　伊藤朗　愛知平
實業（下關高津商店）　（舊姓福井）岩木千代馬　高知士
共同漁業株式會社技師　林田甚八　長崎平
新潟縣能生水産學校教諭　堀江英一　廣島平
×川口鏞一　岐阜士
×川添友志　鹿兒島平
青森縣下北郡水産技手　南部寛　福井士
×村上素　宮城士
大日本水産會漁船設計部技師　上枝平五郎　香川平
東京帝國大學水産科助手　久保雷之助　愛媛平
實業　山根左中　島根平
實業　木暮彌七　群馬平
實業　水間春吉　德島士

○明治三十九年七月卒業（十二名）

在墨國　登坂高三　山形士
×和田美德　宮崎平
水産講習所技手　鎌田武造　青森平
實業　笠松彌一　東京平
山口縣技手　河野光三　山口平
實業　田中登　三重平
實業　中村源一郎　鹿兒島平
京都水産講習所技師　奥津興美　群馬士
朝鮮總督府技手　山田純太郎　東京平
千葉縣技師（山陽工作所）　橋川章　宮城士
實業（山陽工作所）　榎本驛正　香川平
熊本縣水産試驗場長　杉浦保吉　埼玉平

○明治四十年七月卒業（十五名）

實業（鮮魚運搬業）　○芳賀奈七郎　岩手平
實業　秦半兵衛　東京平
東郷保一　宮城平
×川島信一　廣島士
中北靜　岐阜平
愛知縣水産組合技師　村山吉助　山形士
實業（大敷網）　村岡貫一　山口平
實業　野間口兼美　鹿兒島士
實業（國館堤商會）　小川幸之進　岡山平
農商務技師（第二西宗丸船長）　長田景貞　鹿兒島士
實業（田村汽船漁業部）　國司浩助　山口士
山口縣水産試驗場技師　熊田頭四郎　栃木平
×小崎彰　宮城士
臺灣總督府技手（凌海丸監督）　安達誠三　石川士
北海道水産試驗場技師　木津和秀男　廣島平

○同年九月卒業（三名）

宮崎縣水産試驗場技手　長友寛　宮崎士
福岡縣水産試驗場技師　秋山實　千葉平
實業　柳悅多　東京士

○明治四十一年十月卒業（十七名）

在シンガポール　石井悌二　茨城平
馬場駒雄　岡山士
神奈川縣水産試驗場技手　新宅定一　廣島平
×飛山信治　新潟平
朝鮮總督府技手　×渡邊康介　愛知平
北海道小樽水産學校教諭　河村常一　廣島平
朝鮮總督府鶴丸船長　金子常太郎　岩手平
農商務技手　吉田義男　長崎平
沖縄縣立水産學校　高山伊太郎　大分平
德島縣水産試驗場技手　竹内仲治　長野平
日本汽船株式會社技師　村上寅一　愛媛平
在米　○植木憲吉　兵庫平
福野久松　石川平
千葉縣技手　天野莊助　愛知平
農商務技手（遠鳥丸船長）　木下信資　鳥取士
愛媛縣水産試驗場技手　宮脇伊太郎　鹿兒島平
濱上二州　兵庫士

○明治四十二年七月卒業（九名）

佐賀縣水産試驗場技手　奥村伊三郎　滋賀平
青島軍政署　金剌琢磨　香川平
岩手縣技手　横田壯　福島士
實業　吉田定次郎　鹿兒島平
春丸一等運轉士　武富榮一　佐賀士
青森縣水産試驗場技手　辻志郎　栃木士
樺太廳技手　明山保次郎　兵庫平
實業　木下辰雄　熊本平
長崎縣水産講習所技手　三浦定之助　山形平

○同九月卒業（十二名）

關東州水産試驗場技手　岩本清太郎　鳥取士
×市川峰吉　三重平
鳥取縣水産試驗場技手　飯尾公壽　福岡士
富山縣水産講習所技手　○興儀喜宣　沖縄平
岩手縣水産試驗場技手　谷本坂憲　岡山平
富山縣水産講習所技手　後藤節藏　大分平
臺灣澎湖島水産組合技師　古開義康　熊本士
山口縣水産試驗場技手　新井藤一郎　茨城平
×○齋藤齊　福島士
實業（惠美壽商會）　○蕓田靜夫　鹿兒島士
北海道水産試驗場技手　白井勝三郎　茨城平
研究科在學　日比義三　岐阜平

○明治四十三年七月卒業（十五名）

北海道小樽水産學校教諭　伊吹群作　福井平
東京府小笠原島廳技手　濱田五六　廣島平
岩手縣水産學校教諭　新國逸夫　新潟士
島根縣水産試驗場技手　細川可也　栃木平
神奈川縣技手　富永盛治郎　福島平
廣島縣水産技手　岡本曉　山口平
横山將來　石川士

宮城縣立水產學校教諭　竹本正夾　東京士
三重縣水產試驗場技手　竹田重雄　靜岡士
高知縣水產試驗場技手　長棟暉友　鳥取平
實業(大敷網)　能美猪勇武　福岡平
熊本縣水產試驗場技手　黑田藤五郎　愛媛平
實業(大敷網)　秋山立見　香川平
　　柴戸雅一　長崎平

（修業證書）王文泰支那

○同年八月卒業（六名）
實業(明治漁業株式會社)　伊藤猪六　佐賀士
實業(田村汽船漁業部)　加藤平吉　山形平
　　後藤榮助　香川平
在米國　秋田榮治　東京平
實業(山神組)　木村呈　鳥取平
實業(明治漁業會社)　木村成松　福井士

○明治四十四年七月卒業（十七名）
水產講習所助手　三浦正　秋田平
千葉縣水產試驗場技手　矢吹正夫　岡山平
實業(大敷網)　石原重郎　熊本平
實業(大敷網)　山田楠一　愛媛平
岡山縣水產試驗場技手　藤川若松　廣島平
實業　牛山美廣　長野士
大分縣國東郡水產技手　山根換一　埼玉平
實業(樺太宮內廳詰場)　大塚三平　茨城平
樺太廳技手　布目孜　石川士
山口縣技手　×高木繁春　東京平
三重縣水產試驗場技手　高橋照文　千葉平
　　水戸川運一　廣島平
實業　×吉川隆治　秋田平
鹿兒島縣水產技手　宮崎盛　長崎士
　　清水隆道　山口平

（修業證書）林元良支那
　　李士廣支那

○同年九月卒業（十二名）
日露漁業株式會社　青木直治　北海道平
農商務省利國丸運轉士　林卯吉　大阪平
　　越智章　靜岡士
實業(角輪組)　×黑野元憲　東京士
實業(明治漁業株式會社)　佐藤敬吉　山形平
長崎縣技手　辻知一　長崎平
長崎縣水產試驗場技手　松本修二　兵庫平
實業(日魯漁業會社)　上野省三　山梨平
　　御厨保太郎　長崎士
雲鷺丸運轉士　小林章之　埼玉平
石川縣水產試驗場技手　山本靜一　愛媛平
　　田中耕之助　東京平

○明治四十五年七月卒業（十二名）
新潟縣水產試驗場技手　石井文吉　東京平

和歌山縣南牟婁郡技手　佐々木三治　富山平
農商務屬兼技手　○戸井田二郎　熊本平
實業　神山捨吉　岐阜士
水產講習所助手　野崎知之　福島平
高知縣水產試驗場技手　○大場哲夫　宮城平
　　（舊姓山本）
福井縣立小濱水產學校教諭　須藤三策　新潟平
青森縣水產試驗場技手（下北郡分場）　八木三千彥　鹿兒島士
農商務技手　松尾政次郎　佐賀平
　　×平瀨博　兵庫平
　　清藤太郎　靜岡平
實業(日魯漁業會社)　霜村平七　佐賀平

○大正元年九月卒業（九名）
實業　飯田與兵衛　東京平
　　丹羽六一　岐阜平
實業(大北漁業會社)　葛城忠男　石川平
基隆水產株式會社　國分友海　鹿兒島士
　　小塚銀八　愛知平
靜岡縣水產試驗場技手　照井賢三　岩手平
愛知縣水產試驗場技手　水野均治　愛知士
　　島田喜一　靜岡平
　　×莊司勇　山形士

○大正二年七月卒業（十名）
農商務技手　○飯山太平　茨城平
實業　濱崎末長　高知平
海外實業練習生　吉安新次　兵庫平
青森縣水產試驗場技手　田面欽次　兵庫平
富山縣技手　松田鶴次郎　福岡平
研究科在學(在米國)　小安正三　東京平
實業　小林敏行　東京平
實業(大敷網)　宮本義永　茨城平
特許局囑託　島田儀三郎　熊本平
　　○鈴木敏三　福島士

○大正二年九月卒業（十一名）
遠洋漁業科在學　本田光吉　愛媛平
同　岡本重治　東京平
神壽丸運轉士　高柳繁次郎　群馬平
宮崎縣南那珂郡南鄕漁業組合　塚崎謙吉　秋田士
大阪商船會社柔取丸乘組　中川甚藏　東京平
兵役　山口慶四郎　群馬平
實業(田村汽船漁業部)　馬上福壽　福島平
香川縣水產試驗場技手　松尾我何人　長崎平
遠洋漁業科在學(在シンガポール)　永福虎　鹿兒島平
福島縣水產試驗場技手　三輪源造　岡山平
鰹漁船高鵬丸船長　久富元　長崎平

○大正二年十月卒業（一名）
研究科在學　小河範太郎　福岡平

○大正三年七月卒業（九名）
研究科在學(在米)　○服部愛之助　大阪平

卒業者

神奈川縣鎌倉郡水產組合技師　原田健兒　熊本士
滋賀縣水產試驗場技手　野崎民平　三重平
新潟縣工所東京出張所　前田英二　新潟平
鹿兒島縣出水郡技手　梅本儀助　福岡平
實業(山神組)　本間久四郎　新潟平
研究科在學(在南洋ジヤバ)　莊得一　岡山平
兵役　德光外治　石川平
實業(堤商會)　山田勝衛　長野平

○大正三年九月卒業(九名)

實業　飯沼壽　東京平
遠洋漁業科在學　林準二　東京平
同(在米)　谷口武遵　岐阜平
兵役　郡井拾吉　東京平
遠洋漁業科在學　大村道一　兵庫平
實業(堤商會)　佐藤成美　和歌山士
水產講習所助手　佐々木孝遵　宮城平
帝國水產株式會社下關出張所　桐本富次　和歌山平
和歌山縣北牟婁郡技手　岸田十雄　岡山平

○大正三年十月卒業(一名)

輸出食品株式會社　沼野鈰吉　新潟平

○大正三年十一月卒業(二名)

遠洋漁業科在學　中村吉治　長野平
實業　重田瑞穗　兵庫士

○大正四年七月卒業(十七名)

研究科在學　石崎實三郎　愛媛平
實業(堤商會)　渡邊六造　山形平
農商務省水產局　吉田秀一　東京平
青森縣東津輕郡技手　田代正治　新潟平
福岡縣水產試驗場技手　津田守規　福岡平
兵役　中山琢三　福島平
實業　岡本正一　靜岡平
　　栗田要吉　京都平

○山田盛雄　福岡士

福岡縣水產試驗場技手　山本德　愛媛平
　　合原一　福岡士
　　小松和勝　熊本平
富山縣水產講習所技手　旭章　石川平
朝鮮總督府　齋藤陽三　東京士
實業　龜田繕一　島根士
實業　白石覺三郎　埼玉平
朝鮮群山簡易水產學校　李炫國　朝鮮

○大正四年九月卒業(十名)

遠洋漁業科在學　家坂孝平　新潟平
同(在米)　高橋千里　長崎士
實業(大敷網)　浦山繕一　靜岡平
同(同)　山井隆亮　栃木平
鹿兒島縣水產試驗場技手　峯長三　長崎士
遠洋漁業科在學　日下部彥次郎　兵庫平

同　森村共正　石川士
遠洋漁業科在學　桃田利愈　新潟平
　　仙波平馬　栃木平
　　×進藤　福岡平

○大正四年十月卒業(一名)

兵役　三宅好美　岩手平

○大正四年十二月卒業(二名)

帝國水產株式會社　村上正男　愛媛平
　　淵山貞　長崎士

○大正五年七月卒業(九名)

兵役　雁部松三郎　宮城平
實業(大敷網)　北野退藏　宮城平
實業(同)　金村正己　山形平
臺灣義勇隊　秋山俊一郎　高知平
高知縣高岡郡技手　谷村豐吉　高知平
臺灣嘉義廳　須貝實　山形士
實業(製網業)　根岸勝彌　福島士
兵役　尾藤信正　熊本士
兵役　岡村清　廣島士

○大正五年九月卒業(三名)

實業(大敷網)　荊郡明七　栃木平
研究科在學　吉田春吉　東京士
遠洋漁業科在學　田原精夫　東京士

○大正五年十一月卒業(二名)

實業(大敷網)　原猶二　島根平
　　行川清　千葉平

○大正五年十二月卒業(二名)

遠洋漁業科在學　佐々木政之助　宮城平
遠洋漁業科在學　關口壽之助　東京平

○大正六年三月卒業(十七名)

實業(角輪組)　天野郡治　千葉平
　　今村龍雄　三重平
實業　川瀨爲一　香川平
　　佐々木武雄　宮城平
　　和田秀政　兵庫士
實業(山神組)　正木一作　千葉平
　　中島正一　東京士
實業(角輪組)　柳川和民　島根平
　　甘利集基　長野平
　　市川友賀　神奈川平
　　人見秀四郎　東京士
　　岡田正人　兵庫平
　　菅三郎　岩手士
　　平山繁　鹿兒島士
　　澤池一雄　京都士
　　鄉朔雄　東京華
　　金泳煥　朝鮮

卒業者

(二)製造科

(三百五十六名)

○明治三十一年四月卒業（三十四名）

愛知縣水產試驗場技師兼場長　今井次郎　神奈川平
（舊姓沖）長谷川作次　石川平
×濱元四良太郎　富山平
朝鮮總督府司稅局技手廣梁灣出張所（舊姓藤瀨）二宮常八　香川平
實業　西保　熊本士
東京浮酒罐詰同業組合　堀江銀之助　東京士
×本郷益蔵　東京士
（舊姓篠崎）小倉順三　千葉平
水產講習所技師　小野辰次郎　東京士
×大津吉之助　茨城士
臺灣臺南北門嶼專賣局技手　岡本賢一　大分士
×吉川尙方　東京平
×吉田三俊　大阪士
實業（在米國）　高松勝重　三重士
（舊姓關根）×田所清雄　茨城平
朝鮮總督府技手（慶尙南道廳）　中西英男　三重士
山口縣水產試驗場技師兼場長　中島庸三　長野平
東京府農工銀行（舊名和太郎）和和七　東京平
長崎縣水產講習所技師　大和地由太郎　千葉平
實業　山本廣三　大分士
實業（舊姓佐藤）牧野左馬三　大分平
東京府技師　前田庄五郎　兵庫平
北海道根室五星罐詰會社技師　藤村守一　高知士

鹿兒島縣立商船水產學校教諭　松生豬三男　福岡士
北海道水產試驗場技師（釧路支場）×駒澤幸一　石川士
×古賀駿輔　佐賀士
北川克郎　高知士
木原方吉　佐賀士
宮崎縣水產試驗場技手　宮木周市　山口平
×三島拙郎　島根士
實業　白石靜　鹿兒島士
肝油製造業　平野友安　千葉平
（舊姓廣瀨）守田貞三　大分平
實業　關原東太　千葉平
千葉縣水產試驗場技師
○明治三十二年四月卒業（二十二名）
臺灣打狗專賣支局技手　井關正行　和歌山平
市橋丁丸　東京華
實業　西堀良造　北海道士
朝鮮總督府技手　富樫恒　千葉士
臨時產業調査局技師（舊名誠一）○小川清一　佐賀士
神奈川水產試驗場技師兼場長　大木盛三郎　東京士
×辻好司郎　石川士
青森縣水產試驗場技師兼場長○中村平八　德島平
（舊姓小倉）久甫恒介　山口士
實業　×黑岡安定　東京平
在米國　府坡健藏　石川平
朝鮮海水產組合技手（鎭南浦支部）府中喜八郎　石川平

高知縣水產試驗場技師兼場長　小石季一　秋田士
青森縣水產試驗場技師　小岩井治世　青森士
茨城縣鹿島郡若松村立水產學校教諭　藍野一男　千葉平
福喜洋行　佐々木繁太郎　香川平
×北野宇佐吉　德島平
×肝付兼昌　鹿兒島士
×光增健三郎　佐賀士
×宮島伊望　千葉平
實業　益谷源七　宮城平
實業（舊名勝藏）廣戸松右衛門　島根平
○明治三十三年四月卒業（十五名）
日本勸業銀行員（舊名長作）一宮弘人　長崎士
宮崎縣南那珂郡水產技手（舊姓渡邊）伊藤哲太郎　茨城平
山口縣水產組合技手（舊姓大西）田直作　富山平
實業　鈴木珍平　岩手平
臺灣總督府技手　金高喜一郎　千葉平
實業（在朝鮮鎭南浦）吉田虎藏　德島平
（舊姓大市）×室伏俊五郎　三重平
實業　浦山伍作　石川平
在米國　久保茂勛　山口平
×久木田勝馬　鹿兒島士
久谷歡一郎　島根平
阿部徹　宮城平

×齋藤七郎　千葉平
○水野幸次郎　愛知平
實業　鹽田愛麟　千葉平
北海道廳立小樽水產學校教諭
○明治三十四年四月卒業（九名）
×池田熊之助　鹿兒島士
千葉幸三郎　東京士
樺太水產試驗場長　小野寺利吉　宮城平
滿洲製粉株式會社專務取締役　中井國太郎　愛媛平
水產講習所助教　野元俊一　鹿兒島士
宮崎縣水產試驗場技手　松原榮　兵庫平
專賣局技手兼書記（專賣局事業部在勤）船橋晋吉　神奈川平
×小見山富市　熊本平
×朝比奈雪　靜岡士
○明治三十五年四月卒業（三名）
專賣局技手兼書記（三田尻專賣支局小松志佐出張所在勤）岩城宣郎　靜岡平
（舊姓中野）田淵速吉　德島平
函館日魯漁業株式會社　久保田信治　兵庫平
富山縣技手
○明治三十六年七月卒業（十三名）
樺漢罐詰檢査所　石原重良　山形士
北海道水產試驗場技師　岩本正孝　長野士
愛媛縣水產試驗場技手　渡邊安忠　大分士
×吉川秀之　石川平
靜岡縣水產試驗場技手　宗熊　大分士

卒業者

實業（罐詰及釦製造）
實　業　（舊姓野田）田島百人　熊本士
日本皮革株式會社技師　松尾鑑彦　愛知平
北海道廳技手　淺井謙吉　東京士
水產講習所技手　（舊名興吉）×酒井惣次郎　三重平
在米國　菊池　健　岩手士
石川縣水產試驗場技手　宮内友吉　鹿兒島平
志村彦藏　山形士

○明治三十七年七月卒業（八名）
岩手縣立宮古水產學校教諭　堀田嘉吉　岩手平
鐵道院囑託　河村尊雄　京都平
輸出食品株式會社取締役　鍋島鑑道　高知平
樺太廳技手　松山秀雄　熊本平
實　業　○安藤俊吉　兵庫平
下ノ關山神組專務取締役　白石庸次郎　新潟士
實　業　森萬次郎　東京平
在米國　勢島莊太郎　福岡平

○明治三十八年七月卒業（十八名）
宮城縣本吉水產學校教諭　伊東二郎　茨城平
實業練習生（在南米）　林祿郎　大阪平
實業（大連）　馬場清止　宮城士
河西延次郎　香川平
實　業　武季作　東京士
實　業　長屋熊槌　廣島平
內外水產株式會社　×宇加治文雄　茨城平
橫濱野崎商會　×國島徹　北海道士
安永宗治　福岡平
牧野健次郎　靜岡平
松坂省輔　山口平
宮城縣技手　×益滿行綱　東京士
愛知縣渥美郡水產組合並三河海苔同業組合技師　江島悅次郎　福岡士
水產講習所助教　栗屋協二　愛知士
輸出食品株式會社技師　木村金太郎　東京士
實　業　鈴木幸太郎　靜岡平
杉山恒吉　德島士

○明治三十九年七月卒業（十八名）
長崎縣技手　池內清　愛知士
專賣局技手兼書記（阪出專賣支局高松出張所在勤）　岩井龜治　高知平
東洋製罐株式會社技師長　○高崎逢之助　大阪平
臨時產業調査局技手　立川卓逸　新潟士
實　業　仲野九郎　兵庫平
愛媛縣西宇和郡水產技手　中川克己　高知平
×中村平　福岡平
福井縣水產組合技師　名村竹雄　福井士
實　業　宗像浩次郎　廣島平
大日本水產株式會社技師　內田耕　東京平
上田壯一　山口平
大槻清三　東京平

熊本縣技手　山內豐彦　茨城士
朝鮮總督府專賣局廣梁灣出張所技手（舊名仁三郎）　福島政吉　東京士
實　業　赤坂和一　北海道平
臺灣總督府專賣局技手　喜代美榮一郎　長崎平
朝鮮海水產組合本部技手（釜山）　篠原睦造　島根平
北海道廳技手　柴田匡一　岐阜士

○明治四十年七月卒業（十六名）
×林隆義　東京士
×○吉野季　長野士
帝國冷藏株式會社技師　永峰治光　北海道士
東京若榮商店　中島董一郎　東京平
實業（罐詰製造業）　梅宮鶴藏　福島平
朝鮮總督府專賣局技手廣梁灣出張所　野口莊次　埼玉平
×岡本剛三　東京平
茨城縣水產技手　山中巖　廣島平
滿洲水產株式會社（大連）　間世田名臣　鹿兒島士
北海道水產試驗場技手　鑄谷六三　埼玉平
帝國冷藏株式會社技師（橫濱冷藏庫）（舊姓里深）佐々田榮重　島根平
高田清一　兵庫平
（舊姓市川）
富山縣技師、富山縣水產講習所技師兼所長　阪元清　東京士
北海道後志支廳水產技手　三森富雄　東京平
新潟縣能生水產學校教諭　島崎眞藏　高知士

○同年九月卒業（一名）
卒業者
實　業　杉村泰治　宮城士

○明治四十一年七月卒業（二十六名）
實業（罐詰製造業）　濱部常三郎　和歌山平
西方悌次郎　神奈川平
鹿兒島水產試驗場技手　富山正己　千葉士
實業（朝鮮）　富田逸道　高知平
同　（舊姓大竹）○梅浦健吉　東京士
愛知縣水產試驗場技手　大島愼二　東京平
樺太廳水產物檢査所眞岡事務所　岡田誇夫　東京平
○田口寧一郎　茨城平
專賣局技手兼書記（神戸專賣支局在勤）角田鵜雄　埼玉平
實業（罐詰製造業）　中島安太郎　愛知平
×久志本欣之助　三重平
專賣局技手兼書記（金澤專賣支局飯田出張所在勤）　柳瀨覺太郎　群馬平
×山極七郎　長野平
國館堤商會技師　松下高　福岡士
×前田隆一　兵庫平
朝鮮總督府專賣局技手（廣梁灣出張所）　眞田吉之助　石川平
樺太廳技手　藤田要太郎　愛媛平
實業練習生（在米國）　小島米吉　茨城平
沖繩縣立島尻水產學校教諭　赤嶺愼一　沖繩平
實　業　新井虎之助　東京平
朝鮮稅關技手（釜山）　相澤毅　長野平
島根縣水產試驗場技手　神隆三　東京士

三重縣水産試驗場技手　森谷茂　鹿兒島士
支那浙江模範漁業試驗場技師　鈴木厚三郎　兵庫平
（修業證書）　陳非清國　曹文淵清國

○明治四十二年七月卒業（二十一名）

青森縣水産技手　一ノ瀬福己　福岡士
朝鮮總督府技手　○小倉善平　栃木平
大倉組店員（上海在勤）　若林忠雄　茨城士
在米國　田中良平　埼玉平
實業　谷口直太郎　兵庫平
同　高瀨重之　栃木平
陸軍技手（字品陸軍糧秣廠在勤）　田代實範　福岡平
實業（罐詰製造業）　武晴宣　群馬平
京都府水産講習所技手　（舊姓坪田）小山甲三　茨城平
×永井良神奈川平
大阪輸出罐詰檢査所員　中岡盛繼　岡山士
廈館輸出罐詰檢査所員　山路政一　廣島平
福岡縣水産試驗場技手　增田久家　愛媛士
實業（神戸）　○福井守一　東京平
デンビー商會罐詰工場技師　小林丈太郎　岡山平
有賀篠夫　長野平
×北島格一　佐賀平
水産講習所技手　北川政次郎神奈川平
田中新藏罐詰工場　木村松太郎　群馬平

實業（朝鮮江原道注文津）　三木源吉　兵庫平
菅原元一郎　岩手平

○明治四十三年七月卒業（二十二名）

朝鮮總督府技手　岩佐定一　長崎平
鹿兒島縣水産技手　西村和雄　東京士
水産講習所助教　（舊姓武藤）○中山留八　福島平
×高宮正　山形平
×內藤俊一　山口士
中野常雄　北海道士
水産貿易業（神戸）　太田貞太郎　東京平
沃度製造業　○矢野實　富山平
水産講習所技手　山本祥吉　廣島士
實業　前澤織衛　長野平
岡野商店（橫濱）　淵崎顯三　神奈川士
實業　有坂利一　群馬士
朝鮮總督府技手（咸鏡北道廳）　菅田春藏　福岡士
實業　九條良叙　東京華
宮城縣立水産學校教諭　鈴木儀八　岩手平
支那江蘇省立水産學校長（修業證書）　張鏗清國
支那福州水産學校　孫英清國

○同年十月卒業（五名）

（舊姓中光）加隈良介　熊本平
村上次郎　山口士
裕田商店技師（富山市）　布施逵治　千葉平

在米國　海老澤光治　東京平
實業（函館）　菅宮清吉　茨城平

（明治四十四年七月卒業（二十六名）

千島罐詰製造所技師　飯澤發　宮城士
臺灣漁業株式會社技手　池山光藏　三重平
北海道水産試驗場技手（室蘭支場）　德永盛雄　熊本士
水産講習所助手　吉田敬雄　熊本平
田中製革場技師（東京）　谷村重忠　和歌山平
武本源四郎　岡山平
×津田弘一　東京士
實業　塚越繼二　群馬平
肝油製造業（樺太）　櫻岸林造　兵庫平
總房水産株式會社　內田孝雄　東京平
實業（食料品業）　內田林治　東京平
北海道水産試驗場技手（高島）　牛島實鹿兒島士
特許局技手　安井章一　兵庫平
染料製造業　山添兵造　兵庫平
福井縣立小濱水産學校教諭　小柳石男　山形平
農商務省水産局　江副元三　佐賀士
專賣局技手兼書記（派出專賣支局在勤）　齋藤登樓　香川平
佐藤善右衛門　岩手平
丁字屋化學研究部技師　深山義道　千葉平
（修業證書）　伍正名　清國
（修業證書）　胡澤泰清國

卒業者

○同年十一月卒業（五名）

堤罐詰工場技師（勘務加）　伊藤孝夫　新潟平
×外山源吾　新潟平
輸出食品株式會社技師　×橫尾藤作　群馬平
大倉組店員　荻野演一　兵庫平
佐田作郎　宮崎士

○明治四十五年七月卒業（十二名）

岩手縣水産學校教諭　池田良作　山形平
農商務技手　○伴誠一　東京士
樺太廳技手　大內義男　福島平
×川端豐松　兵庫平
名古屋市中央市場株式會社　川口久四郎　三重平
福島縣水産試驗場技手　河村兵三　三重平
實業　中村悌二郎　京都平
大橋哲郎　靜岡平
膠製造會社（王子）　深澤三郎　山梨平
鈴木味素工場　關根豐　埼玉平
朝鮮總督府技手　島村威儀　熊本士
千葉縣夷隅郡技手　島添眞一　京都平

○大正元年十一月卒業（八名）

（舊姓岩澤）實川計德　千葉平
罐詰販賣業　×大川實　靜岡平
輸出食品株式會社技師　長光悟　福岡平

赤坂罐詰製造所(樺太)　三井澄　東京平
臺灣澎湖島廳技手　平林愛民　長野平
佐賀水產株式會社　森田巽　佐賀士
在米國　鈴木武　栃木士
貯藏食品製造場技師　清水一司　東京平

○大正二年七月卒業（二十四名）

菊屋商店員　市島徹太郎　新潟平
　飯岡忠重　栃木平
大阪和洋酒同業組合　本田鹿人　熊本平
　○鳥居强次　東京平
岩手縣水產技手　荻原茂　長野平
三越吳服店　大槻房吉　京都平
横濱海產乾物同業組合　小野彌一　靜岡平
　小野太亮　山口平
實業　神住潔光　埼玉平
長崎縣水產試驗場技手　内藤護三郎　東京平
臺灣總督府　中村信治　福井平
鈴木工場(室蘭)　中村瓦　石川平
樺太廳技手(大泊支廳)　黑田元治　北海道士
後藤罐詰製造所技師(長崎縣野母村)　久保田覺壽　茨城平
日本化學工業株式會社　山本泉　東京士
　松生義勝　大阪平
樺太罐詰合資會社　藤本尙一　石川平
陸軍技手(東京陸軍糧秣廠)　近藤辰雄　新潟平
古屋商店員(横濱)　寺門弘隆　茨城平
新潟縣能生水產學校教諭　源義一　廣島平
　森暉　兵庫平
　(舊姓仙石)
實業　森茂之　德島平
水產講習所助手　鈴木直辰　東京士
實業練習生(南洋)　諏訪賢治　和歌山平

○大正三年七月卒業（十四名）

輸出食品株式會社技師　伊藤眞三　新潟平
沖繩縣水產學校教諭　池尻文郎　福岡平
在米國　○西島直太郎　大阪平
同　渡邊富藏　茨城平
高知縣水產試驗場技手　吉田實　千葉平
朝鮮總督府技手　吉村善一　兵庫平
農商務省水產局　中村鑛太　東京士
東海化學工業株式會社員　內海直國　愛媛平
貿易商野崎商會(横濱)　小野信之神奈川平
　前田石之助　京都平
運間罐詰所技師(氣仙沼町)　小和田金吾　新潟士
横濱魚油會社(神戶)　荒川曉　東京士
德島縣水產試驗場技手　北野漸　長崎士
千葉縣海上郡水產技手　三ッ澤福定　群馬平

○大正四年七月卒業（十三名）

東京輸出罐詰檢査所　岩松三郎　東京平
青森縣三戶郡水產技手　入田秋治　鹿兒島平

三井物產株式會社(函館支店)　富田四郎　東京平
隈本罐詰工場　吉永一隆　熊本平
　田山來介　埼玉平
兵役　津幡文八郎　青森平
同上　村田繁　山口平
同上　熊澤楠吉　高知平
鈴木製藥所　佐藤秀雄　福島平
愛媛縣北宇和郡水產技手　菊山武雄　愛媛平
水產講習所助手　弓削讓　茨城平
水產講習所助手　鈴木鉦三　愛知平
　李商鎬　朝鮮

○大正四年十月卒業（六名）

南洋貿易株式會社　中島吉十郎　佐賀士
青島罐詰株式會社　中須辰二　石川平
堤商會(函館)　柳谷善吉　北海道平
水產講習所助手　美川秀信　熊本士
兵役　水口元　石川士
研究科在學　清水淳三　神奈川平

○大正五年七月卒業（九名）

研究科在學　秦義輔　福井平
福喜洋行化學工業所技師　志村瓦英　東京士
　岩淵修平　宮城平
兵役　宜保友厚　沖繩平
　福田作次郎　香川平
兵役　內田一郎　埼玉平
　澁谷亮　東京平
青島水產組合　太田正一　石川平
在米國　松島敏之　神奈川平

○大正五年九月卒業（一名）

三重沃度株式會社(釧路厚岸)　寺西爲信　大阪平

○大正五年十月卒業（五名）

陸軍技手(陸軍糧秣廠)　吉澤久藏　北海道平
菊屋商店　山田永雄　大分平
堤商會　原三太　佐賀平
安部洋行(上海)　田邊五郎　山梨平
　平塚顯橘　宮城平

○大正六年三月卒業（十四名）

堤商會(函館)　小林小一郎　新潟平
實業　加藤清一郎　富山平
　佐野貞三　福島平
日魯漁業株式會社(函館)　杉山泰　岡山平
日魯漁業株式會社　岡野滿津次郎　德島平
實業　福住吉麿　東京平
日本漁業株式會社　赤松勳　愛媛平
堤商會　梶原孝治　兵庫平
實業　阿部松太郎　大分平
東海化學工業株式會社　增田秀治郎　靜岡平
　甲賀正一　靜岡平

卒業者

三井物産會社　野村康雄　東京士
日魯漁業株式會社　金谷二郎　群馬平
堤商會　生田廉　山口士

(三) 養殖科（百四十六名）

○明治三十一年四月卒業（九名）

×機崎德次郎（舊姓冬木）　千葉平
西島新藏（舊姓柳部）　山口平
大石芳三　佐賀士
×吉川諄　埼玉平
高橋重太郎　岩手平
長島幸吉　千葉平
佐賀縣水産試驗場技師　藤田政勝　兵庫士
×淺井長三郎　福島平
服井安三郎　佐賀平

○明治三十二年四月卒業（五名）

滋賀縣水産試驗場技師兼場長　○川端重五郎　三重平
×壁谷可也　東京平
滋賀縣水産試驗場技手　内山龜五郎　福井平
實業　山本開作　神奈川平
新潟縣立能生水産學校教諭　須田訓　東京平

○明治三十三年四月卒業（八名）

×○石田五一郎　山口平
香川縣水産試驗場技手　○今野虎吉　福島平
實業　伊藤俊治　千葉平
東京府養蠣場囑托　緒方茂十郎　大分平
小野佐久雄　東京士
山口縣水産技師　秋山永次　東京士
實業　肥後了一　鹿兒島士
×櫻田廣吉　秋田士

○明治三十四年四月卒業（三名）

（舊姓伊達）片倉健吉　東京華
×長島八郎　神奈川平
臺灣總督府在勤　須田義二郎　山形士

○明治三十五年四月卒業（三名）

新潟縣水産試驗場技師　○戸井田盛藏　新潟士
實業　内田佐太夫　千葉平
秋山養魚場（東京）　前川醒太郎　東京平

○明治三十六年七月卒業（四名）

鳥取縣水産技師　河合嚴　愛知平
山下平造　兵庫平
水産講習所技手　山本由一　東京士
農商務技師　○越田德次郎　石川平

○明治三十七年七月卒業（二名）

水産講習所技手　○丸川久俊　島根士
在米國　椎原廣男　鹿兒島士

○明治三十八年七月卒業（三名）

西山伊六　佐賀士

水産講習所助教　東道太郎　東京士
岐阜縣水産技手　平木治　福岡平

○明治三十九年七月卒業（二名）

兵庫縣水産技手　萩原實治　兵庫平
實業　鐘ヶ江東作　佐賀士

○明治四十年七月卒業（二名）

愛知縣水産試驗場技手　德久三種　山口平
帝室林野管理局技手（中宮祠養魚場）　谷口利三郎　廣島平

○同年九月卒業（一名）

實業　西村茂生　山口平

○明治四十一年七月卒業（七名）

實業　金子政之助　東京平
島根縣水産技手兼水産試驗場技手　河合盾丸　愛知平
渥美養魚場技師　八幡光造　山形平
×柳本斗夫　德島平
×藤城存知　廣島平
福島縣水産試驗場技手　阿部圭　福島平
和歌山縣瀬戸鉛山眞珠會社　須賀原善太郎　群馬士

○明治四十二年七月卒業（七名）

愛媛縣水産試驗場技手　加藤保　愛媛平
宮城縣水産學校教諭兼水産試驗場技手　武田直　宮城士
北海道水産試驗場技手　○倉上政幹　埼玉平
福岡縣水産試驗場技手　藤森三郎　長野士
臺灣總督府　青木趙雄　滋賀士
×目崎守義　埼玉士
實業　菅俣吉之助　東京平

○明治四十三年七月卒業（五名）

鹿兒島縣川邊郡技手　早坂耳次　山形士
島根縣水産講習所技手　山田政滿　福井士
德島縣水産試驗場技手　小林雄次　廣島平
實業　三木保次郎　兵庫平
熊本縣水産試驗場技手　三宅仙吉　東京士

○明治四十四年七月卒業（十一名）

三重縣水産試驗場技手　井田助作　新潟平
農商務技手　○川上宗治　長野平
米國養蠣會社（神奈川縣金澤支場）　河村加四郎　廣島平
滋賀縣水産試驗場技手　田中林三　大阪平
石川縣水産試驗場技手　（舊姓中村）塚越靜吉　群馬平
實業　下郷誠一　愛知平
高知縣水産試驗場技手　松野助吉　東京平
岩手縣立宮古水産學校教諭　小林尙次　靜岡平
青森縣水産試驗場技手兼青森縣技手　島村滿彦　高知士
實業　鈴木拙郎　三重平
水産講習所助手　神谷尙志　東京士

○明治四十五年七月卒業（十七名）

水産講習所助手　○川村久治郎　福井平
富山縣水産講習所技手　笠村確　栃木平
千葉縣技手　吉田潔　福岡士

卒業者

福岡縣技手　田中修次郎　東京平
山形縣水産技手　高橋宗作　山形平
臺灣臺南廳殖産係　中山勝　熊本士
×中澤貞雄　長野平
×○村松鼎　愛知士
實業
宮崎縣水産試驗場技手　牧野謙二　靜岡平
帝室林野管理局技手（箱根出張所在勤）　前田九平　兵庫平
臺灣總督府　小林彦四郎　栃木平
朝鮮總督府技手（木浦稅關）　小金丸汎愛　福岡平
新潟縣立能生水産學校教諭　阿曾文雄　千葉士
佐賀縣水産試驗場技手　姉帶定助　岩手平
實業　北村强彦　熊本士
岡山縣兒島養貝會社技師　○春藤一市　岡山平
（朝鮮麗水在勤）
○大正二年七月卒業（十名）
高知縣眞珠養殖會社　片岡虎之助　山形士
朝鮮忠淸南道勸業課　川尻稔　三重士
東京帝國大學物理學教室　○米田保　福岡平
臺灣總督府在勤　田中正男　東京士
水産講習所　中村正明　埼玉平
研究科在學（在米）　中島穎一郎　大阪士
岡山縣水産試驗場技手　（舊姓前田）
神奈川縣水産試驗場技手　中井信隆　和歌山士
高知縣眞珠養殖會社　松崎冬夫　東京平
荒野謙三　東京士

○大正二年十月卒業（一名）
×佳道潔水　福井士
東京帝國大學動物學教室　岡田彌一郎　東京平
○大正三年七月卒業（十三名）
實業　石井宗吉　東京平
大村眞珠會社　富永次男　長崎士
千葉縣行德町新濱養魚場　渡邊龜一　愛媛平
研究科在學（在米國）　吉田直道　長野士
長崎縣水産試驗場技手　田口長次郎　長崎平
渥美養魚會社　能勢忠雄　愛知士
愛媛縣水産試驗場技手　大月菊男　茨城平
研究科在學　松井佳一　山口平
山口縣水産試驗場技手　牧義男　熊本平
臺灣總督府　天野京一　愛知平
茨城縣水産技手　平井佐吉郎　東京士
千葉縣浦安漁業組合　園晴雄　岩手士
愛媛縣新居郡技手　鈴木晋　千葉平
○大正四年七月卒業（十四名）
和歌山縣水産試驗所技手　岩井隼平　東京士
兵役　磯野泰二　福井平
三重縣度會郡技手　高島胤雄　三重平
東京府養蠣場技手　中村巖　廣島士
模範養魚株式會社技師　太田知度　岡山士
千葉縣水産試驗場技手　長田正男　長野平
兵役　小池正保　東京平
農商務省水産局　幸田伴次郎　福井士
研究科在學　佐藤玄三郎　岡山平
山口縣厚狹郡技手　坂本寅市　京都平
三重縣志摩郡技手　三野友之助　香川平
愛媛縣水産試驗場　○三木信幸　德島士
山神組（五島在勤）　日比谷爲造　神奈川平
劉彭支那
○大正四年十二月卒業（一名）
水産講習所助手　澤田進　東京士
○大正五年七月卒業（七名）
實業　石森武男　宮城平
水産講習所助手　本間幸次郎　北海道平
滋賀縣水産試驗場　笠井繁治　山梨平
研究科在學　藤本政男　兵庫士
新潟縣水産試驗場　越田秀包　石川士
兵役　江熊哲翁　大分平
フセリクビン、ザンボアンガ　澁谷光時　山形士
太田興業會社
○大正六年三月卒業（十一名）
嶋川虎三　東京士
堀重藏　和歌山平
沼田礎助　大分平
鷹司信敬　東京華
實業　丹治經治　福島平
松本友雄　愛媛平
福島慶造　宮城平
朝鮮總督府司稅局廣梁灣出張所　越石俊雄　新潟士
今野壽三郎　山形士
×青山鉦吉　東京士
小西芳太郎　東京平

四　水産教員養成科

○明治三十年十二月卒業（十五名）
在米國　市原佐太郎　高知平
羽生辨之進　愛媛士
×大竹敬造　北海道士
靜岡縣三島高等女學校教諭　加藤伊砂吉　靜岡平
片田久次郎　新潟平
加藤登太郎　山形士
卒業者
（二十五名）（姓名イロハ順）
福岡縣八女中學校教諭　（舊姓藤原）正宮彌藏　岡山平
朝鮮全羅南道技手　正林英雄　長崎士
×秋保知次　京都士
沖繩縣技手　佐々木武治　青森士
（舊姓阪田）
×蒲良輔　福井平
マニラ麻綱糸製造株式會社　宮崎賢一　長崎士
專務取締役（東京府大森）

長崎縣技手　×滿岡彥三　佐賀士
（舊名嘉右衛門）平山嘉門　岩手平
關　菊次　秋田平

○明治三十六年四月卒業（十名）

西原佐一郎　愛媛平
專賣局技手兼書記（阪出專賣支局多喜濱出張所在勤）長內清吾　青森平
實業　（舊姓高江）山本次郎八　熊本平

五　製鹽技術員養成科

（四十三名）（イロハ順）

○明治三十九年三月卒業（十名）

朝鮮總督府專賣局技手（廣梁灣出張所）市川信次　鹿兒島士
×濱　清一　栃木平
專賣局技手（三田尻專賣支局）富田登吉　埼玉平
東條高治　新潟平
專賣局技手兼書記神戸專賣支局赤穗出張所在勤　岡本靜一郎　福岡平
（舊姓大河內）室川重義　和歌山平
專賣局技手兼書記（福岡專賣支局高田出張所在勤）×中原經治　福島士
中村丈　福岡平
北川九一郎　滋賀士
平林保義　東京平

○明治四十年三月卒業（八名）

尾關素一　東京士
實業　松波虎之助　和歌山平
三重縣水產技手　佐藤運　岡山平
島根縣水產技師　笹子治　千葉士
喜多川良吉　東京平
朝鮮京畿道廳　志水清　兵庫平
廣島縣沼隈郡千尋學校教師　藤原直衛　廣島平
朝鮮全羅南道濟州島濟州郡廳　森川萬藏　福井平

專賣局技手（專賣局事業部在勤）吉武幾甫　山口平
朝鮮總督府司稅局技手（廣梁灣出張所）永井重藏　兵庫平
熊本縣水產試驗場技手　黑田藤五郎　愛媛平
黑住安臣　岡山平
松田一平　鳥島平
專賣局技手兼書記（德島專賣局在勤）三浦一　岩手平
朝鮮總督府司稅局技手（鎭南浦出張所詰）三輪清彥　愛知平

○明治四十一年三月卒業（六名）

專賣局技手兼書記（神戸專賣支局赤穗出張所在勤）橋木昇次郎　栃木平
三重縣四日市中町七二　片山甲太郎　三重平
ラサ燐礦株式會社　永山千春　東京士
專賣局技手、岡山專賣支局在勤）（舊姓木村）安岡貞雄　高知士
清水新太郎　香川平
清家幹二郎　愛媛平

○明治四十二年三月卒業（十名）

專賣局技手（神戸專賣支局赤穗出張所在勤）桑賀仁一　埼玉平
專賣局技手兼書記（沖繩縣名護派出所）伊藤純造　埼玉平
專賣局技手兼書記（福岡專賣支局門司出張所在勤）谷本善夫　廣島士
大塚松次　栃木平
早稻田俊彥　愛知平
專賣局技手兼書記（鹿兒島專賣支局那覇出張所在勤）宗安宅　福島平
那須文六　香川平
酒井鐵三郎　茨城平
專賣局技手兼書記（長崎市大里町出張所）木下實治　京都平
壬生勇一郎　東京平

○明治四十三年三月卒業（九名）

稻垣基一　香川平
羽鳥久雄　東京平
大澤國助　東京平
朝鮮總督府司稅局（廣梁灣出張所）武田晴彥　鹿兒島士
谷悅三郎　德島平
工藤甚五郎　青森平
五島彰　茨城平
相場好作　群馬平
宮宗料介　廣島平

六　特殊技術員養成科

（七十四名）（イロハ順）

○明治四十四年三月卒業（製鹽科八名）

朝鮮總督府司稅局技手（廣梁灣出張所）金子國三　新潟平
米倉八郎　宮城平
吉野久　北海道士
山田童治丸　大分平
朝鮮總督府司稅局技手（廣梁灣出張所）丸山廣作　新潟平
遠藤金治　宮城平
佐藤興市　大分平
北海道宗谷支廳技手　柴田政行　北海道士

○大正二年三月卒業（鰐肝油採製法短期講習十二名）

伊藤傳次　青森平
畑中彥助　愛知平
四尾磯三郎　東京平
地井辰藏　千葉平
吉戶昌俊　愛知平
田村音吉　千葉平
村尾福太　神奈川平
安田豐吉　千葉平
山下太郎　東京平
駒澤惣平　北海道平
小形德治　東京平
越中谷定吉　秋田平

卒業者

○大正三年三月卒業（鱈肝油採製法短期講習九名）

畑中彦助　愛知平
田村音吉　千葉平
竹田與八　石川平
田村寅吉　千葉平
田中半七　香川平
高瀬鶴次郎　富山平
安田友吉　東京平
小杉德治　東京平
越中谷定吉　秋田平

○大正三年八月卒業（冷水魚族養殖法短期講習十七名）

岩手縣技手
鮭鱒養殖業
兵庫縣明石郡水産技手
群馬縣丸沼養魚場技術員
秋田縣十和田湖和井内養魚場主任
岐阜縣吉城郡宮川筋水産組合技術員
福島縣石城郡鮫川鮭蕃殖組合技術委員
三重縣志摩郡水産技手
福島縣水産組合書記
滋賀縣水産試驗場技手
秋田縣水産試驗場助手
茨城縣筑波郡田井村農會書記
福井縣小濱水産學校囑託

石川久治　東京平
石川廣之助　茨城平
池田藤太郎　兵庫平
星野守治　群馬平
和井内貞時　秋田士
金子傳次郎　岐阜平
高木初太郎　福島平
谷川吉之助　福井平
村井藏三郎　福島平
村上秀治郎　福井平
山崎良輔　秋田平
菊地與易　茨城平
北原定治　福井平
標賢一　山梨平
平野長藏　福島平
平塚金兵衛　長野平
池田藤太郎　新潟平
小出健太郎　新潟平
山本通　愛媛平

大正四年九月卒業（養殖及漁業基本調査方法）（五名）

新潟縣水産試驗場技手
・
×
静岡縣水産試驗場技手
福島縣水産試驗場技手
秋田縣水産試驗場助手
農商務省技手
新潟縣龍生水産學校教諭
水産講習所技手
福島縣水産試驗場技手
總房水産株式會社
特許局技手
宮城縣立水産學校教諭
農商務省臨時産業調査局技手
福岡縣水産試驗場技手

田谷英　石川平
村松鼎　愛知平
照井賢三　岩手平
阿部圭　福島平
赤根金太郎　秋田平
伴誠一　東京士
島崎眞哉　高知士
北川政次郎　神奈川平
河村兵三　三重平
内田孝雄　東京平
安井章一　兵庫平
鈴木儀八　岩手平
立川卓逸　新潟士
福井守一　東京平

大正四年十月卒業（製造化學）（二十名）

山梨縣東山梨郡岡部村養魚者
福島縣南會津郡尾瀬沼養魚場主任
長野縣上水内郡野尻湖
池田養魚場養殖主任
福島縣相馬郡新田川鮭養殖組合技術員

○大正三年十月卒業（舶用發動機關科三名）

華丸機關取扱
水産講習所在勤
福島縣水産講習所在勤

大正四年九月卒業（養殖及漁業基本調査方法）（五名）

長崎縣水産試驗場技手
茨城縣鹿島郡若松村立水産學校教諭
鹿兒島縣水産技手

（以下八名罐詰ニ關スル科目ノミ講習）

東京三和商店罐詰技術者
愛知縣水産試驗場技手

内藤藏三郎　東京平
藍野一男　千葉平
四村和雄　東京士
濱野仙吉　京都平
大島愼二　東京平

七　別　科（現業科ヲ含ム）（二百三十九名）（姓名イロハ順）

（一）漁撈科（六十名）

明治三十三年三月修業
巾着網漁業專修（五名）

戸田與次　高知平
土井常吉　新潟平
大橋直吉　静岡平
紙子次作　石川平
多屋勝四郎　和歌山平

明治三十九年十月修業
遠洋漁業專修（五名）

池田兼吉　千葉平
石井次郎　千葉平
濱田進　鹿兒島士
渡邊梅吉　千葉平

卒業者

津島德松　千葉平

明治四十年九月修業
鰹漁業流網及延網漁業（五名）

岩崎吉兵衛　静岡平
田崎次郎　茨城平
増田鬼一郎　静岡平
有原初三郎　静岡平
見原萬吉　静岡平

明治四十年十月修業
延網及流網漁業（四名）

津田萬治　千葉平
上原丈助　千葉平
平田辰五郎　千葉平
鈴木萬之助　千葉平

明治四十年十二月修業
鰹漁業（二名）

伊藤猪之助　福岡平
小田積美　東京士

明治四十一年四月修業
遠洋漁業專修（六名）

畑中彦助　愛知平
西川村三郎　德島平
田中由三郎　東京平
竹内治郎吉　三重平
柳生政藏　愛知平
笹田歌吉　東京平

明治四十一年六月修業
捕鯨專修（八名）

岩村孫作　長崎平
向井三吉　和歌山平
上原由之助　静岡平
倉光三郎　青森士

樺太亞庭灣内登戸大戸罐詰工場技術者
宮崎縣水産試驗場技手
秋田縣土崎港町大川罐詰工場技術者
富山縣新港町袴罐詰技術者
長崎市旭町後藤罐詰工場技術者
樺太西海岸罐詰業組合技術者

大戸與七　福井平
宮木周市　山口平
大川龜吉　秋田平
村上次郎　山口士
久保田覺壽　茨城平
關虎雄　東京士

山岸留之助　北海道平
小坂定治　長崎平
島可淳　神奈川平
柴恒太郎　岡山平

明治四十一年十月修業
流網及延縄漁業（六名）

×一色勇　京都平
川崎德左衛門　石川平
横山林四郎　三重平
齋藤與太郎　山形平
榊梅太郎　新潟平
鈴木三郎　千葉平

明治四十二年一月修業
延縄及流網漁業（一名）

兼城德　沖縄平

明治四十二年三月修業

鱗及鮪漁業　（七名）
染田　五助　長崎　平
中世古白吉　三重　平
山本　重松　愛知　平
湯淺辰太郎　三重　平
平松　幸枝　三重　平
平賀源之助　三重　平
洲加本三五右衛門　長崎　平
明治四十二年四月修業
延縄及流網漁業（一名）
鈴木　梅吉　千葉　平
明治四十二年八月修業
（一名）
× 岩亜勝次郎　千葉　平
明治四十三年一月修業
延縄及流網漁業（一名）
石塚甚四郎　山形　平
明治四十三年四月修業
延縄及流網漁業（八名）
中川　菊藏　二重　平
山下三之助　三重　平
出口　數平　三重　平
湯淺　萬吉　三重　平
石塚　直彦　山形　平

佐藤　德松　秋田　平
宮崎長太郎　秋田　平
鹿内　力松　青森　平

（二）製造科

（百七十六名）
明治三十一年一月修業
罐詰專修　（五名）
河野　巖　宮崎　平
加藤　明二　秋田　平
鹽井　與八　石川　平
廣瀨　宗義　鹿兒島　平
森　義直　京都　平
明治三十二年三月修業
魚油、魚蠟、沃度專修　（五名）
× 田中清之助　三重　平
山口三之助　千葉　平
昆　良八　岩手　平
越瀨　市松　和歌山　平
佐藤　義厚　茨城　平
明治三十二年十二月修業
罐詰專修　（五名）
中村里次郎　愛知　平
内田藏次郎　島根　平

松浦　善市　熊本　士
松坂豐次郎　富山　平
菅沼仙之助　福島　平
明治三十三年二月修業
魚油、魚蠟、沃度專修　（五波）
畑谷丑太郎　北海道　平
赤平卯十郎　青森　平
佐藤漁太郎　宮城　平
宮津　吾弐　山口　平
杉本傳太郎　靜岡　平
明治三十三年十二月修業
罐詰專修　（五名）
及川　鼎壽　宮城　士
村田新五郎　愛知　平
山田　德松　宮崎　平
× 梁瀨　弘　長崎　士
吉川　德吉　滋賀　平
明治三十四年三月修業
魚油、魚蠟、沃度專修　（三名）
田中　富佐　福井　平
松本龜次郎　高知　平
木高金之助　千葉　平
明治三十四年十月修業
鰹節、其他節類專修　（二名）

大黑　一誠　高知　平
齋藤　初治　長崎　平
明治三十四年十二月修業
魚油、魚蠟、沃度專修　（四名）
池内林太郎　高知　平
熊谷伊三郎　福岡　平
山口　太助　佐賀　平
森崎　菴樹　靜岡　平
明治三十四年十二月修業
罐詰專修　（五名）
村江　保翼　長崎　士
小公　由平　千葉　平
宮内　喜一　鹿兒島　平
鈴木　兼助　愛知　平
菅原　養藏　宮城　平
明治三十五年十月修業
鰹節、其他節類專修　（五名）
秦　信之助　島根　平
（苞名榮）
米田　隆保　青森　平
熊谷伊三郎　福岡　平
山本荒太郎　和歌山　平
山下藤三郎　鹿兒島　平
明治三十五年十二月修業
罐詰專修　（六名）

糸井　藤吉　京都　平
（苞名榮）
米田　隆保　青森　平
中尾千代之助　鹿兒島　平
山田忠五郎　東京　平
新井　元吉　和歌山　平
里見時之助　山口　平
明治三十六年四月修業
魚油、魚蠟、沃度專修　（四名）
（苞名榮）
米田　隆保　青森　平
前田隆次郎　愛知　平
小松　由平　千葉　平
齋藤　玉治　愛知　平
明治三十六年十一月修業
鰹節、其他節類專修　（三名）
市川　忠吉　山形　平
山岡　則重　高知　平
安里　積勳　沖縄　平
明治三十六年十二月修業
罐詰專修　（六名）
井上三次郎　三重　平
花見　七治　北海道　平
金子　房治　千葉　平

卒業者

河合　音治　愛知　平
田村忠太夫　岩手　平
黃　桂芬　清　國
明治三十六年十二月修業
魚油、魚蠟、沃度專修　（五名）
大久保直太郎　高知　平
畠山　吉雄　宮城　平
砥板源三郎　福岡　平
古川九滿次　熊本　平
坂口榮太郎　靜岡　平
明治三十七年十月修業
罐詰專修　（八名）
× 濱　壽楠　和歌山　平
加藤　磯次　富山　平
八木　佐吉　滋賀　平
山田　逢　愛知　平
松浦　金平　兵庫　平
紺谷　平治　石川　平
相木　嘉一　福井　平
森　眞　靜岡　平
明治三十八年十月修業
鰹節、其他節類專修　（二名）
箱石　米定　岩手　平
名嘉　幸德　沖縄　平

明治三十八年十二月修業
罐詰專修　（十名）
堀内　讓藏　岩手　平
堀部　貫一　大分　平
小野　末男　福島　平
大上伊勢吉　兵庫　平
高橋敬三郎　三重　平
田河　恒藏　熊本　平
× 高杉　賢藏　秋田　平
田中寅之助　愛知　平
仲田文五郎　沖縄　平
森本喜之助　和歌山　平
明治三十八年十二月修業
魚油、魚蠟專修　（五名）
土岐　音吉　千葉　平
高鍋　志郎　兵庫　平
田井安太郎　京都　平
曾根武兵衛　和歌山　平
松浦萬龜太　島根　平
明治三十九年十月修業
鰹節、其他節類專修　（六名）
德平　秀郎　沖縄　平
竹田　信平　島根　平
國吉　榮洪　沖縄　平

淺沼　文八　東京　平
阪下國次郎　岩手　平
柴正　弐　富山　平
明治三十九年十二月修業
罐詰專修　（十名）
濱口　義正　三重　平
西川　正次　東京　士
放生　要松　富山　平
相馬　柳吉　秋田　平
梅野　忠政　愛知　平
岡田　太郎　鹿兒島　士
矢野　喜藏　新潟　平
松浦　久雄　三重　士
小林　義篤　新潟　平
趙　楣　清　國
明治四十年一月修業
魚油、魚蠟專修　（三名）
芳賀岩治郎　宮城　平
花坂　傳吉　岩手　平
小澤　讓三　千葉　平
明治四十年九月修業
冷藏法　（一名）
村上　德市　廣島　平
明治四十年十月修業

鰹節（其他）専修　（三名）
岩城　宇平　宮崎　平
村上倉次郎　北海道　平
寄藻　八郎　靜岡　平

明治四十年十二月修業
罐詰専修　（七名）
一色　彌太　京都　平
石川　喜助　北海道　平
山道　隆　長崎　士
大畑　伊八　三重　平
秩父　重宏　青森　士
三浦　大造　愛知　平
野村利兵衛　京都　平

明治四十一年九月修業
鰹節（其他）節類専修　（四名）
井合　榮俊　新潟　平
三浦　操　島根　平
佐野　實　香川　平
日比谷要造　神奈川　平

明治四十一年十二月修業
罐詰専修　（七名）
伊藤末千代　山口　平
今藤　一馬　宮城　平
岩崎　正巳　島根　平
石原　彦三　三重　平
河野　德治　神奈川　平
野川重五郎　岩手　士
小梶　誠一　滋賀　平

明治四十二年九月修業
鰹節（其他）節類専修　（三名）
橋本喜之助　青森　平
田所　壽彥　高知　平
桂　信吉　京都　平

明治四十二年十二月修業
罐詰専修　（九名）
今立　昌雄　福井　士
馬場　一夫　滋賀　平
島中　敬三　山形　平
高橋　善藏　宮城　平
栗本　冬助　北海道　平
山本　金吉　三重　平
吉川　廣助　熊本　平
佐脇　哲郎　三重　士
三橋　淳　鳥取　平

明治四十三年七月修業
貝殼彫刻専修　（四名）
伊笠　小六　東京　士
津田　德　高知　士
遊佐　孫藏　宮城　平
森本　繁尾　高知　士

明治四十三年十二月修業
罐詰専修　（十二名）
池山　盛一　三重　平
芳賀岩治郎　宮城　士
岡崎　常松　愛媛　平
渡邊　照吉　北海道　平
加藤　福松　愛媛　平
上林　唯治　京都　平
加瀬　松吉　茨城　平
田中東太郎　北海道　平
福士　眞三　青森　平
酒井　茂吉　高知　士
紀谷金之助　北海道　平
東　鐵造　大分　平

明治四十四年七月修業
貝殼彫刻専修　（六名）
池田興志雄　熊本　士
德井利左衛門　三重　平
渡邊　正勝　福島　平
隈部　文男　熊本　士
三好德三郎　愛媛　平
弘末　英男　高知　士

大正三年四月修業
珊瑚彫刻専修　（四名）
泉　助次郎　宮城　平
知場伊太郎　福島　平
竹中　尙三　鹿兒島　平
江夏　武義・鹿兒島　平

大正四年九月修業
珊瑚及介殼彫刻（一名）
高橋清一郎　長崎　平

大正六年三月修業
珊瑚及介殼彫刻（三名）
有島　好光　鹿兒島　平
宮司　登　靜岡　平
清水　義八　新潟　平

（三）養殖科

明治四十一年三月修業
鮭鱒養殖　（三名）
石川廣之助　茨城　平
拂川悌之輔　秋田　平
野村菊次郎　宮城　平

第二　卒業者狀況

卒業者一覽表（大正六年三月調）

研究科及遠洋漁業科ハ本科中ニ含ムヲ以テ本表ノ總計人員ニハ之ヲ加ヘス
本表ノ外本科ニ於テハ漁撈科三名製造科六名養殖科一名計十名別科ニ於テハ罐詰專修二名ノ支那人卒業者アリ

科別＼年別	卒業年別 三十年	三十一年	三十二年	三十三年	三十四年	三十五年	三十六年	三十七年	三十八年	三十九年	四十年	四十一年	四十二年	四十三年	四十四年	四十五年	四十六年	總計
研究科																		
遠洋漁業科																		
本科 漁撈科		一	一	一	八	五	七	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
本科 製造科		三	二	二	九	三	三	八	二	七	八	七	四	六	七	六	七	三
本科 養殖科		四	五	八	三	二	四	二	三	一	六	四	二	九	一	一	一	二
教員養成科	一							一										
製鹽技術員養成科																		
特殊技術員養成科																		
別科（現業科ヲ含ム） 遠洋漁業																		
別科（現業科ヲ含ム） 巾着網漁業																		
別科（現業科ヲ含ム） 罐詰																		
別科（現業科ヲ含ム） 魚類																		
別科（現業科ヲ含ム） 魚類蝦蟹																		
別科（現業科ヲ含ム） 魚類其他																		
別科（現業科ヲ含ム） 魚類節																		
別科（現業科ヲ含ム） 冷凍法																		
別科（現業科ヲ含ム） 冷藏法																		
別科（現業科ヲ含ム） 鰹鱒養殖法																		
別科（現業科ヲ含ム） 貝殼彫刻																		
別科（現業科ヲ含ム） 計		五	一〇	一五	一四	一一	一七	八	一七	二〇	二五	三四	二二	三四	一一	一一	一一	二七
成科																		
成科 罐詰專修																		
成科 計																		
總計	一五	六一	五二	五〇	三四	二二	五一	三〇	五〇	六二	七〇	八八	八一	七九	七六	五八	六九	八一
總計																		
總計	五	一〇	一五	一四	一一	一七	八	一七	二〇	二五	三四	二二	二二	四	六			四
總計	一五	六一	五二	五〇	三四	二二	五一	三〇	五〇	六二	七〇	八八	八一	七九	七六	五八	六九	八一

科別／種別	實業	商會及會社	水産組合及漁業組合	官廳	水産講習所（東京地方）	水産試驗場	水産學校	水産補習學校	其他學校	學生 本所	學生 其他	在海外 實業練習生	在海外 其他	役兵	亡死	詳未	計總
本科 漁製造科	五五三	四七一	四六	五六	一一二	四六	一一		三	二〇		一		八	二四	四四	三二七
本科 漁撈科	一六八	一四八		三五一	一一五	二二三	四		二	五		四		三六	一四一	一三四	一四五
計	一二四	一三三	一一	一四四	三八	一〇一	三七		五	二七		五	一七	一七	八〇	九三	八二二
水産教員養成科	二	一		八					三						四	六	二五
製鹽技術員養成科																	
特殊技術員養成科	五	九	四	一一	二	一									二	二六	七四
總計	一三一	一四四	一五	一七九	四〇	一一五	三一		八	二七		五	一八	一七	八六	一四八	九六四

（備考）研究科以遠洋漁業科卒業生ノ就職ハ本科ト同シキヲ以テ別科（現業ヲ含ム）ハ概ネ其修メタル事業ニ從事セシ者ナルヲ以テ別ニ之ヲ調査セス又本表ニ之ヲ略ス猶本表ノ外漁撈科三名製造科六名養殖科一名計十名ノ支那人卒業セリ

卒業者道府縣別表（大正六年三月調）

研究科及遠洋漁業科ハ本科中ニ含ムヲ以テ本表ノ總計人員ニハ之ヲ加ヘス

府縣別／科別	研究科	遠洋漁業科	本科 漁撈科	本科 製造科	本科 養殖科	計	教員養成科	製鹽技術員養成科	特殊技術員養成科	別科	計	總計
東京												
愛知												
三重												
和歌山												
靜岡												
神奈川												
東京												
千葉												
茨城												
福島												
宮城												
岩手												
青森												
北海區												
島根												
鳥取												
京都												
福井												
富山												
石川												
新潟												
秋田												
北海區												
大分												
山口												
愛媛												
廣島												
岡山												
香川												
兵庫												
內海區												
總計												

府縣別 ＼ 科別		研究科	遠洋漁業科	本科 漁撈科	本科 製造科	本科 養殖科	本科 計	教員養成科	製鹽技術員養成科	特殊技術員養成科	別科	計	總計
大阪	二	一	一	二	六	二	一〇	一	二	一	一	一	一〇
四南海區 福岡	四	一	四	一五	一〇	四	二九	一	二	一	九	六	三五
長崎	一	一	八	七	九	二	三三	一	一	一	九	一	三四
佐賀	一	一	二	五	四	四	一八	一	一	一	一	七	三一
熊本	一	一	一	一〇	一一	三	二四	一	一	一	六	二	二〇
鹿児島	一	一	六	一六	一〇	三	二九	一	二	一	九	一一	四〇
沖縄	一	一	一	一	二	一	三	一	一	一	六	六	八
宮崎	一	一	一	五	一	一	六	一	一	一	四	四	一〇
高知	一	一	一	六	八	一	一五	一	一	一	一一	一四	二九
德島	一	一	一	二	八	二	一二	一	二	一	一	三	一五
東北海區 北海道		一	一	四	八	一	一三	一	三	一	九	一三	二六
埼玉	一	一	一	四	八	四	一六	一	三	一	一	三	一九
群馬	一	一	二	四	八	二	一四	一	一	一	一	二	一六
栃木	一	一	一	六	四	一	一一	一	三	一	一	三	一四
奈良	一	一	一	一	一	一	四	一	一	一	四	一	五
山梨	一	一	一	一	二	一	四	一	一	一	一	五	七
滋賀	一	一	一	七	一	一	八	一	一	一	一	一	九
岐阜	一	一	一	五	九	一	一九	一	一	一	一	一	二〇
長野	一	一	一	六	八	一	一九	一	一	一	一	一	二〇
朝鮮	二	二	一	二	一	一	三	一	一	一	一	一	三
外國 支那		一	一	三	六	一	一〇	一	二	一	二	二	一二
總計		二九	八〇	二三〇	三五六	一四六	八三二	二五	四三	七四	二三九	三八一	一二一三

附錄

一 職員移動（自大正五年六月至大正六年三月）

大正五年八月七日　英語教授囑託ヲ解ク　エフ、テー、ラーコック

同　年九月十一日ヨリ經濟教授擔當　法學士　松崎壽三

同　年九月十一日ヨリ法規教授擔當　法學士　川久保修吉

同　年九月十一日漁船論教授ヲ囑託ス　農商務技手兼水產講習所技手　石原虎司

同　年十二月二十九日死亡　書記兼水產講習所技手　山田德助

大正六年一月二十四日輸出罐製造試驗囑託ヲ解ク　田中仁吉

同　年二月三日依願本官ヲ免ス　水產局長　松崎壽三

同　日水產講習所長ヲ命ス　技師　伊谷以知二郎

大正六年三月三十日依願免本官　技師　中澤毅一

二 學友會

德操ヲ研磨シ體育ノ發達ヲ期センガ爲メ職員生徒相謀リテ學友會ヲ組織シ所長ヲ會長トシ本所監督ノ下ニ開會スルモノニシテ之ニ要スル費用ハ職員並生徒ノ醵金ヲ以テ支辨ス

本會ハ學藝部及運動部ノ二部ニ分チ運動部ヲ更ニ端艇柔道劍道庭球及角力ノ五部トシ學藝部ニ於テハ毎月一回講演會ヲ開キ或ハ知名ノ士ヲ聘シ或ハ本所教官ノ講演ヲ請ヒ以テ生徒ノ德風ヲ發揚センコトヲ期シ又一方ニ於テハ寄宿舍ノ一部ニ圖書室ヲ設ケ各種ノ書冊ヲ蒐集シテ自由ニ之ヲ閲覽スル

ノ便ニ供セリ

運動部ニ於テハ各部毎年一回大會ヲ開キテ常ニ其藝術ノ錬磨身體鍛錬ノ目的ヲ達セシメンコトヲ期セリ

本會役員左ノ如シ

幹事　伊谷以知二郎
同　三井米松
學藝部長　岡村金太郎
運動部長　川合角也

水産講習所學友會規則

第一章　總則

第一條　本會ハ水産講習所學友會ト稱ス

第二條　本會ハ會員ノ親睦ヲ厚フシ精神ノ修養身體ノ鍛練ヲ目的トス

第三條　本會ハ本所現職員出身者及生徒ヲ以テ組織ス

第四條　本會ハ其目的ヲ達センカ爲左ノ二部ヲ置ク

一　學藝部
二　運動部

運動部ヲ分チテ端艇部、柔道部、劍道部、庭球部及角力部ノ五部トス

第五條　各部ニ於テ其細則ヲ設クルトキハ會長ノ認可ヲ受クヘシ

第二章　會員

第六條　會員ヲ分チテ左ノ三種トス

一　通常會員(本所生徒)
二　特別會員(本所職員)
三　贊助會員(本所出身者及舊職員)

第三章　役員

第七條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會長　一名本所々長之ニ任ス
二　幹事　三名本所職員中ヨリ會長之ヲ囑託ス
三　部長　學藝部、運動部各一名　同上
四　運動部委員長　五名　同上
　但端艇部ニハ副委員長一名ヲ置ク
五　會計掛　二名　同上
六　委員　學藝部四名、運動各部各二名　生徒互選
　會計委員各級各二名
　但シ端艇部委員ハ六名トス

第八條　會長ハ會務ヲ總理ス
幹事ハ會長ヲ補佐シテ本會ノ事務ヲ掌ル
部長ハ其部ノ事務ヲ掌ル
運動部委員長ハ部長ヲ補佐ス各部ノ事務ヲ掌ル
會計掛ハ本會ノ會計事務ヲ掌ル
委員ハ其部長及委員長ノ指揮ヲ承ケ及會計委員ハ會計掛ヲ補佐シ各其事務ヲ處理ス

第九條　委員ノ任期ハ一年トシ毎年四月ニ始マリ翌年三月ニ終ル
委員ノ改選ハ毎年四月之ヲ行フ

第四章　會議

第十條　會議ヲ分ツテ總會役員會及部會トス

第十一條　總會ハ毎年四月一回之ヲ開ク

第十二條　役員會ハ役員ヲ以テ組織シ重要ナル會務ヲ決議ス

第十三條　部會ハ其部ニ關スル事務ヲ決議ス
部會ノ決議ハ會長ノ承認ヲ承クヘシ

第十四條　必要ノ場合ニ於テハ會長ハ臨時總會ヲ開クコトアルヘシ

第五章　會計

第十五條　通常會員ノ會費ハ一ケ年金三圓トシ各學年ノ始ニ之ヲ分納ス
特別會員ノ會費ハ俸給年額二百分ノ一トシ毎月之ヲ分納ス

第十六條　通常會員ハ入會金壹圓五拾錢ヲ納ムルモノトス

第十七條　豫算ハ毎年三月役員會ニ於テ之ヲ決議ス
各部會ニ於テハ毎年三月ニ其部豫算ヲ決議シ會長ニ差出スヘシ

第十八條　會計決算ハ毎年ノ總會ニ之ヲ報告スルモノトス

第十九條　經費ノ剩餘アルトキハ之ヲ基本金トシテ積立テ確實ナル銀行ニ預ケ入ルヽモノトス

附錄

三　財團法人水産研究奬勵會

本所創立ヨリ十年水産傳習所創立ヨリ二十年ニ相當スル明治四十年三月二十二日ヲトシ有志者相謀リ水産研究奬勵會奬學資金ヲ募集シ翌四十一年六月創立資金一萬二千四百三十四圓六十七錢四厘ヲ以テ財團法人ヲ設立シ水産講習所生徒及其他ノ者ニ對シ水産ニ關スル研究ヲ奬勵スル爲學資又ハ資金ヲ補給或ハ貸與シ若ハ賞與スルコトヽナセリ

同財産ハ現時登錄資産二萬六千圓ニシテ創立以來本所生徒ノ學資補給ヲ受ケタルモノ三人、貸與ヲ受ケタルモノ十人賞與ヲ附與セラレタルモノ十三人、計金二千五百六十三圓七十五錢ニシテ內本年度ニ於テ學資補給ヲ受ケタルモノ二人學資貸與ヲ

受ケタルモノ二人賞與ヲ附與セシモノ二人計金三百三十圓五十錢ナリ

寄附行爲

一 目的

第一條 本財團法人ハ水産講習所生徒及其他ノ者ニ對シ水産ニ關スル研究ヲ奬勵スル爲學資又ハ資金ヲ補給シ貸與シ若ハ賞與ヲ附與スルニアリ

二 名稱

第二條 本財團法人ハ財團法人水産研究奬勵會ト稱ス

三 事務所

第三條 本法人ハ事務所ヲ東京市深川區越中島水産講習所内ニ置ク

四 資産

第四條 牧朴眞ハ其募集ニ係ル水産講習所奬學資金ノ現在金及有價證券全部ヲ寄附シ本法人ノ資産トス

第五條 本法人ハ寄附金品ヲ受クルコトヲ得

第六條 本法人ノ經費ハ其ノ資産ヨリ生スル收入ヲ以テ支辨ス

但寄附金募集ニ要スル經費ハ資産ヨリ支出スルコトヲ得

第七條 本法人ノ事業年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條 本法人ノ收入事業ノ狀況ハ毎年一回前會計年度ニ屬スル分ヲ發表スヘシ

第九條 本法人解散スルニ至リタルトキハ理事全員ノ同意ヲ得且評議員會ノ決議ヲ經タル後主務官廳ノ許可ヲ得テ其資産ヲ本財團法人ノ目的ト同一ナルカ又ハ之ト類似セル他ノ學校團體若クハ學會ニ寄附シ本法人設立者ノ目的ヲ永遠ニ繼續セシム

五 解散

第十條 本法人ハ法定ノ解散事由發生スルニアラサレハ解散スルコトナシ

六 役員

第十一條 本法人ニ理事四名評議員十名ヲ置ク

理事ハ理事長之ヲ囑託ス理事長タル理事缺ケタル時ハ他ノ理事ノ合議ニ依リ之ヲ囑託ス本法人設立當時ノ理事及理事長ハ寄附行爲者ニ於テ第十二條ノ規定ニ依リ之ヲ選定ス

第十二條 理事一名ヲ理事長ニ充ツ

理事長ハ水産講習所長タル者ヲ以テ之ニ充ツ其ノ任期ハ水産講習所長ノ任期ニ從フ

水産講習所長タル者囑託ニ應セサル時ハ理事ノ合議ニ依リ之ヲ定ム此場合ニ於テハ其ノ任期ハ理事ノ協議ニ依ル

評議員ハ理事ノ協議ニ依リ囑託スルモノトス

七 寄附行爲ノ變更

第十三條 本寄附行爲ハ目的ニ關スル規定ヲ除クノ外理事全員ノ同意ヲ經タル後評議員會ノ決議ヲ經主務官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ變更スルコトヲ得

八 附則

第十四條 本寄附行爲施行ニ關スル細則ハ理事ノ多數決ニヨリ之ヲ定ム之ヲ變更スル場合亦同シ

四 試驗報告及其他刊行物

明治三十二年以降本所ニ於テ刊行シタル試驗報告其他主ナルモノ左ノ如シ

水産講習所試驗報告

第一卷

第一册(三十二年三月)

浮子材料試驗第一回報告　川合角也
各種鮫肝油採取試驗第一回報告　伊谷以知二郎
海豚皮製革試驗第一回報告　谷中知信
普通製鹽ト洗取製鹽トノ成分比較　農學士 塚本道遠　農學士 小野辰次郎
鯉魚温室及書通孵化試驗　農學士 藤田經信
鯉卵孵化水質適否試驗　農學士 藤田經信　農學士 日暮忠信
神奈川縣下牡蠣飼育試驗——　農學士 藤田經信
いたぼかき蓄殖方法調査報告　農學士 藤田經信
多摩川香魚人工孵化試驗　理學士 バチエロル 服部他助
第一回報告　理學士 オフアーツ 大石芳三
龍蝦孵化試驗第一回報告　バチエロル 服部他助　オフアーツ 大石芳三
ウロスリツクスノ結實作用ニ關スル研究　理學博士 岡村金太郎

附錄

第二册(三十二年七月)

繅詩試驗報告　柁川溫

第二卷

(三十四年八月)

纖維試驗成績第一回報告　理學士 内村逢次郎
天蠶絲製造試驗第一回報告　理學士 吉岡哲太郎
牡蠣養殖試驗第一回報告　農學士 藤田經信
附東京灣海水觀測表
鼈兒温室孵化並育養試驗第一回報告　バチエロル 服部他助　オフアーツ 今野寅吉
わかめ蓄殖豫備試驗報告　理學博士 岡村金太郎
あさくさのり調査ニ付神奈川、愛知、三重、宮城、岩手縣下出張報告　理學博士 岡村金太郎
多摩川香魚人工孵化試驗第二回報告　バチエロル 服部他助　オフアーツ 大石芳三
龍蝦孵化試驗第二回報告　バチエロル 服部他助　オフアーツ 大石芳三

第三卷

(三十八年五月)

漁網絲試驗第二回報告　農學士 内村逢次郎
ひらめ人工孵化試驗報告　理學士 藤田經信
あさくさのり移殖試驗報告　理學博士 岡村金太郎
てんくさノ所在ニ及フ寒天質ノ構造ヲ論シテ　理學博士 岡村金太郎

第四卷

(四十一月一月)

本邦産浮游生物ノ一部（伊豆ニ於ケル撓脚類）（和英兩文）　丸川久俊
日本産絲蟲ニ就テ　谷口利三郎
多摩川産あゆ一尾ノ消化器管ヨリ得タル硅藻ノ一部（和英兩文）　德久三種

第五卷

第一册（四十一年六月）
鱈肝油採製試驗報告　菊池健

第二册（四十二年三月）
漁業用鹽試驗報告第一　工學士　市野金一郎　小野辰次郎

第三册（四十二年三月）
貝殼利用試驗　理學士　吉岡哲太郎

第四册（四十二年三月）
鹽漁場調査　理學博士　岡村金太郎　丸川久俊

第五册（四十二年三月）
鰊流網漁業試驗　鎌田武造
網系ノ單寧ノ染劑ニ依ル防腐染色試驗　農學士　西村寅三
同　其二　農學士　西村寅三

冷藏貨車鮮魚輸送試驗（自第一回至第二回）　崎田弘　伊谷以知二郎
鹽節製造改良試驗　伊谷以知二郎
魚類寒天包藏試驗　鍋島懋道
煮干鰯製造用改良瀧製造試驗　内村遵次郎

生牡蠣輸出試驗　理學士　妹尾秀實
獨逸種草鯉及本邦種鱗鯉成長比較試驗　日暮忠
靜岡縣てんぐさ蒔殖試驗　理學博士　岡村金太郎

第六卷

第一册（四十三年三月）
鱈肝油採製試驗報告（第二）　菊池健

第二册（四十三年三月）
勘察加半島鮭鱒族魚類調査報告　越田德次郎

第三册（四十三年四月）
鯨網絲燃方ノ優劣試驗報告第一　川合角也
輸出向鹽蔵鰹製造試驗報告　伊谷以知二郎　鍋島懋道
魚皮魚鱗水膠製造試驗報告　小野辰次郎　菊池健
鯛飼育試驗報告　理學士　妹尾秀實　青木越雄
赤潮ノ調査　丸野川元久俊一

第七卷

第一册（四十四年一月）
餌料饂著養網活洲試驗報告　理學士　妹尾秀實
鯉巾着網試驗報告　理學士　柳瀬直勝
鯉測游調査第一回報告　理學士　柳川合角也
英佛兩國ニ於ケル鮮魚ノ分配ニ關スル調査　柳直勝　小野辰次郎

第二册（四十四年三月）
秋海苔ノ附着狀態ニ就テ　理學博士　岡村金太郎　東道太郎
海苔被害調査報告　理學博士　岡村金太郎
てんぐさ蒔殖試驗第二報告　理學博士　岡村金太郎
鹽頓沿海州ニコラエウスク方面水産業調査　鍋島懋道
英國鹽藏業並ニ燻製業ノ概略　小野辰次郎

第三册（四十四年七月）
佐賀縣沿岸海苔蒔殖法　理學博士　岡村金太郎
佐賀縣東松浦郡ふのり養殖試驗成績報告　理學博士　岡村金太郎

第四册（四十四年八月）
本邦産沿岸硅藻類一斑（和文及英文）　理學博士　岡村金太郎

第五册（四十四年九月）
鯉節歡付研究第一報　農學士　西村寅三　木村金太郎

第六册（四十四年十月）
纖詰鐵葉板ノ品質　工學士　阪伊谷以知二郎　清元
纖詰内容物中錫定量法　阪市野金一郎　清元
纖詰用硫酸紙　阪伊谷以知二郎　清元

第七册（四十四年十一月）
靜岡縣下てんぐさ蒔殖試驗報告第三―第五報　理學博士　岡村金太郎

第八卷

附錄

第一册（大正元年八月）
鯉節製造中歡付ニ關スル研究　農學士　西村寅三
鯉節製造地ノ差異ト鯉節ノ品等成分トノ關係　木村金太郎

第二册（大正元年九月）
流業鹽試驗　工學士　菊池健　市野金一郎　船橋晋吉

第三册（大正元年九月）
養鯛改良試驗　理學士　妹尾秀實

第四册（大正元年十一月）
四十三、四十四年度冬木町養魚場試驗成績　日暮忠　鐘ケ江東作

第五册（大正元年十二月）
鰹魚梯架設試驗　工學士　日暮英三　橋忠郎

第六册（大正元年十二月）
たらば蟹調査　理學士　中澤毅一
同製造調査　農學士　松井秀三郎

第七册（大正二年三月）
沃度灰製造改良試驗　阪元清

第八册（大正二年三月）
鱈乾燥試驗　理學士　藤原咲平　安津井田弘章

第九册（大正二年三月）
冬木町養魚場試驗　日暮忠　鐘ケ江東作　川村久治郎

第十冊(大正二年三月)
鮑中ノ硫黄化合物ニ就テ　農學士　山川淘
介汁中ノ「グリコーゲン」ニ就テ　農學士　山本祥吉
魚介類ノ「エキス」ニ就テ
鰹節研究第一回以下第三回

第九卷

第一冊(大正二年五月)
油漬罐詰用油ノ檢定　小野辰次郎

第二冊(大正二年六月)
たらばかに罐詰原料剝肉處理時間ノ長短ノ肉質ニ及ボス影響　農學士　松井秀三郎
たらばかに甲殼肥料ノ化學的成分　農學士　松井秀三郎
重要蝦蟹類調査第一報　理學士　中澤毅一

第三冊(大正二年十一月)
心太ノ凍凝狀態ニ就テ　工學士　星野三郎
冷藏魚肉ノ研究　理學士　妹尾秀實
ヘンダーソン式冷凍試驗　工學士　星野三郎
分離試驗　菊池健
寒天及原藻ノ凝固度測定ニ關スル研究　農學士　西村寅三

第四冊(大正二年十月)
海苔篏立組密試驗　理學博士　岡村金太郎
海苔附着條件試驗　理學博士　岡村金太郎
秋季海苔附着盛期試驗　理學博士　岡村金太郎
海苔肥料試驗　理學士　中野治勝

第五冊(大正三年二月)
罐詰原料トシテたらばかに雌雄肉ノ優劣ニ就キテ　農學士　松井秀三郎
罐詰トセル花咲蟹ノ成分　農學士　松井秀三郎
たらばかにノ肉及其ノ雌雄ニ依ル相異　理學士　中澤毅一
搾締機械ニ就テ　工學士　星野三郎

第六冊(大正三年三月)
網類腐敗ニ關スル試驗　理學博士　寺田寅彦
各種網糸類ノ腐朽ニ就テ　理學博士　寺田寅彦
網糸腐敗菌ニ關スル研究　農學士　西村寅三
纖維腐敗ニ關スル試驗　川合角也
網糸染色防腐試驗　農學士　西村寅三
楊皮固形量寧越幾斯ニ關スル試驗　農學士　西村寅三

第七冊(大正三年三月)
中宮祠湖產蠕寄生線蟲調査　理學士　石井重美
金魚「てふ」ノ研究　理學士　中澤毅一

第十卷

第一冊(大正三年六月)
鱈族養殖試驗報告第一報　日暮忠
笈沼、丸沼、大尻沼水溫調査報告第一報　子爵田中阿歌麿
魚種改良試驗報告第一報　日暮忠
附錄
魚類運搬試驗報告

活鰒運搬試驗　鐘ケ江東作
獨逸ニ生鼈ノ輸送試驗　日暮忠

第二冊(大正三年八月)
鍊搾粕製造ニ際シテ得ラルヽ煮熟汁ノ成分並斯クシテ廢棄セラルヽ窒素ノ價格及其利用法　農學士　松井秀三郎
鍊搾粕殘渣利用試驗　農學士　松井秀三郎
水膠製造試驗報告　菊池健
烏賊墨汁利用試驗　理學士　池田晏平
海驢皮鞣製試驗報告　菊池健
製革上石灰戻劑トシテ鰹內臟ノ利用　菊池健
石灰戻劑トシテ柔魚內臟ノ利用　菊池健

第三冊(大正三年十二月)
鰹節研究第四回以下第十回　農學士　山川洵
「ヒスチヽン」ニ就テ　農學士　山川洵
海產物ノ腦漿ニ就テ　農學士　山川洵
鰹節製造法ニ就テ東北五縣出張報告　農學士　山川洵
附介類羹汁報告　農學士　山川洵

第四冊(大正四年三月)
罐詰內容物ニ於ケル熱傳導ノ狀態試驗　農學士　西村寅三
罐詰內熱傳導ノ理論　理學士　藤原咲平
適度ニ充塡セル罐詰ノ熱ノ傳導狀態ト加熱セル罐詰ノ熱ノ遷減スル狀態　伊谷以知二郎

附錄
附飲食物被掩材料ノ性質ト微菌侵害トノ關係　農學士　西村寅三

第五冊(大正四年三月)
網ニ對スル水ノ抵抗ノ研究　理學博士　寺田寅彦
第一次報告　關根機之吉
第六冊(大正四年三月)
養殖魚類利用試驗第一回報告　伊谷以知二郎　田和吉
山本由一

第十一卷

第一冊(大正四年七月)
布良鮪延繩漁船設計　工學士　春日信市
ソコロフ式乾燥機試驗　工學士　伊谷以知二郎　星野三郎
新式卷締機械及液狀護謨試驗　工學士　伊谷以知二郎　星野三郎
自記乾燥計　工學士　星野三郎

第二冊(大正四年十二月)
駿河灣產櫻蝦調査報告　理學士　中澤毅一
重要蝦蟹類調査第二報告　理學士　中澤毅一
瀨戸內海調査　理學士　中澤毅一
海藻菁殖用岩掃除器　理學博士　岡村金太郎　瀨清一郎

第三冊(大正五年二月)
養魚餌料試驗報告　日暮忠　川村久治郎

大正二年度
大正三年度冬木町養魚池鯉產卵孵化成績　日暮忠　川村久治郎

丸沼養魚試驗池水質調査報告　水產學士　酒井順三郎

附錄

ツンツ氏魚類呼吸作用實驗器說明書　丸川久俊

第四冊（大正五年三月）

鰻ニ就テ　川村久治郎

「シラス」鰻運搬試驗

第五冊（大正五年三月）

館山灣ニ於ケル浮性魚卵並ニ其稚兒　神谷尙志

第六冊（大正五年三月）

罐詰傳熱試驗報告　伊谷以知二郎　田和駒吉

第十二卷

第一冊（大正五年六月）　農學士　山川淘

、新シキ「プロタミン」ニ就キテ　朝倉祥一

第二冊（大正五年七月）

網ノ染法網糸ノ腐敗網糸ノ材料ニ就テノ研究試驗報告　川合角之　野崎知也

第三冊（大正五年八月）

柔魚鹽辛ノ成熟並ニ貯藏中ニ於ケル窒素化合物ノ分解及ヒ之ニ對スル食鹽ノ影響ニ就キテ　農學士　松井秀三郎　深山義道

乾海苔ノ價格及ヒ淺草海苔ノ品質ト成分ニ就キテ　農學士　松井秀三郎　深山義道

東京灣ニ於ケル海苔場ノ海水ノ窒素及ヒ其他ノ成分ニ就キテ　農學士　松井秀三郎

魚肉ノ研究　農學士　松井秀三郎　深山義道

寒天ニ混入セル砂土ノ鑑別ニ就キテ　農學士　松井秀三郎

寒天原料ノ成分ニ就キテ第一報　農學士　松井秀三郎

鰹節ノ肉眼鑑定ノ標準ノ化學的解釋　農學士　松井秀三郎

鮫假漬ノ際得ラルヽ廢物ニ就キテ　農學士　松井秀三郎

罐詰トセルたらばかに肉ノ黑變ニ於ケル含硫黃物ノ分解ニ就キテ　農學士　松井秀三郎

罐詰トセル蝦肉ノ軟化ニ就キテ第一報　農學士　松井秀三郎　角英悅

まかさトいたぼがきノ比較　農學士　松井秀三郎　角英悅

腹胸獸ノ研究第一報　農學士　松井秀三郎　角英悅

小蝦罐詰製造調査及ヒ軟化ノ原因及防止策　農學士　松井秀三郎　藤近辰雄

第四冊（大正五年九月）

鰮油漬試驗報告　小野辰次郎　鈴木直辰

第五冊（大正五年十二月）

淡水飼養魚類ノ白點病調査報告　理學士　石井重美

水邦產蛭ノ「ふぃらりあ」病製藥　理學士　石井重美

赤潮ニ就テ　理學博士　岡村金太郎

海水中ニ溶解セル酸素瓦斯含量ニ就キテ　水產學士　酒井順三郎

赤潮海水中ノ酸素ニ就キテ　水產學士　酒井順三郎

海苔肥料試驗第二報　理學博士　中野治房　東道太郎

其他ノ刊行物

獨伊墺漢水產魚視察報告　日暮忠

日本鮭鱒養殖誌　松原新之助

水產講習所圖書目錄（明治四十五年二月）

海產物ノ化學的研究（代謄寫）　農學博士　鈴木梅太郎

原種改良論（代謄寫）　理學博士　石川千代松

魚類冷藏法　矢野寶

海獸魚皮鞣製法　谷村重忠

漁業基本調査報告（第四冊）

浮游生物檢索圖解

歐米鹹水產殖視察報告　理學士　妹尾秀實

大正六年七月廿五日印刷
同　七月廿八日發行

水産講習所

印刷者　金澤求也
東京市麹町區紀尾井町三番地

印刷所　元眞社
東京市麹町區紀尾井町三番地

296
別庫
3

終